

2020年度 みえ県民交流センター指定管理業務

# 実績報告書

対象期間:2020年4月1日～2021年3月31日

2021年5月31日

みえ県民交流センター指定管理者

特定非営利活動法人みえNPOネットワークセンター





# 2020年度みえ県民交流センター指定管理業務 実績報告書 目次

## 特定非営利活動法人 みえNPOネットワークセンター

2020年度指定管理業務を終えて	3
指定管理業務事業報告書(2020年度分)	4
管理業務に関する自己評価	8
2020年度会計報告	10
<b>【運営業務】</b>	
(1)センターの総合案内	11
(2)視察・見学・出前講座等への対応	11
(3)インターンシップへの対応	12
(4)市民活動に関する相談	12
(5)センター施設等の利用許可	13
(6)センター機器・備品等の貸出に関する業務	14
(7)図書資料の貸出に関する業務	15
(8)市民活動団体情報ファイルの管理・閲覧業務	15
(9)センター内の掲示物等の管理に関する業務	16
(10)日常の管理業務	16
<b>【施設管理】</b>	
(1)利用者サービス向上につながる独自の提案について	17
(2)利用者の声の把握と管理運営への反応方策について	18
<b>【事業】</b>	
(1)市民活動促進及び国際化の推進のための業務について	
①市民活動促進のための業務	
A.NPOグレードアップセミナー	20
B.NPO相談	22
C.「市民活動・NPO月間」の実施	23
D.「協創」シンポジウム	25
E.三重ユース事業	26
②国際化推進のための業務	
A.多文化共生・理解イベント	27
B.NGOから学ぶ世界情勢	28
C.国際関係書籍の紹介	29

D.海外の課題に対応する救援募金設置	.....	30
(2)市民活動に関する情報の受発信に関する業務について		
①ホームページの設置及び管理運営		
ホームページのリニューアル、開設、更新	.....	31
②情報誌の発行及び配布		
市民活動ボランティアニュースの発行・配布	.....	32
③団体情報データ調査及び活用		
各市町中間支援団体等との連携による情報収集と調査・分析データの更新	.....	33
(3)中間支援団体等の機能向上・連携交流に関する業務について		
①県内の中間支援団体等の機能向上・連携交流		
A.県内中間支援団体の基盤強化	.....	36
B.県内中間支援団体の情報交換・連携交流	.....	37
②県外の中間支援団体との連携事業		
A.全国の先進事例の調査・研究	.....	38
B.県外中間支援団体との連携事業	.....	39
(4)「みえ災害ボランティア支援センター」の運営に関する業務について	.....	42

**【成果目標の達成】**

(1)センター来館者数	.....	44
(2)事業参加者の満足度	.....	45
(3)図書コーナー利用の増加 NPO/NGO、国際関連の図書の貸出数	.....	46
(4)市民活動・NPO月間に関わる連携協力団体の数	.....	47

**【添付資料】**

- ①【2020年度】みえ県民交流センター事業計画
- ②【2020年度】みえ県民交流センター来館者実績
- ③【2020年度】みえ市民活動ボランティアセンター利用料収入(年間)
- ④【2020年度】実施した主な事業チラシ
- ⑤【2020年度】施設利用に関する利用者アンケート結果報告書
- ⑥【2020年度】第1回みえ県民交流センター外部委員会
- ⑦【2020年度】第2回みえ県民交流センター外部委員会
- ⑧【2020年度】相談等記録集計(2020年4月1日～2021年3月31日)
- ⑨【2020年度】新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による影響実態把握のための緊急アンケート調査
- ⑩【2020年度】三重県任意団体向け災害アンケート

## 2020年度指定管理業務を終えて

みえ県民交流センター指定管理者  
特定非営利活動法人  
みえNPOネットワークセンター  
代表理事 松井真理子

2020年度は、新型コロナウイルスによる波乱の幕開けとなりました。多くの市民活動団体が活動の休止や制限を余儀なくされる中、早くも4月末には三重県とともに、各団体の皆様に、コロナの影響に関する緊急の実態調査を行わせていただきました。大変な時期にもかかわらず、多くの皆様にご協力をいただいたことを心より御礼申し上げます。

調査では、団体自身が受けている影響と、団体が支援している人々への影響の2つの視点の設問としました。市民活動の背後には多くの利用者の皆様がおられ、市民活動の重要性は、まさにこのことにあるからです。調査の結果、92.2%の団体が影響を受けており、84.0%の利用者もまた影響を受けていました。この結果を受けて、県では市民活動団体に対してコロナ関連の相談、Zoomなどのオンライン活用研修や補助事業の予算化をしていただきました。また、これらの事業は県内5地域の市民活動センターと連携して実施しました。県との協働や、当団体が持つ全県的な中間支援組織のネットワークによって、県内の市民活動団体の皆様のために貢献できたことを喜ばしく思います。

恒例となった12月の「みえNPOグランプリ」も、今年度はコロナ特別企画としました。県内各地から「新型コロナウイルス感染拡大渦中だからこそNPOができること」の企画提案を募集し、アイデアを競いました。プレゼンテーションも初めてオンラインで実施し、県内各地の遠隔のNPOが、逆に参加しやすくなってお互いに元気づけられました。例年実施している多文化共生イベントも、今年度はオンラインによる開催となりましたが、フィリピン・パラオの現地の高校生とも交流することができ、コロナに翻弄されつつも、市民活動の新しい可能性も見えたように思います。

最後になりましたが、今年度は新たに新海洋子センター長が就任しました。長年NPO/NGO活動の経験を生かし、三重県全体の市民セクターの強化と多様な主体との「協働」に特に力を入れています。2018年度、2020年度と2回にわたって実施した県内市民活動団体の「災害に関する活動調査」の結果を生かし、今後はより市民活動の「見える化」を図っていきたくと意気込んでいます。施設管理においてもコロナウイルス感染防止対策を万全にし、安心してご利用いただけるよう、スタッフ一同誠意をもって取組んでまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

# 指定管理業務事業報告書(2020年度分)

指定管理者の名称:NPO法人みえNPOネットワークセンター

## 1.管理業務の実施状況及び利用状況

### (1)管理業務の実施状況

#### ①センター管理運営事業の実施に関する業務

##### <管理運営>

- センターの総合案内の役割を担った。
- NPOの始め方に関する講座や中間支援団体向けの交流会やセミナーなど、県民がNPOに関わるきっかけづくりとなる講座を実施した。
- 市民活動促進及び国際化を促進するためのセミナーやイベントを実施し、入場者数、参加者満足度の点で高い評価を得た。
- 県民への市民活動に関する情報の発信のために、ホームページをリニューアルし、Facebook、Twitterなど既存のSNSとの連動を強化するなど充実したものを目指した。
- 交流スペースAおよびミーティングルームの利用は548件、備品機材利用は223件だった。

##### <事業>

- 「みえ市民活動・ボランティアニュース」は3ヶ月に1回(各10,000部)発行し、より県民に満足いただけるようデザインなどの工夫を行なった。特にコロナウイルス感染症拡大に関する調査やコロナ禍での事業紹介は来館できない方たちに向けて貴重な情報発信の機会になった。
- 市民活動・NPO月間では4回目となる「三重NPOグランプリ」を開催し、コロナ禍に伴う社会の変化に対応する『NPOだからこそできる前向きな提案』を持ち寄った。
- グレードアップセミナーは1回目は「新型コロナウイルス感染症拡大対策に関する緊急アンケート」の結果を共有し今だからできる中間支援団体の役割について、2回目は災害をテーマに中間支援団体の役割の確認をした。
- NPO相談事業では「NPO入門セミナー」「NPO法人設立準備講座」を開催した。全てオンラインでの開催となったが、例年と同様に高い満足度を得られるセミナーとなった。
- 多文化共生理解イベントでは、Zoomを利用してオンラインで開催し、フィリピン・パラオ・島サミットの紹介をし、現地の高校生など様々な人との交流を図ることができた。
- 災害事業では、任意団体へ災害に向けてどのような活動を行なっているのか、また、災害時にどのような活動ができると普段考えているのかを調査した。
- Mナビなどのデータベースに関しては、昨年度と同様に団体に情報更新の依頼を行なっている。
- 外部委員会を設置し、年2回意見交換を行い頂いた意見をもとに改善を行なった。
- 施設の利用者アンケートを行なった。

#### ②施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

- 利用者が安心して気持ちよく利用できるように、机・椅子などの日常的な清掃・消毒、備品の不具合への対応、館内の温度管理、コロナウイルス感染症拡大を防止するため体温計・消毒設置など環境整備を行なった。
- 人目につみにくい場所やトイレなどの安全対策に重点をおき、施設の適切な管理及び維持に務めた。
- 機器・備品に所定の使用料金を設定し、施設の予約と同時に申し込みを受付し適正に管理・貸出を行なった。貸出備品の不具合に気を配り、返却時には必要部品が揃っているか確認した。
- 図書コーナーの蔵書の定期的な整理を行なった。また定期的に新刊図書の補充もしている。

### ③県施策への配慮に関する業務

- 性別や年齢にとらわれない業務分担をすることで、各人の個性や能力が十分発揮できるよう配慮した。
- 環境ISO14001、三重県の環境基準に基づき、節電、リサイクル、再生紙の利用など業務の中で環境に配慮し取り組んだ。
- 給茶機の設置、事務所の整理、特別休暇を定める、残業のない仕事量など、職員の働きやすい環境づくりに勤めた。
- みえ県民交流センター内に設置された「みえ災害ボランティア支援センター」に協力し、幹事会などに参加した。災害及び事故等の不測の事態に備えて、消防機器や避難誘導路の確認をし、事務局会議では独自に防犯対策講座を実施した。
- みえ県民交流センター条例を遵守し、みえパートナーシップ宣言、三重県多文化共生社会づくり指針に配慮した。

### ④情報公開・個人情報保護に関する業務

- 三重県情報公開条例に基づき、公開に関して「情報公開規定」を整備し、確実に対応できる体制を作った。
- 令和2年度は開示請求はなかった。
- 基本協定書第12条に基づき、センター管理に関して知り得た情報を適切に取り扱い、個人情報保護されるよう配慮した。

### ⑤その他の業務

- 特になし。

## 1.管理業務の実施状況及び利用状況

### (2)施設の利用状況

#### ①みえ県民交流センター(指定管理対象施設のみ)の利用者数

【目標】63,000人

【実績】28,059人

#### ②施設別実績内訳

交流スペース・ミーティングルーム他 26,680人

イベント情報コーナー 1,379人

## 2.利用料金の収入の実績

利用料金収入額(2020年度実績)

2020年度実績 773,270円

## 3.管理業務に関する経費の収支状況

収入の部			支出の部		
	2019	2020		2019	2020
指定管理料	30,188,000	31,343,250	事業費	29,064,214	27,628,014
利用料金収入	1,230,060	773,270	管理費	1,524,825	1,504,050
その他の収入	1,160,503	758,422	その他の支出	1,768,946	2,067,122
合計(a)	32,578,563	32,874,942	合計(b)	32,357,985	31,199,186
収支差額 (a)-(b)	220,578	1,675,756			

※参考

利用料金減免額 79,280円



## 4.成果目標とその実績

### ①成果目標

- |                                   |           |
|-----------------------------------|-----------|
| 1.センター来館者数(指定管理対象施設への来館者に限る)      | 63,000人/年 |
| 2.事業参加者の満足度                       | 85%以上/年   |
| 3.図書コーナーの利用の増加。NPO/NGO、国際関連の図書の貸出 | 120冊/年    |

### ②成果目標に対する実績

- |                                   |           |
|-----------------------------------|-----------|
| 1.センター来館者数(指定管理対象施設への来館者に限る)      | 28,059人/年 |
| 2.事業参加者の満足度                       | 88.1%以上/年 |
| 3.図書コーナーの利用の増加。NPO/NGO、国際関連の図書の貸出 | 157冊/年    |

### ③今後の取り組み方針

#### 1.センター来館者数について

2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、利用制限をしたため大幅に来館者数が減った。検温・消毒、パーティションの貸出など感染症対策をさらに整えて安心できる空間にしたい。また、オンラインセミナーやオンラインミーティングの活用など、来館をしなくても学びやコミュニケーションを取れる方法を普及していきたい。

#### 2.事業参加者の満足度について

事業参加者の満足度は全体的に高い数字を出している。今後も参加者にとって必要な講座等を開催していく。

#### 3.図書コーナーの利用の増加。NPO/NGO、国際関連の図書の貸出について

NPOの分野の書籍だけでなく、日常の業務の悩みに役立つものも揃えていき利用者を増やしていきたい。三重県で最もNPO関連の書籍が揃っている市民活動センターを目指す。

## 5.管理業務に関する自己評価

### ①管理業務の実施状況

【評価】2019年:B / 2020年:B

- センターの管理・運營業務に関しては、外部委員会の開催や利用者アンケートを実施し、利用者からの声を反映するようにした。
- センターの管理業務に関しては、施設、機器、備品について引き続き良好な状態で管理し、故障した備品は新たに購入した。危機管理体制、安全面、個人情報管理面についても事務局で定期的に体制を確認し、支障なく運営することができた。
- 施設内へのいたずら抑止のために、定期的に化粧室や給湯室を見回り、場合によっては警備員、警察と連携をとるなどし、利用者にとって安心、安全に利用できる場所になるよう努めることができた。また、コロナウイルス感染症拡大防止に関する掲示物を作成し、感染症対策への意識を高めることができた。
- 台風での休館や、コロナウイルス感染拡大防止のための利用制限について、掲示やホームページなどで早めに利用者への周知ができた。
- コロナウイルス感染拡大防止のため、体温計・消毒を設置し登録団体にも使用後に机の消毒をしていたなど、感染防止対策への協力をいただいた。
- 市民活動に関する情報の受発信に関する業務については、Facebook・ツイッターのフォロワーは1年で186名増え、SNSを積極的に更新することで、新鮮な情報を県民に届けることができた。

### ②施設の利用状況

【評価】2019年:B / 2020年:B

- 市民活動団体等の利用団体数は2,355団体だった。昨年度に比べて937団体減となる。これは4月からの緊急事態宣言を受けて利用制限をしたためだと思われる。
- これまで、ゴールデンウィークやお盆などの長期休暇、祝祭日に関してほとんど利用のない日もあったため、今年度は5月2日(土)、5月3日(日・祝)に開館日時変更施行に伴う休館を行った。
- 7月1日(水)から9月30日(水)まで、開館時間の見直しのため、開館時間を平日は9時30分から21時。土日祝日は9時から18時までとした。
- コーヒーサービスコーナーではコーヒーのほかにペットボトル飲料を販売し、三重県内のNPOへの寄付となるコーヒー寄付金への原資とし7団体へ寄付をし、利用者から高評価を得た。

### ③成果目標及びその実績

【評価】2019年:B / 2020年:B

- センター来館者は、目標値の年間63,000人に対して28,059人だった。
- 事業参加者の満足度は85%以上/年の目標に対して88.1%だった。
- 図書コーナーの利用の増加。NPO/NGO、国際関連の図書の貸出数は120冊/年の目標に対して、157冊だった。1年間で45冊の本を新しく入れた。
- NPO表彰制度「第4回三重NPOグランプリ」を開催し、38団体と連携した。

#### ④総括的な評価

利用者数はコロナウイルス感染症拡大に伴い達成することができなかった。ほとんどの主催事業についてオンライン開催となった。通常の学び+オンラインスキルを身に着けていただくことができ、概ね好評をいただいている。施設管理については、引き続き、コロナウイルス感染症対策を徹底と、事故が起きぬよう老朽化した備品の確認に努め、安心してご利用いただける施設を目指していきたい。

「NPOグレードアップセミナー」では、コロナウイルス感染症拡大の経験と、防災の視点からあたらめて中間支援組織の役割を各地域の団体のみなさんと確認をすることができた。「協創シンポジウム」では、三重県が創設した「NPO活動再開支援事業補助金」の採択団体のみなさんに登壇をいただき、コロナ禍での活動を継続するための工夫や課題などを共有いただき登壇者と参加者で協働について学ぶことができた。

「多文化共生理解イベント」では、Zoomを利用してオンラインで開催し、フィリピン・パラオ・島サミットの紹介を行った。さまざまな年代や地域の方に参加をいただき他国の文化を理解をより一層深めることができた。

新型コロナウイルス感染症拡大により影響を受けたNPO・市民活動団体へ適切な支援や対応の検討を行うために、三重県内の中間支援組織と連携をし実態把握を行った。県内5か所の市民活動センターでの相談窓口の設置、オンライン講座、NPO再開支援事業補助金の設置へとつながった。次年度も各地の中間支援団体や行政を通して地域のニーズを拾い上げていきたいと思う。

全体的な総括として、コロナ禍で市民活動団体や支援を必要とされている弱者の方の課題が浮き彫りになった。次年度以降は、災害事業を通じて地域の中間支援や行政の現状について更に丁寧な情報収集を重ね、三重県のNPO、中間支援機能の向上の一助を担いたい。

# 2020年度会計報告

## 令和2年度「指定管理者に係る事業会計」収支計算書 令和2年4月1日～令和3年3月31日

みえ県民交流センター指定管理者  
特定非営利活動法人  
みえNPOネットワークセンター

(単位:円)

科 目	金 額		
取 入 項 目	1. 指定管理料		31,343,260
	2. 利用料収入		773,270
	3. 事業収益		
	(1) 施設の利用・管理に関する事業収入	180,250	
	(2) 市民活動促進及び国際化の推進に関する事業収入	90,611	
	(3) 市民活動に関する情報の受発信に関する事業収入	287,000	
	(4) NPO支援組織の連携交流に関する事業収入	19,880	
	計		577,241
4. 受取受託金		170,582	
5. 受取寄付金		10,000	
6. 受取利息		145	
7. 雑収入		454	
収入合計			32,674,942
支 出 項 目	1. 事業費		
	(1) 施設の利用・管理に関する事業支出		
	① 報償費	636,689	
	② 修繕費	51,390	
	③ 新聞図書費	217,571	
	④ コピー機等のリース料	19,701	
	⑤ 消耗品費	249,160	
	⑥ 通信運搬費	575,533	
	⑦ 旅費交通費	3,000	
	⑧ 保険料	77,470	
	⑨ 保守料	135,337	
	⑩ 備品代	141,655	
	⑪ 支払手数料	102,740	
	⑫ その他費用	0	
	計	2,210,246	
	(2) 市民活動促進及び国際化の推進に関する事業支出		
	① NPO月間費用	199,346	
	② NPO相談	5,580	
	③ グレードアップセミナー	21,700	
	④ 三重ニュース	700	
	⑤ 多文化共生	32,604	
	⑥ 協創シンポ	147,137	
	⑦ NGOから学ぶ	63,310	
	⑧ 国内外の課題に対する情報収集	10,000	
	計	480,377	
	(3) 市民活動に関する情報の受発信に関する事業支出		
① 情報誌の発行・配布	2,327,464		
② 団体登録費	180,198		
計	2,507,662		
(4) NPO支援組織の連携交流に関する事業支出			
① 中間組織基盤強化	0		
② 中間支援組織連携交流	0		
③ 先進事例調査・研究	38,949		
④ 県外中間支援団体連携	1,000		
計	39,949		
(5) 災害ボランティア支援事業支出			
① 支援センター設置	0		
② ネットワーク費用	22,324		
③ 寄付金	0		
計	22,324		
(6) 人件費			
① 給料手当	20,026,228		
② 法定福利費	2,120,366		
③ 福利費	188,762		
④ 研修費	32,100		
計	22,367,456		
事業費計		27,628,014	
2. 管理費			
(1) 人件費	1,268,360		
(2) 会議費	224,600		
(3) 雑費等	11,090		
管理費計		1,504,050	
3. 租税公課		1,494,822	
4. 法人税、住民税及び事業税		572,300	
支出合計		31,199,186	
収支差額		1,675,756	
前期繰越金		2,690,521	
次期繰越金		4,566,277	

## 【運營業務】

### 施設の利用に関する業務について

#### (1) センターの総合案内

##### 概要

- みえ市民活動ボランティアセンター、三重県社会福祉協議会三重県ボランティアセンター、三重県環境生活部ダイバーシティ社会推進課NPO班、三重県環境生活部ダイバーシティ社会推進課多文化共生班、公益財団法人三重県国際交流財団、三重県旅券センター、おしごと広場みえ、若者就業サポートステーション・みえ等の多種多様な機関が併設された施設であり、それらの各機関の総合案内の役割も持っている。
- 利用者からのお尋ねに対し、適切で丁寧な案内を心がけた。
- 利用者へコロナウイルス感染症防止対策の協力を積極的に行った。

##### 実績報告

- みえ県民交流センターの3つ折りパンフレットを定期的に最新の情報に更新し常備した。
- みえ市民活動ボランティアセンター10倍活用マニュアルについても、UDフォントへの切り替えや最新情報への更新をし、より利用者の方に見やすくなるよう工夫をした。
- 観光案内や道案内から生活相談まで、市民活動やNPOには関係の無い相談も多数あったがスタッフは利用者からのお尋ねに対して適切な案内をできるよう心がけた。また、相談内容をスタッフ会議で共有するなどして、質の高いサービスを提供できるように努めた。
- 施設に関して利用者から要望があった場合、内部で協議の上改善に努めた。

##### 課題

コロナ禍により利用者が減少している。センターへの掲示だけではなくオンラインなどを活用しより充実した情報提供を仕組み化していく必要がある。

#### (2) 視察・見学・出前講座等への対応

##### 概要

- みえ県民交流センターおよび、みえ市民活動ボランティアセンターの役割を理解してもらうために見学の受け入れのほか、依頼があればボランティアに関する講座等を実施する。

- なし

視察・見学・出前講座を実施していることの広報ができていない。

### (3) インターンシップへの対応

#### 概要

■ みえ県民交流センター指定管理者みえNPOネットワークセンターもしくは、みえ市民活動ボランティアセンターへのインターンシップ(職場体験、就業体験)を受け入れた。

#### 実績報告

総勢3名の受入をした。

- 2020年8月1日～9月30日 2名 大学生の受入
- 2021年2月1日～3月31日 1名 大学生の受入

#### 課題

担当者以外のスタッフとインターンが関わりを持つ機会が少なかった。

### (4) 市民活動に関する相談

#### 概要

■ センターに寄せられる様々な相談、意見、苦情などの内容と窓口での相談を対応した職員がその都度データベースに記録し、職員間で共有・検討した。

#### 実績報告

- 来館や電話等による市民活動に関する相談について、随時受付対応した。
- 専門的な相談については、必要に応じて専門機関や同フロアの部署にも相談しながら対応した。
- 相談内容とその際の対応については、相談記録としてスタッフ全員が共有できるようデータ化し、月1回のスタッフ会議でケース検討を行なった。相談記録は毎月、NPO班と共有している。

#### 課題

相談にはその都度スタッフ間で共有・検討して真摯に対応したが、相談内容が多岐に渡るため、さらに幅広い対応ができるように、スキルアップや入居団体などとの連携を強化していく必要がある。

## (5) センター施設等の利用許可

### 概要

■ 交流スペース、ミーティングルーム2部屋、イベント情報コーナーの貸出業務を行なった。利用料金を設定し、適正に料金收受業務を行った。

### 実績報告

施設利用回数													単位:回
施設名称	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
交流スペースA(無料)	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	3	7
交流スペースA(有料)	0	0	2	2	0	3	4	2	3	3	4	0	23
ミーティングルーム(無料)	0	0	0	2	2	2	1	2	1	2	3	3	18
ミーティングルーム(有料)	26	9	48	56	41	43	42	49	45	35	54	52	500

施設利用料収入													単位:円
施設名称	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
交流スペースA	0	0	2,480	2,170	0	3,100	7,750	930	5,890	3,410	6,510	0	32,240
ミーティングルーム	20,880	7,130	52,520	66,650	49,290	45,880	49,600	58,900	72,960	49,480	66,820	63,190	603,300
合計	20,880	7,130	55,000	68,820	49,290	48,980	57,350	59,830	78,850	52,890	73,330	63,190	635,540

### 課題

コロナウイルス感染症防止のため、席を離していただく・飛沫防止のパーティションを使っただく・「黙食」のご協力をいただくなどのお声掛けをしているが、まだまだ感染防止の徹底ができていない。今後も掲示やお声掛けの方法などに工夫を重ねていく必要がある。

## (6) センター機器・備品等の貸出に関する業務

### 概要

■ みえ市民活動ボランティアセンターが所有する機器・備品等に使用料金を設定し施設の予約と同時に申し込みを受付、適正に管理・貸出を行なった。

機材・備品名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
紙折機	1	0	1	2	0	1	0	1	0	1	1	0	8
テレビ・VHS/DVDデッキ	0	0	3	5	1	2	1	1	1	0	1	1	16
有孔パネル・布ボード	0	0	2	2	0	0	4	8	0	0	7	24	47
プロジェクター	0	0	0	5	3	4	7	4	4	1	2	6	36
スクリーン	0	0	3	4	3	4	4	1	9	2	7	3	40
ワイヤレスマイクセット	1	0	3	1	1	2	3	1	2	0	5	5	24
印刷機	12	11	15	10	10	9	8	13	15	14	11	16	144
製本機	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大型プリンター	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2

機材・備品名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
紙折機	450	0	450	900	0	450	0	450	0	450	450	0	3,600
テレビ・VHS/DVDデッキ	0	0	1,350	2,250	450	0	450	450	450	0	450	450	6,300
有孔パネル・布ボード	0	0	900	0	0	0	1,350	3,600	0	0	2,700	450	9,000
プロジェクター	0	0	0	1,350	900	1,350	2,700	1,350	1,350	450	0	1,800	11,250
スクリーン	0	0	1,350	900	900	1,350	1,350	450	3,600	900	2,250	450	13,500
ワイヤレスマイクセット	450	0	1,350	450	450	450	900	450	450	0	1,350	1,350	7,650
印刷機	7,590	10,440	10,050	11,920	8,480	8,140	6,210	9,490	15,450	5,680	5,450	7,570	106,470
製本機	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大型プリンター	0	0	0	0	0	0	0	1,040	0	2,220	0	0	3,260

### 実績報告

■ 不調が続いている機材や古い機材は廃棄した。

### 課題

不調の備品がまだ多くあるため、今後も定期的に作動チェックなどを行い、使用不可のものの廃棄を・修理行っていく必要がある。



## (7) 図書資料の貸出に関する業務

### 概要

- 図書資料の充実に努めるとともに、閲覧・貸出業務についても利用者の利便性を適正に行なった。

### 実績報告

- 3ヶ月に1回平均13冊、スタッフのリクエストを元に新着書籍を購入し専用コーナーを設置した。
- 新着書籍に関して看板や情報誌READERに掲載し、QRコードによって詳細な情報を参照できるようにした。
- 施設の出入口付近に本棚を移動し、閲覧しやすくなるように工夫した。

### 課題

今年度は、国際理解分野の書籍の入手が少なかった。国際社会、国際理解、多文化共生をテーマにした書籍を意識して増やす。

## (8) 市民活動団体情報ファイルの管理・閲覧業務

### 概要

- 三重県内の市民活動・ボランティア団体、NPO法人、全国のNPO支援センターを中心にイベントのチラシや情報誌などを配架をした。Mナビにて登録団体が独自でイベント情報などを掲載する。

### 実績報告

- 登録団体がMナビを活用することで、最新情報の掲載が可能になった。また、これまではスタッフが、郵送されるチラシや新聞記事を確認していたため拾い切れていなかった情報を、登録団体が自ら掲載することで幅広く公開することができるようになった。

### 課題

Mナビに掲載する情報のさらなる充実を図り、登録団体へ情報の掲載を働きかけていく必要がある。

## (9) センター内の掲示物等の管理に関する業務

### 概要

- 県内外から寄せられるイベント情報、助成金情報等のチラシやポスターを日常的に整理・管理した。

### 実績報告

- 期限切れの掲示物が残ることがないように、日付印を押し毎日チェックした。
- イベント情報コーナーでは、入居団体によって掲示する場所を区別しより見やすいように改善した。
- 助成金の掲示板では、助成金・補助金情報を提供し団体の資金づくりの機会を提供した。
- ボランティア情報を来館者に見やすいように入り口近くに設置した。

### 課題

- 宗教・政治関連・営利目的のチラシは基本的に設置を断っているが、時々無断で置かれていることがあるため、チラシ配架の仕組みを検討する必要がある。

## (10) 日常の管理業務

### 概要

利用者が快適に利用できるように、センター内の整理整頓、掲示物の確認、館内の温度管理等、公設のセンターとして適切な管理に努めた。

### 実績報告

- 館内の設備点検・清掃
  - ・館内の備品の整理整頓、清掃、不具合の確認
  - ・利用者の、使用後の設備、備品の点検
  - ・蛍光灯切れや館内のゴミの速やかな対応
  - ・人目につきにくいトイレや給湯室の安全確認(随時)
  - ・開館閉館のセキュリティ管理、チェック表による点検
  - ・貸出コピー機のインクなど、消耗品の在庫チェックと手配
  - ・新型コロナウイルス感染症防止のため、体温計・消毒の設置と定期的な机などの消毒、換気
- 節電への取り組み
  - ・館内の温度管理(三重県庁環境方針に基づき夏季26度以上、冬季22度以下を基準とし、その時々に応じて調整)をし、こまめな消灯を心がけるなど、節電に努めている。
  - ・昨年度に引き続き、蛍光灯の間引きを行なっている。

### 課題

入り口のドアを解放しているため、特に夏季・冬季の温度調整が難しいことへのご理解をいただくために丁寧な説明が必要である。

## 【施設管理】

### (1) 利用者サービス向上につながる独自の提案について

#### ①施設・機器・備品等の管理業務全般の基本的な考え方

- 閉館日は12月29日～1月3日としている。
  - 毎日の開館時間は午前9時～午後10時までとした。
  - 過去3年間の1時間当たりの平均利用団体数が他の時間帯の約4分の1から2分の1以下という状況を鑑み開館日時の変更を試行した。
- (1) 平日 現状:9時から22時 試行期間:9時30分から21時  
(2) 土日祝日 現状:9時から22時 試行期間:9時から18時  
(3) 試行期間 2020年7月1日(水)から年9月30日(水)

#### ②緊急事態等を想定した危機管理体制の整備

- 危機管理マニュアルを作成し、県に提出した。
- 緊急時に迅速に対応できるよう、スタッフの緊急連絡網を整備した。
- アスト防災センター、駅前交番、消防署への連絡手段を整理し、入居団体で把握した。
- 救急救命、防災訓練、避難訓練などの研修や訓練に参加した。

#### ③利用者の安全確保・事故防止・危険箇所等の発見やその対応

- 利用者の安全の確保に配慮し、目配りをした。
- 機器、備品等の使用後の確認、点検を行なった。
- 施設内の人目につきにくい場所を中心に定期的に巡回し、危険箇所の早期発見に努めた。
- 地震対策として棚の上に固定器具を設置している。

#### ④個人情報保護対策

- 利用者の個人情報やセミナー参加者名簿等については、外部へ流出や目的外の使用をしないように徹底した。
- 相談対応の記録や個人情報などの部外秘情報や、裏紙の使用についても外部に流出しないようにした。

#### ⑤コーヒーサービスコーナーの設置

##### ■ 概要

みえ県民交流センター内にコーヒーサーバーを設置し1杯100円以上の寄付で飲んでいただき、その寄付金全額(必要経費を除く)を市民活動団体の活動支援金として団体に還元している。  
今年度は審査会・コーヒー寄付金利用者投票などを行い、7団体(1団体8万円)に寄付をした。

## (2) 利用者の声の把握と管理運営への反応方策について

### ①利用者アンケート

#### ■ 概要

利用者の率直な意見・提言・要望等をお聞きし、センターの運営の改善・向上の参考にしていく。結果は集計、分析し利用者に公開している。

#### ■ 事業実績

名称:2020年度施設サービスに関する利用者アンケート  
期間:2020年10月1日～10月31日  
回収数:39団体 213人

#### ■ 課題

アンケートに回答した利用者の大半はサークル活動や会議等での施設利用を目的とした来館者だったため、ホームページや情報誌などのサービスについて「知らない」「利用したことがない」等の意見が多かった。「場所の利用」以外の機能を知って利用していただくためにも、情報発信をより一層充実させ、魅力的なセンターを作り上げていかなければならない。

### ②ご意見箱の設置

#### ■ 概要

年間を通じて、市民活動団体などのNPO団体が施設をより利用しやすくするために、自由な意見をいただけるように「ご意見箱」を設置し、投書のあった質問については回答し速やかに館内に貼り出した。

#### ■ 事業実績

2件/年

#### ■ 考察

コロナウイルス感染症拡大の影響により、利用者が少なかったためご意見箱は備品のご意見2件に留まった。多様な利用者が活動する場であるため、今後も利用者にごまめな声掛けなど施設利用に関し丁寧に耳を傾けていく必要がある。

### ③外部委員会の実施

#### ■ 概要

利用者サービス向上のため年2回、外部委員会を開催した。  
施設利用に関するハード・ソフト面について忌憚なき意見交換を行なった。

#### ■ 事業実績

第1回:2020年9月25日(金)  
第2回:2021年2月19日(金)

外部委員(順不同)

三重森林インストラクター会 松岡俊秀氏  
めいわ市民活動サポートセンター 世古口文子氏  
津市議会議員 岩脇圭一氏  
東大手の会 青木 研輔氏

オブザーバー

三重県生活環境部ダイバーシティ社会推進課多文化共生班 副課長 小川知佐子  
 三重県生活環境部ダイバーシティ社会推進課NPO班 班長 牧田 拓巳

議事録は別紙参照

#### ④職員の研修参加

##### ■ 概要

NPOの知識向上に関する研修などを受講し、日ごろの業務や対応に必要な知識を身につけた。

##### ■ 実績

NO	開催日	講座・研修名
1	2020/4/14	みんなでオンライン会議が上手になる勉強会
2	2020/4/22	経理向け！freeeの経理が語る、バックオフィスのテレワークを成功させるコツ
3	2020/4/23	ファンになる個人を発見し、応援団をつくる「小さな組織の Twitter コミュニケーション」講座
4	2020/5/7	今すぐはじめるテレワーク
5	2020/05/26	組織運営と人間関係に欠かせない「アンガーマネジメント研修」
6	2020/05/27	はじめてのオンラインセミナー
7	2020/7/2	OJTだけでは身に付かない！NPO基礎力が育つ「新任スタッフ研修」
8	2020/8/20	NPO夏期講習～NPO事務力アップセミナー～
9	2020/8/29、30	子育て世代のNPO/NGOバックオフィス業務入門研修2020(1講・2講)
10	2020/9/6	第3回NPOによるICTサービス活用自慢大会 ONLINE
11	2020/9/6	子育て世代のNPO/NGOバックオフィス業務入門研修2020(3講)
12	2020/9/17	NPOのマニュアルづくりオンラインセミナー
13	2020/9/10	不審者対応研修
14	2020/11/13	一般市民向け応急手当WEB講習
15	2020/11/22	年末調整業務の実務
16	2020/12/14	非営利活動のデジタル化を考える
17	2021/1/24	みえ防災塾WEBオープンキャンパス
18	2021/1/26	はじめてみようNPO
19	2021/2/2	コレクティブ・インパクト導入セミナー
20	2021/03/07	四日市大学地域連携フォーラム

##### ■ 課題

研修に参加するスタッフに偏りがある。シフトや業務の都合もあるが、全てのスタッフが主体的に業務やスキル向上のために研修に参加できるように努める。また、研修で学んだ内容を必要に応じて組織に共有・還元できるように報告体制を整える必要がある。

## 【事業】

### (1) 市民活動促進及び国際化のための業務について

事業の名称	①市民活動促進のための業務
	A.NPOグレードアップセミナー

#### <事業計画>

回数	年2回程度
目的	力強い市民セクターの形成
事業計画	NPOや県内各地の中間支援組織が、地域のNPOを支援するために必要な知識や技術を学ぶ講座を開催する。

#### <実績報告>

名称	第1回「今この時に、中間支援組織は社会をどう変えるのか」 第2回「災害が起きたら...中間支援組織はどう動くか」
開催日時/場所	第1回 10月20日(火)14:00~16:00 みえ市民活動ボランティアセンター交流スペースA+オンライン 第2回 3月2日(火) みえ市民活動ボランティアセンター交流スペースA
参加者数	第1回 主に中間支援センター職員と、行政担当者、20名 (会場10名 オンライン10名) 第2回 20名
参加費	無料
結果	【アンケート結果】 第1回 第2回 大変満足...29.4%(5名) 大変満足...61.5%(8名) 満足...64.7%(11名) 満足...38.5%(5名) 普通...5.9%(1名)
事業内容	第1回は「新型コロナウイルス感染症拡大対策に関する緊急アンケート」の結果を共有し、中間支援組織・センターの役割、今後の事業展開について意見を交わした。中間支援組織がいかに協働し、他セクターとNPOをつなぐ役割を果たせるか？またそれぞれの強みを活かしてあえるかなど、これまでにない議論ができた。  また、第2回は第1回のセミナーを踏まえ、NPO法人防災市民会議の山本康史議長から、災害時の支援状況を伺い、災害時のNPOの役割や中間支援団体のコーディネート力が必要であることを認識し、来年度の災害事業への足がかりとなった。
課題	参加者が北部の団体に偏っており、次年度以降災害・防災事業を三重県全域で進めていく上で特に南部の団体との繋がりが課題となった。今回の参加者やMVSC、行政などと情報交換を密にしながら、参画団体の開拓を進めていきたい。

当日の写真



事業の名称	①市民活動促進のための業務
	B.NPO相談

<事業計画>

回数	相談は通年、講座や相談会は年2回程度
目的	行動する県民の増加
事業計画	ボランティア紹介やNPOの運営等の相談に応じる。また法人設立等の講座や会計や労務等の相談会の開催、相談プログラムの作成などを行う。

<実績報告>

名称	①はじめてみようNPO ②1から学ぶNPO法人の設立方法 ③再確認！NPO法人の提出書類
開催日時/場所	①1月26日(火) 13:15～14:45 ②1月26日(火) 15:00～16:30 ③3月9日(火) 13:30～15:00 ※いずれもオンライン開催。
参加者数	①19人 ②21人 ③19人
参加費	①②③各500円
結果	アンケート満足度 ①大変満足...58.3%(7名) 満足...25%(3名) 普通(2名) ②大変満足...41.7%(5名) 満足...50%(6名) 普通(1名) ③満足...66.7%(6名) 普通(3名)
事業内容	講座としては①NPOの基礎、②NPO法人設立時の手続き、③NPO法人の定款変更や役員変更などの書類について学んだ。 参加者からは①「NPOについて知識を整理できた」「市民活動の概念を整理できた」、 ②「事業収益について理解できた」「手続の流れや全体像を掴むことができた」、 ③「必要な内容を知ることができたがペースが速く感じた」「法務局登記手続きが必要となることがわかった」といった声があった。 講座・参加費領収をオンラインで行った。例年と比較して参加者数は減ったが、一方で遠方からや肢体障害者でも受講しやすいため、オンライン開催を希望する声もあった。
課題	昨年度までの課題であった、参加者と講座のミスマッチはなくなった。また、今後オンライン講座が普及していくであろうこと、遠方から参加可能であることも加味し、オンラインを取り入れた講座を前向きに検討していく。 今後は、アンケートから読み取れる参加者の声(「ペースが速く感じた」「会計について知りたい」など)を基に、講座の時間配分や内容などを企画・検討していく。
当日の写真	 



事業の名称	①市民活動促進のための業務
	C.「市民活動・NPO月間」の実施

<事業計画>

回数	予選:11月、本選:12月
目的	行動する県民の増加
事業計画	12月を「市民活動・NPO月間」と設定し、昨年度に引き続き「三重NPOグランプリ」の第3回を、市民活動センター等と連携して県内で取り組む。

<実績報告>

名称	コロナ禍に伴う社会の変化に対応する『NPOだからこそできる前向きな提案』
開催日時/場所	12月5日(土)13:30~16:00オンライン
参加者数	ログイン:41名 審査員:5名 東海ろうきん職員:2名
参加費	無料
結果	<p>【アンケート結果】</p> <p>大変満足...47.6%(10名)</p> <p>満足...33.3%(7名)</p> <p>普通...14.3%(3名)</p> <p>不満...4.8%(1名)</p>
事業内容	<p>桑名・いなべ、四日市、津、松阪、伊勢、名張・伊賀、東紀州、他の8地域のうち、5ヶ所程度でワークショップ(意見交換会)を開催し、コロナ禍に伴う社会の変化に対応する『NPOだからこそできること』の意見交換、分野連携、主体連携による提案を作成し、NPOグランプリに持ち寄った。また、NPOグランプリ後も引き続き各地で提案事業が継続されている。</p> <p>【審査・投票結果】</p> <p>★グランプリ★</p> <p>タイトル:今こそ動き出そう!NPOのつながりが生み出す元気なまち四日市</p> <p>団体名:四日市市なやプラザ</p> <p>☆準グランプリ☆</p> <p>タイトル:桑員子どもと女性の安心ネットワークを創る会</p> <p>団体名:桑員子どもと女性の安心ネットワーク</p> <p>○敢闘賞○</p> <p>タイトル:第10回いせ市民活動フェスティバル開催</p> <p>団体名:第10回いせ市民活動フェスティバル実行委員会</p> <p>タイトル:IT支援強化と情報弱者へのアナログ広報支援</p> <p>団体名:松阪市市民活動センター運営委員会</p> <p>タイトル:できることを自ら探し、実行する</p>


	<p>団体名:ウミガメネットワーク三重</p>
<p>課題</p>	<p>コロナウイルス感染症拡大の影響で、提案募集の期間が短く新たな団体の開拓に至ることができなかった。三重県内全域のNPOが参加しやすい仕組みを作っていく必要がある。 また、提案発表中に音声の不具合が発生するなどのトラブルもあった。リハーサルが当日だったので事前しておく必要がある。</p>
<p>当日の写真</p>	 <p>The image consists of two parts. The top part is a photograph of a meeting room where several people are seated around a table, engaged in a discussion. The room has large windows and modern furniture. The bottom part is a screenshot of a Zoom meeting interface, showing a grid of participants' video feeds and a chat window on the right side with Japanese text.</p>

事業の名称	①市民活動促進のための業務
	D.「協創」シンポジウム

<事業計画>

回数	年1回
目的	「協創」の三重づくり
事業計画	行政、企業、大学、NPO等の協働に関するシンポジウムを行う。

<実績報告>


名称	協創シンポジウム2020 コロナ禍におけるNPO～新しい生活様式を協創する～
開催日時/場所	2021年2月11日(木)14:00～16:00/みえ市民活動ボランティアセンター交流スペースA
参加者数	29名
参加費	500円
結果	【アンケート結果(回答数23)】 大変満足...56.5%(13名) 満足...39.1%(9名) 普通...4.3%(1名)
事業内容	三重県が創設したコロナ禍での活動再開を支援する「NPO活動再開支援事業補助金」の採択団体3団体(NPO法人あおぞらひとつなぎプロジェクト、父子の会、動物福祉ムック王国)をゲストにお招きし、補助金を活用した事業の紹介や登壇者ディスカッション、グループセッションを行った。登壇者ディスカッションでは、コロナ禍での活動で大変だったことや、人との繋がりについてお話しいただいた。グループセッションでは、参加者同士で感想やコロナ禍での協創といったテーマについて意見交換を行った。 登壇者同士が違う分野であったが、コロナウイルス感染症拡大という共通の課題を軸に、補助金の使い方や他分野との繋がることで活動の枠が広がることを実感できた。
課題	今年度初のリアルイベントであったが、参加者が例年より少なかった。コロナ禍で他団体のイベントも後ろ倒しになり、イベントが重なったなどの要因も考えられる。コロナ対策が万全であることをアピールしつつ、開催方法や広報の方法を再検討したい。
当日の写真	

事業の名称	①市民活動促進のための業務
	E.三重ユース事業

<事業計画>

回数	年4回程度
目的	行動する県民の増加
事業計画	18歳～39歳の三重在住、在勤、在学の若者の活動を応援するとともに、講座などの事業を一緒につくりあげていく。

<実績報告>

名称	①SNS安全講座「SNSの落とし穴に注意！」 ②ボランティアニュースへの掲載(鈴鹿中学・高等学校SOM) ③ボランティアニュースへの掲載(皇學館大学ボランティアルーム) ④学生座談会
開催日時	①2020年9月12日(土)13:00～16:00 ②2020年9月25日発行(ボランティアニュースREADER秋号) ③2021年3月25日発行(ボランティアニュースREADER春号) ④2021年3月23日(火)17:00～19:00
参加者数	①5名 ④4名
参加費	無料
事業内容	SNS安全講座はコロナ禍で外出が減ったことに伴う若者を中心としたSNS利用の増加を踏まえ、SNSを安全に利用するにはどうすれば良いかを考える講座を開催した。 何気ない投稿が日常的に積み重なることで、個人が特定される危険性があること、「いいね」やリツイートなどの共有ボタン1つで他人を傷つけたり、事件に発展する可能性があることなどについて、簡単なゲームを通じて紹介した。 ボランティアニュースREADERには学生が活躍する団体の情報を取材し掲載した。 また、1年間を通じて関わった学生を招いた座談会を実施した。
課題	満足度は高かったが、参加人数は少なかった。今後は参加しやすさ、共感を得られるような話題の提供、当事者意識を持ちやすいテーマなどを検討し、参加者増加に務めたい。 また、学生などの若者が積極的に当センターを利用できるような態勢を整えたい。
当日の写真	

事業の名称	②国際化推進のための業務
	A.多文化共生・理解イベント

<事業計画>

回数	年1回
目的	国際理解と国際貢献活動の促進
事業計画	多文化共生社会の実現に向けて、文化や習慣の違いを知る機会となるイベントや講座等を他団体との連携・協力により開催する。

<実績報告>

名称	妄想世界旅行～島しょ国編～
開催日時／場所	2020年11月21日(土)13:30～16:30／オンライン
参加者数	27名
参加費	無料
結果	【アンケート結果(回答数14)】 大変満足...21.4%(3名) 満足...71.4%(10名) 普通...7.1%(1名)
事業内容	今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、Zoomを利用してオンラインで開催し、フィリピン・パラオ・島サミットの紹介を行った。 フィリピン編では、写真や動画を交えて、地理や文化を紹介していただいた。チャットを利用したクイズもあり、参加者からも好評だった。 パラオ編では、パラオ高校の生徒とJICAパラオ支所に現地から出演していただいた。 文化や日本との関係、環境問題に関する取り組みなどについて紹介していただき、参加者からは現地の方から話が聞けて良かったとの声が多く寄せられた。
課題	通常のイベントよりも参加者管理が難しかった。特に参加者の確認に時間がかかったため、オンライン開催で参加者が多い場合は受付の人員を手厚く、役割分担を詳細にしておく必要があると感じた。 また、昨年度同様10代・20代の参加が少なかった。どの世代にターゲットを合わせるかの検討が必要である。
当日の写真	

事業の名称	②国際化推進のための業務
	B.NGOから学ぶ世界情勢

<事業計画>

回数	年1回
目的	国際理解と国際貢献活動の促進
事業計画	県内外のNGOから、いま世界で何が起きている、それに対してNGOがどのような行動を起こしているのかを学ぶ講座を開催する。

<実績報告>

名称	エチオピアとガーナとわたし
開催日時/場所	2021年3月6日(土) 13:30~16:00 / みえ市民活動ボランティアセンター交流スペースA
参加者数	12名
参加費	1,000円
結果	【アンケート結果(回答数10)】 大変満足...50%(5名) 満足...50%(5名)
事業内容	<p>ホープ・インターナショナル開発機構の松浦史典さん、アフリカ工房の前田大蔵さんをゲストにお迎えし、松浦さんにはエチオピアの安全な水供給と衛生教育について、前田さんにはガーナでの青年海外協力隊の活動や仕事づくりについてお話しいただいた。</p> <p>また、当日はアフリカ工房のシアバターやフェアトレードチョコレートの販売、民族衣装や楽器の展示も行った。</p> <p>参加者からは、アフリカの現状について知ることができて良かった、もっとアフリカについて学びたい、などの感想をいただいた。</p>
課題	<p>参加者同士の交流の時間は、各グループ内に進行役を置いた方が進めやすいという意見があった。</p> <p>また、コロナ禍での現地開催のイベントについては、参加者・スタッフ共に安心して参加できるように感染症対策を十分に行うことが必要だと感じた。</p>
当日の写真	



事業の名称	②国際化推進のための業務
	C.国際関係書籍の紹介

<事業計画>

回数	通年
目的	国際理解と国際貢献活動の促進
事業計画	図書・資料コーナーにて、国際関係の書籍を紹介していく。

<実績報告>

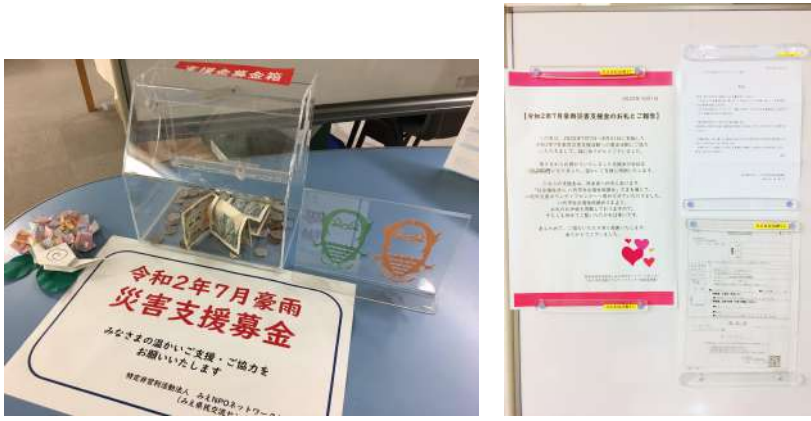
名称	国際関係書籍紹介
開催日時/場所	通年/みえ市民活動ボランティアセンター 図書・資料コーナー
参加者数	104人(年間貸出利用人数)
参加費	45冊(2020年度に購入した新刊数)
結果	157冊貸出(年間120冊目標)
事業内容	様々な種類の書籍が利用者の目につくよう工夫。 妄想世界旅行の開催に併せて、特設図書コーナーを設置。
課題	「ステイホームのおともに」のキャッチコピーを作り、コロナ禍でも図書の貸出を利用する人が減らないように工夫をした。 貸出履歴の傾向から、人気図書を選定してアピール。 課題として、貸し出される図書の区分割合が、「一般」「国際」「問題解決」の3分野だけで、全体の65%となっている点が挙げられる。 今後は「NPO」や「防災」の分野も利用者の目につくよう工夫をしていく。
当日の写真	

事業の名称	②国際化推進のための業務
	D.海外の課題に対応する救援募金設置

<事業計画>

回数	通年
目的	国際理解と国際貢献活動の促進
事業計画	海外の大規模災害、貧困、人権、平和、環境等に関する募金箱の設置を行う。

<実績報告>

名称	令和2年7月豪雨災害支援募金
開催日時/場所	2020年7月7日～2020年8月31日
参加者数	不明
参加費(募金額)	10,000円
結果	社会福祉法人 八代市社会福祉協議会へ、『八代市豪雨災害緊急支援募金』として送金。
事業内容	利用者の方々の目に留まりやすい場所に募金箱を設置し、多くのご協力を頂くことができた。募金は八代市で災害ボランティア活動に用いられたとのこと。
課題	連日の豪雨・災害の報道により、各人の関心が高まり多くの募金が集まった。 課題点は、今回の国内の支援「1回」で終わってしまったこと。 加えて、事業の名称にもあるように、「海外の課題に対応する救援募金設置」は行えなかったため、次年度の目標としたい。
当日の写真	 <p>The left photograph shows a clear plastic collection box on a table with a sign that reads '令和2年7月豪雨災害支援募金' (Disaster Relief Fund for the July Heavy Rain Disaster in Reiwa 2). The right photograph shows a poster with Japanese text and a QR code, providing details about the fund and how to contribute.</p>




## (2) 市民活動に関する情報の受発信に関する業務について

事業の名称	①ホームページの設置および管理運営
	ホームページのリニューアル、開設、更新

### <事業計画>

回数	通年
目的	行動する県民の増加
事業計画	リニューアルしたホームページに、情報を整理しながらデータを入れていき、みえ市民活動センターの利用案内や事業紹介などを行う。

### <実績報告>

名称	みえ市民活動ボランティアセンター ホームページ
開催日時/場所	通年 / <a href="https://www.mienpo.net/">https://www.mienpo.net/</a>
参加者数	期間:2020年4月1日~2021年3月31日 ページビュー:110,250 ユーザー:45,998 ページ別訪問数:79,827
結果	ホームページでは新型コロナウイルス感染症関連情報や主催事業案内を中心に更新を行った。ページビュー・ユーザー・ページ別訪問数はすべて2020年度と比較して増加した。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ページビュー 2019年度:77,618 2020年度:100,250</li> <li>・ユーザー 2019年度:22,044 2020年度:45,998</li> <li>・ページ別訪問数 2019年度:52,195 2020年度:79,827</li> </ul>
事業内容	新型コロナウイルス感染症関連情報や事業案内、事業報告などを中心にホームページ更新を行った。 ホームページだけを更新するのではなく、TwitterやFacebookの更新も同時に行い情報が広く利用者に届くよう努めた。
課題	本年度は、緊急事態宣言下での総会実施や報告書提出に関する情報の掲載などに訪問が集中したためユーザー数が一時的に増加したが、リピーターの獲得には繋がっていないと考えられる。SNSのフォロワーが増加しているため、ホームページと情報を連動させることによるユーザー数の増加を強化する必要がある。
写真	

事業の名称	②情報誌の発行及び配布
	市民活動ボランティアニュースの発行・配布

<事業計画>

回数	年4回発行
目的	行動する県民の増加
事業計画	ニュースを読んだ方がNPOに関心を持ち参画することで地域社会の発展に寄与する。

<実績報告>

名称	ボランティアニュースREADER発行
発行日程	2020年夏号(通巻233号)2020年6月25日発行 2020年秋号(通巻234号)2020年9月25日発行 2020年冬号(通巻235号)2020年12月25日発行 2021年春号(通巻236号)2021年3月25日発行
参加者数	発行部数 各号10,000部
結果	3カ月に1回の季刊誌として各号1300カ所以上に発送した。 特集やSDGsページでは新型コロナウイルス感染症に関するNPOや中間支援組織の動きなど時事に関する内容を掲載した。また、積極的に高校生や大学生の活動取材して紹介した。 本年度も継続して音声版CDの作成、ミーティングルームや館内のテーブルへの設置、セミナー参加者等への配布を行ない多くの方に手に取ってもらえるよう努めた。
課題	本年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、特集の内容も時事に関する内容や事業報告などが中心になった。2021年度は「力強い市民社会」形成に関する内容や災害、三重県のNPOの動きなどより深い内容を掲載していきたい。
写真	

事業の名称	③団体情報データ調査及び活用
	各市町中間支援団体等との連携による情報収集と調査・分析データの更新

<事業計画>

回数	通年
目的	力強いNPOセクターの形成・行動する県民の増加
事業計画	市町の市民活動センターや行政機関等と連携をとることで、県内の市民活動団の情報共有し、活動の実態を把握し、最新の市民活動団体の情報を県民に提供する。昨年度同様、新システムの試用を行いながら、地域の中間支援組織と新たな連携体制を構築していく。

<実績報告>

事業内容	<p>①情報提供元組織 計37(詳細は別紙参照)</p> <p>市民活動センター 11...当センター含む (減;すずかのぶどう)</p> <p>行政組織 5...三重県、鈴鹿市、亀山市、鳥羽市、志摩市 (増;鈴鹿市)</p> <p>社会福祉協議会 21...県および各市町社協 (減;四日市市社協)</p> <p>②更新方法</p> <p>・新システムを利用して更新を実施した組織 計9</p> <p>市民活動センター 6</p> <p>...当センター、いせ、東紀州、いなべ市*、とういん*、めいわ*</p> <p>行政組織 3...三重県、鳥羽市、志摩市</p> <p>※いせ市民活動センターおよび行政組織は当センターが運用代行</p> <p>※上付き文字* の組織は、新システムと下記のExcelを併用</p> <p>・更新団体情報をExcelで受領し、当センターで更新を行った組織 計28</p> <p>市民活動センター 5、行政組織 2、社協 21</p> <p>③更新団体数</p> <p>今年度の更新団体数 計3,116 (昨年度3,030)</p> <p>※更新団体数増加の主要因</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報提供元が、すずかのぶどうから鈴鹿市に変わったことにより</li> <li>Mナビ新規登録数 78増</li> <li>・情報提供元の鳥羽市から、市HP掲載の全ての団体情報の提供を受領し</li> <li>Mナビ新規登録数 40増</li> </ul> <p>&lt;内訳&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の情報提供元に登録している団体数 515</li> <li>・NPO法人数 377 ...ほぼ増減なし</li> <li>(更新の無いNPO法人数 約145、うち活動休止中の法人数 20)</li> <li>・今年度新規に登録した団体数 276</li> </ul>
------	---

	<p>...上記 鈴鹿市、鳥羽市のMナビ新規登録数を勘案すると、例年に比べ相当に少ない。コロナ禍の影響か？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新システムを利用して自ら更新した団体数 803 ...ほぼ増減なし</li> </ul> <p>...情報提供元からExcelで受領し、当センターで更新を行っている団体からの「登録内容が古い。更新の方法を知りたい」との問合せに対し、団体コードとパスワードを連絡して、団体が自ら更新するという事例が数件あり。</p> <p>2. 新システム機能改善(4月～6月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①団体情報登録時の必須入力項目を追加</li> <li>②団体情報更新時の誤操作を行った時のリカバリー処理追加</li> <li>③DB収録項目の文字数制限拡張</li> <li>④助成金情報の入力～検索機能改善</li> </ul>
課題	<p>1. 情報提供地域の拡充</p> <p>現在、名張地域の団体情報提供元無し。 名張市の市民活動センター、社協に協力を求めたい。</p> <p>2. 新システムを利用する情報提供元組織を増やすこと</p> <p>情報提供元組織毎の団体登録手続き(提出書類)・審査方法、団体情報データ項目、公開方法などを把握し、新システムの適用可能性を探る。</p> <p>&lt;来年度作業スケジュール&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①4月 2020年度「データ更新」事業の策定～工程表作成</li> <li>②5月 情報提供元組織への連携依頼 新たに認証されたNPO法人に新規登録を依頼</li> <li>③6月～9月 連携先との個別打合せ...更新実施時期、更新方法、更新作業の役割分担</li> <li>④7月～3月 更新作業実施</li> <li>⑤3月 更新結果の取り纏め</li> </ul>

## (別紙) 2020年度Mナビ 情報提供元別登録内訳

地域 コード	市町	組織 コード	情報提供元名称	コード	直接 連携	間接 連携	Web 更新 適用	2019年 度公開 団体数	2020年 度公開 団体数		新規 登録数	Web更新 団体数	NPO法人 数 (県外含)	
									(提供元の重複) 有り	なし				
00	県	0	三重県	000	○		○	115	104	52	52	0	84	17
		2	みえ市民活動ボランティアセンター	002	○		○	676	647	243	404	24	550	252
		3	三重県社会福祉協議会	003	○(市町村協取り纏め)				15	14	7	7	0	7
01	津市	1	津市											
		2	津市市民活動センター	012	○			365	273	99	174	7	89	39
		3	津市社会福祉協議会	013		○(社協)		245	248	48	200	15	25	9
02	四日市市	2	四日市市なやプラザ	022	○			97	97	46	51	9	33	37
		3	四日市市社会福祉協議会	023	(2020年度 連携なし)			35						
03	伊勢市	1	伊勢市											
		2	いせ市民活動センター	032	○		○	50	44	25	19	0	40	5
		3	伊勢市社会福祉協議会	033		○(社協)		140	158	17	141	22	12	5
04	松阪市	2	松阪市市民活動センター	042	○			128	250	62	188	28	84	34
		3	松阪市社会福祉協議会	043		○(社協)		83	71	16	55	6	5	3
05	桑名市	2	桑名市市民活動センター	052	○			164	164	37	127	2	6	28
		3	桑名市社会福祉協議会	053		○(社協)		98	92	29	63	5	4	5
06	鈴鹿市	1	鈴鹿市	061	○			0	132	37	95	78	30	18
		2	市民ネットワークすずかのぶどう		(2020年度 鈴鹿市に移管)			20						
07	名張市	2	名張市市民活動支援センター											
08	尾鷲市	1	尾鷲市											
		3	尾鷲市社会福祉協議会	083		○(社協)		24	37	18	19	8	9	1
		4	東紀州コミュニティデザイン(HCD	084	○		○	96	99	71	28	0	73	18
09	亀山市	1	亀山市	091	○			212	193	26	167	4	5	5
		3	亀山市社会福祉協議会	093		○(社協)		36	36	22	14	0	1	2
10	鳥羽市	1	鳥羽市	101	○		○	10	73	29	44	40	5	2
		3	鳥羽市社会福祉協議会	103		○(社協)		42	42	25	17	0	2	1
11	熊野市	1	熊野市											
		3	熊野市社会福祉協議会	113		○(社協)		3	3	0	3	0	0	0
12	いなべ市	2	いなべ市市民活動センター	122	○		○	131	133	49	84	8	3	13
		3	いなべ市社会福祉協議会	123		○(社協)		73	72	33	39	0	0	0
13	志摩市	1	志摩市	131	○		○	30	31	9	22	1	1	0
		3	志摩市社会福祉協議会	133		○(社協)		48	48	9	39	0	1	1
14	伊賀市	2	伊賀市市民活動支援センター	142	○			199	210	20	190	12	9	13
		3	伊賀市社会福祉協議会	143	○			145	129	15	114	0	5	9
15	木曾岬町	3	木曾岬町社会福祉協議会	153		○(社協)		4	4	1	3	0	1	0
16	東員町	2	とういん市民活動支援センター	162	○		○	73	71	13	58	4	1	2
		3	東員町社会福祉協議会											
17	菟野町	1	菟野町											
		3	菟野町社会福祉協議会	173		○(社協)		42	41	4	37	1	3	2
18	朝日町	1	朝日町											
		3	朝日町社会福祉協議会	183		○(社協)		7	8	0	8	1	0	0
19	川越町	1	川越町											
		3	川越町社会福祉協議会	193		○(社協)		13	15	0	15	0	0	0
20	多気町	1	多気町											
21	明和町	2	めいわ市民活動サポートセンター	212	○		○	53	49	14	35	0	1	0
		3	明和町社会福祉協議会	213		○(社協)		40	42	15	27	2	0	0
22	大台町	1	大台町											
23	玉城町	3	玉城町社会福祉協議会	233		○(社協)		17	16	0	16	0	0	0
24	度会町	3	度会町社会福祉協議会	243		○(社協)		6	6	0	6	0	0	0
25	大紀町	3	大紀町社会福祉協議会	253		○(社協)		7	9	1	8	2	1	0
26	南伊勢町	1	南伊勢町											
27	紀北町	1	紀北町											
28	御浜町	3	御浜町社会福祉協議会	283		○(社協)		18	19	16	3	3	13	0
	その他		Mナビ管理サイト(重複団体除く)	900				7	17	0	17	0	16	9

Mナビ 計

3,116	515	2,601	276	803	377
-------	-----	-------	-----	-----	-----

(参考:2019年度)

3,030	480	2,550	338	816	372
-------	-----	-------	-----	-----	-----

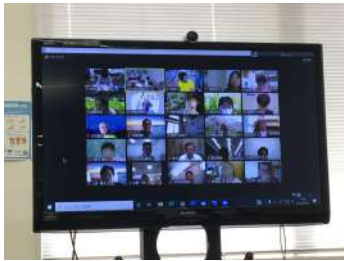
### (3) 中間支援団体等の機能向上・連携交流に関する業務について

事業の名称	①県内の中間支援団体等の機能向上・連携交流
	A. 県内中間支援団体の基盤強化

#### <事業計画>

回数	年2回、または2カ所程度
目的	力強いNPOセクター形成
事業計画	「市民活動・NPO月間」と連携し、県内中間支援団体活動基盤に関する支援を行う。

#### <実績報告>

名称	オンラインでつながろう ZOOM勉強会・参加NPO交流会
開催日時／場所	2020年9月5日(土)10:00～11:30
参加者数	33名
参加費	無料
結果	<p>【アンケート結果】</p> <p>大変満足...19%(4名)</p> <p>満足...61.9%(13名)</p> <p>普通...19%(4名)</p>
事業内容	<p>コロナ緊急アンケートの結果報告や、現在の各団体の活動の課題を共有した。また今後のコロナウイルス感染症の第2波を踏まえ、今後のNPOの活動の方法やあり方について参加者同士で学びあった。</p> <p>新型コロナウイルス感染症が蔓延している今、対面での会議や講座など様々な活動を行うことが難しくなっていたが、30人以上が同時にZoomをつなぎ、ブレイクアウトルームを6つに分けて交流をすることで、個別でZoom講座をしていた時よりさらに参加者のZoomなどのオンラインスキルへの壁がなくなり、自信が深まったようだ。</p> <p>また、12月のNPOグランプリに向けて各地域の中間支援団体もオンラインでのイベント開催のイメージができた。</p>
課題	リアルでイベントをするより、当日のオンラインフォローや当センターに来てしまった人の対応などの人手が必要になることがわかった。ブレイクアウトルームでのディスカッションで抜けてしまう人がおり、当日の人数の割り振りに課題が残った。
当日の写真	




事業の名称	①県内の中間支援団体等の機能向上・連携交流
	B.県内中間支援団体の情報交換・連携交流

<事業計画>

回数	年2回程度
目的	力強いNPOセクター形成
事業計画	相談業務などの事例紹介を中心に、県内中間支援団体同士の情報交換会、交流会を行う。

<実績報告>

名称	みえイーパーツリユースPC寄贈プログラム実行委員会への参加
開催日時/場所	①チラ-1グランプリ結果発表会...10月17日 ②リユースPC寄贈プログラム寄贈式...2月13日 ③大塚商会寄贈物品分配...2月3日
参加者数	①11団体 ②15団体
参加費	無料
結果	①チラ-1グランプリ応募団体数:11団体 ②みえイーパーツリユースPC寄贈プログラム応募団体数:17団体 ③大塚商会より物品寄贈受け入れ、県内中間支援組織に配分。
事業内容	実行委員会のメンバーとして通年活動した。 チラ-1グランプリでは、カラーラベルプリンター等を、みえイーパーツリユースPC寄贈プログラムではリユースPC、ラベルライター等を寄贈した。コロナ禍のためにPCを必要としている団体の応募も見られた。いずれの寄贈式&交流会もオンライン開催で交流した。また、本年度も大塚商会より物品寄贈を受け入れ、実行委員会を構成する中間支援団体で配分を行い市民活動団体のために活用した。
課題	本年度は新型コロナウイルス感染症の影響で寄贈式もオンラインで開催された。リユースPC寄贈プログラムは主な対象が「組織内の情報化を進めたい団体」となっているため、プログラムへのオンライン参加のためのフォローが必要になるケースが他事業より多かった。実行委員会に参加している中間支援組織がより密に連携して参加団体へ働きかける必要があると感じた。
写真	

事業の名称	②県外の中間支援団体等とのネットワーク構築
	A.全国の先進事例の調査・研究

<事業計画>

回数	通年
目的	力強いNPOセクター形成
事業計画	国の動きや高い専門性を持つ全国レベルの中間支援団体や県内の支援団体と連携し、最新情報の収集や、調査研究を行う。

<実績報告>

名称	岡山NPOセンター協働環境調査
開催日時/場所	2021年3月
内容	<p>協働環境調査は、各地の協働の条例などの制定状況や協働事業の実施状況、体制、研修などの状況を調査することで事実上、各地の状況を比較し、それによって政策提言などを進ませることを狙いとし、当センターも三重県と津市の調査に参画した。</p> <p>これまでの協働環境調査要項に加え、今年度は新型コロナウイルスの影響への対応やSDGsの広がり、災害の頻発化を踏まえて、以下の項目を追加して実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.新型コロナウイルスの影響を受けたNPOへの支援施策</li> <li>2.SDGsの達成における協働。</li> <li>3.災害支援における協働。</li> </ol> <p>+市民社会スペース(市民参加政策の後退や参加の侵害)について</p> <p>三重県・津市ともに直接ヒアリングをしながら調査ができたため、NPO支援に対するお互いの課題を共有する機会となった。</p>
課題	今回は調査依頼を受けてから調査終了までの準備期間が短く三重県と津市の2カ所のみでの調査となった。また、調査結果の活用法についてまだ計画ができていないため早急に計画をしていきたい。



事業の名称	②県外の間接支援団体等とのネットワーク構築
	B. 県外中間支援団体との連携事業

<事業計画>

回数	年1回以上
目的	力強いNPOセクター形成
事業計画	地方レベルの中間支援団体が抱える課題の共有と解決を図り、全国的な恒常的ネットワーク組織を構築するため、近隣の地方レベルの中間支援団体有志との意見交換会や全国への情報発信を行う。

<実績報告>

名称	中部圏地域創造ファンド「東海ろうきんNPO育成助成」
開催日時/場所	
事業内容	<p>審査会:2020年4月12日(日)13:00~16:00</p> <p>伴走支援:          ・ささえあいのまち創造基金          2020年9月16日(火)11:00~12:00          2020年2月4日(火)11:00~12:00</p> <p>報告会:2021年3月29日(月)13:00~16:30 東海ろうきん本店</p> <p>一般社団法人中部圏地域創造ファンドと連携して開催。本来、書類審査→面談審査→伴走支援→報告会の流れだったが、コロナウイルス感染症拡大の影響で、書類審査→審査員からの質問→団体からの回答→面談なしの審査会→伴走支援→報告会と変更になった。</p> <p>三重県からは1団体のみでの採択となったが、ささえあいのまち創造基金は中間支援団体でもあるため、今後の三重県内のNPO支援の連携を深める上でも人材育成の事業やNPO広報の事業の共有はお互いに貴重な機会となった。</p>
課題	<p>伴走支援について、現状では単純なヒアリングで終わってしまっているため、介入度をどこまで深くしていくのかを組織内で話し合いながら支援体制を作っていく必要があると感じた。</p> <p>三重県からのエントリーが少なく、中部圏地域創造ファンドとしても課題と考えている。本事業の優位性・有効性を協働して県内に広める必要がある。</p>

事業の名称	②県外の中間支援団体等とのネットワーク構築
	B.県外中間支援団体との連携事業

<事業計画>

回数	年1回以上
目的	力強いNPOセクター形成
事業計画	地方レベルの中間支援団体が抱える課題の共有と解決を図り、全国的な恒常的ネットワーク組織を構築するため、近隣の地方レベルの中間支援団体有志との意見交換会や全国への情報発信を行う。

<実績報告>

名称	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による影響実態把握のための緊急アンケート調査
開催日時／場所	2020年4月16日から4月30日(2週間)
事業内容	<p>目 的:新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行うことにより、多くのNPO・市民活動団体が影響を受けています。その影響の実態把握を行い、適切な支援や対応の検討を行うことを目的に、三重県内中間支援組織と連携して実態調査を行った。</p> <p>対 象:三重県内NPO・市民活動団体など</p> <p>期 間:2020年4月16日から4月30日(2週間)</p> <p>方 法:WEBによるアンケート</p> <p>実施主体:みえ市民活動ボランティアセンター(三重県・特定非営利活動法人みえNPOネットワークセンター)</p> <p>協 力:三重県内市民活動センター・中間支援組織</p> <p>送付数:691件(三重県内NPO・市民活動団体等)</p> <p>回答数:219件(三重県内NPO・市民活動団体等)</p> <p>回収率:31.7%</p> <p>※アンケート結果概要は別紙資料を参照</p> <p>IT(オンライン)活用支援事業～初めてのZOOM体験会～ アンケート結果を元に、第一歩として、ZOOMを活用して会議をしてみたいけれど「難しそう」と感じている団体の方向けに体験会を開催した。</p> <p>★開催概要★ 【講師】みえ市民活動ボランティアセンタースタッフ 【日時】第1回:6月5日(金)14:00～(40分～60分程度) 第2回:6月9日(火)14:00～(40分～60分程度) 【会場】みえ市民活動ボランティアセンター交流スペース 【定員】3団体(1団体2名) 【対象】ZOOMを活用して会議開催をしてみたいと思っている、これまで一度もZOOM操作をしたことがない団体の方</p> <p>IT(オンライン)活用支援事業～初めてのZOOM勉強会～</p>

初めてのZOOM体験会を経て、さらにZOOMの活用法を学び、ZOOM会議を主催したい団体向けに勉強会を開催した。

**★開催概要★**

**【講師】**みえ市民活動ボランティアセンタースタッフ

**【日時】**第1回:7月17日(金)14:00~15:30

第2回:8月6日(木)14:00~15:30

**【会場】**みえ市民活動ボランティアセンター

**【定員】**5団体(1団体2名まで)

**【対象】**ZOOMを活用して会議開催をしたいと思っているが、「難しそう」「面倒くさそう」と躊躇している団体。これまで一度もZOOM操作をしたことがない団体の方。

#### (4)「みえ災害ボランティア支援センター」の運営に関する業務について

事業の名称	みえ災害ボランティア支援センター
-------	------------------

##### <事業計画>

目的	災害発災時にスムーズな協働・連携できるよう、平時から幹事団体同士が研修・会議等を実施
事業計画	年度当初に幹事団体合意の基に立てられた事業計画を確認し、計画に基づき各幹事団体が役割分担を担い、自発的・自律的な活動を行う

##### <実績報告>

名称	①三重県任意団体向け災害アンケート ②いせ市民活動センター第10回 いせ市民活動フェスティバル 実行委員会ヒアリング ③はグレードアップセミナー第2回を参照
開催日時/場所	①2020年8月17日(月)～2020年9月17日(水) オンライン ②12月12日(土)14:00～ いせ市民活動センター
参加者数	②9名
結果	①任意団体へアンケートを調査をし、106団体/330件(32%)の回答があった。 ※アンケート結果概要は別紙資料を参照
事業内容	<p>①三重県内の市民活動団体が、災害に向けてどのような活動を行なっているのか、また、災害時にどのような活動ができると普段考えているのかを調査した。みえ市民活動ボランティアセンターおよび各地域にある中間支援センター等が三重県内の市民活動団体の災害救援や復興支援についてどのように考えているかを把握しておくことにより、災害時のコーディネートが有効に行なわれるようにするための基礎情報となる。</p> <p>調査対象は、多分野に渡り災害分野以外の団体からも多くの回答を得た。防災の団体ではなくとも、東日本大震災などの災害が起きた際には、3%ほどの団体が、寄付や物資調達など各団体ができる範囲で支援に関わっていたことが分かった。</p> <p>事前に各地で交流を進め活動状況を把握しておくことで、災害時に災害NPO以外の団体とも連携して支援をすることができることがわかった。</p> <p>②これまでのセンターでの災害支援活動の経緯、アンケート結果から分かっていること等を説明し、それぞれの団体からの意見を伺った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害の時にどのようなことになるか分かっていなかった。もっと分かっていたら、団体としても、もう少し違う動きも取れるかもしれない。</li> <li>・自治会などでは、実際に災害が起きたらコロナ禍でどうしていいか分からない。今のままで避難所の定員も少なくなっており、どうなるかみんな分からないといった状況。</li> <li>・団体としては、災害時の炊き出しなどができる。機材などもある。</li> <li>・チェアウォーカーの団体など災害時の課題がある。</li> </ul> <p>などの意見をいただき、登録団体は、非常に協力的であることや、事前にできることがあるのではないかという気持ちがある。また災害が起きたときに地域での暮らしがどうなるかや、災害ボラン</p>

	ティアセンターのことがまだまだ地域に知れ渡っていない事がわかった。
課題	多分野・多地域による災害プラットフォームを作るために、今後MVSCなどとの連携が必要になってくるが、中間支援団体との連携、ビジョン・ミッションの共有がまだできていない。また、まだまだ各団体が自分たちが災害時に活動ができることがあることを認識できていない。

## 【成果目標の達成】

### (1) センター来館者数

#### 概要

##### ■ 目標値

年間 63,000人

##### ■ 実績

年間 28,059人

##### ■ 事業計画

- ・指定管理者が県内の中間支援団体のネットワーク組織である強みを生かし、県内各地でみえ県民交流センターの周知を図る。
- ・NPO、県民等にとって魅力ある事業を行い、来館者数を増加させる。
- ・企業、行政、地縁団体、県内大学等との連携を強化した会議等を行うことで、新しい来館者数を増加させる。
- ・三重県の若者が集まる交流拠点とすることで来館者数を増加させる。
- ・自動販売機を設置し、センターの利便性の向上を図る。
- ・図書コーナーの充実を図る。

#### 実績報告

##### ■ 成果

みえ市民活動ボランティアセンターの合計利用者数は上記の通り、28,059人だった。

みえ市民活動ボランティアセンター

(単位:人)

利用団体数	交流スペース	ミーティングルーム	イベント情報コーナー	機材	勉強	カウンター※	計	旅券センター		おしごと広場みえ		若者就業サポートステーション・みえ		合計	
								申請	交付	相談	その他	相談	その他		
4月	123	346	158	22	20	21	689	1,256	95	177	404	100	28	6	2,066
5月	81	256	28	0	14	0	474	772	93	149	229	54	17	7	1,321
6月	249	938	361	139	35	119	1,075	2,667	95	152	386	130	90	39	3,559
7月	250	1,041	393	50	17	72	1,188	2,761	76	139	586	132	109	58	3,861
8月	188	605	337	35	11	129	1,032	2,149	91	119	454	116	94	40	3,063
9月	194	778	307	49	10	98	1,010	2,252	71	87	507	104	110	63	3,194
10月	227	876	321	116	12	123	1,186	2,634	69	81	644	117	126	75	3,748
11月	240	914	357	399	18	166	1,123	2,977	73	96	477	102	97	88	3,910
12月	161	710	249	57	20	152	1,153	2,341	92	102	466	88	89	79	3,257
1月	162	713	231	109	14	141	1,209	2,417	72	94	428	60	105	53	3,249
2月	198	713	402	56	15	108	1,434	2,728	80	74	532	70	89	49	3,622
3月	242	844	346	347	18	90	1,460	3,105	125	114	717	103	110	72	4,346
計	2,355	8,734	3,490	1,379	204	1,219	13,033	28,059	1,032	1,384	5,830	1,196	1,064	629	39,194

※カウンターとは、チラシ類の閲覧、図書利用、相談など(スペース利用以外の利用)

##### ■ 課題

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い利用者が大幅に減少をした。年々NPO法人を含む市民活動団体が減少傾向にあることから、ミーティングルームや交流スペースの利用促進を引き続き行いながらも、オンライン活用や個人が利用できる仕組み(NPOに関する)を考えていく必要がある。

来年度も引き続き、図書コーナーの充実を図るなど利用者増加につなげたい。

## (2) 事業参加者の満足度

### 概要

#### ■ 目標値

年間 85%以上

#### ■ 実績

年間 88.1%

#### ■ 事業計画

講座終了後にアンケートをとり、参加者満足度を図るとともに、アンケート結果を次の講座へと生かす。講座等の参加費を有料にすることにより、講師、運営、参加者の本気度を高める。

事前のニーズ調査や、丁寧な講師との打ち合わせを行う。

スタッフがファシリテーションスキルを学び、円滑で満足度の高い場づくりを心がける。

### 実績報告

みえ市民活動ボランティアセンター主催講座で参加者に対してアンケートを行った。各回の満足度平均は88.1%であった。前年度の年間平均92%から満足度は減少した。講座がZoomなどを利用したオンラインであったためと思われるが、講座の構成や参加者とのコミュニケーションなどまだまだ改善していく必要がある。

### (3) 図書コーナー利用の増加 NPO/NGO、国際関連の図書の貸出数

#### 概要

##### ■ 目標値

年間 120冊

##### ■ 実績

年間 157冊

##### ■ 事業計画

三重県内で最もNPO関連の書籍等が集まる場所を目指し、図書コーナーの充実を図るとともに、本という切り口からNPO活動、地域活動への興味をもってもらい取り組みを行う。

本の貸出が増えることで、同数が返却に訪れることが想定され施設利用のリピーターへとつなげることができる。

そのために2020年度では新たに45冊の書籍を追加した。県民が参加・参画してつくる図書コーナーを目指したい。

#### 実績報告

##### ■ 成果

「ステイホームのおともに」のキャッチコピーを作り、貸出履歴の傾向から、人気図書を選定してアピール。コロナ禍でも図書の貸出を利用する人が減らないように工夫をし、年間貸出目標を達成した。

##### ■ 課題

貸し出される図書の区分割合が、「一般」「国際」「問題解決」の3分野だけで、全体の65%となっている点が挙げられるため、今後は「NPO」や「防災」の分野の貸出割合も増やしていきたい。



#### (4) 市民活動・NPO月間に関わる連携協力団体の数

##### ■ 目標値

15団体

##### ■ 実績

38団体

##### ■ 事業計画

市民活動・NPO月間を三重県各地で開催するにあたり、15以上の団体と連携・協力イベントを開催する。

##### ■ 成果

コロナ禍で募集⇒地域予選という例年通りのNPOグランプリの実施が難しい中で、中間支援団体を中心に地域の団体に丁寧にお声掛けいただき、結果昨年を上回る参画団体数となった。また、NPOグランプリ後も提案をした団体のみなさんが集まり、事業を継続することができている。

##### ■ 課題

これまでNPOグランプリを4回開催してきたが、それぞれの課題解決に対し点数化をし、順位で評価をすることに抵抗があるというご意見を毎年いただいている。NPO月間をより多くの三重県民のみなさまに周知するために、別の仕掛けを検討していきたいと思う。

# 添付資料

- 添付資料①【2020年度】みえ県民交流センター事業計画
- 添付資料②【2020年度】みえ県民交流センター来館者実績
- 添付資料③【2020年度】みえ市民活動ボランティアセンター利用料収入(年間)
- 添付資料④【2020年度】実施した主な事業チラシ
- 添付資料⑤【2020年度】施設利用に関する利用者アンケート結果報告書
- 添付資料⑥【2020年度】第1回みえ県民交流センター外部委員会
- 添付資料⑦【2020年度】第2回みえ県民交流センター外部委員会
- 添付資料⑧【2020年度】相談等記録集計(2020年4月1日～2021年3月31日)
- 添付資料⑨【2020年度】新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による影響実態把握のための緊急アンケート調査
- 添付資料⑩【2020年度】三重県任意団体向け災害アンケート

# 令和2年度 みえ県民交流センター事業計画

特定非営利活動法人 みえNPOネットワークセンター

## ■センターの管理運営方針

### (1) 管理運営の総合的な基本方針について

みえNPOネットワークセンターは、三重県内の中間支援団体で構成されているユニークな団体です。平成24年度～平成28年度のみえ県民交流センターの指定管理の受託をはじめ、各構成団体も所在する市町の市民活動センター等の指定管理者としての実績を持っていることから、県内の市民活動団体との広いつながりを有しています。

ネットワークに関しては、県内だけでなく、「市民の伊勢志摩サミット」の実施や、愛知、岐阜、三重3県の市民活動団体による「東海市民社会ネットワーク」の発起人でもあるため、全国的なNGO/NPOとのつながりもあります。

NPO（ボランティア・市民活動団体等）の参画による地域社会づくりの一翼を担う主体として、自発的な県民の社会貢献活動に対する意欲をNPO等につなげ、さらに、国際化の推進に寄与するため、次のような方針でみえ県民交流センターの管理運営に当たります。

### 1.行動する県民（アクティブ・シチズン）の増加

みえ県民交流センターの実施する講座等への参加、「市民活動・NPO月間」等のキャンペーン、県内の若者を対象とした勉強会、ホームページや情報誌等による情報提供、相談業務等を通じて県民の社会貢献への意欲と実行力を高め、「みえ県民カビジョン」が掲げる「行動する県民」の増加に寄与します。

### 2.力強い市民セクターの形成

県内のNPO等の技術・知識・人材等の向上を図る講座や勉強会の開催、県内外の総合的・専門的な中間支援団体のネットワークの構築、県内NPO法人の実態調査・研究・報告等を通じて存在感のある力強い市民セクターを形成します。

### 3.「協創」の三重づくり

「協創シンポジウム」での発表の場をはじめ、行政、企業、NPO、大学等、多様な主体が協働する機会や仕組みを提供することで、みえNPOネットワークセンターが平成23年、24年度に三重県から受託して策定した「新しい公共ビジョン」及び「みえ県民カビジョン」が掲げる多様な主体の協働による「協創」の三重づくりを定着させます。

### 4.国際理解と国際貢献活動の促進

「多文化理解イベント」の開催や県内外のNGOの活動報告会等を通じ「三重県多文化共生社会づくり指針」が掲げる多文化共生の強みが生かされる社会づくりに寄与します。

### (2) 企業（団体）の社会的責任について

#### 1.団体倫理

市民セクターの力を結集し、より良い市民社会づくりを目指す、当団体の設立目的を見失うことなく、みえパートナーシップ宣言を尊重し、みえ県民交流センターの管理運営業務を通して、みえ県民カビジョンの実現に貢献します。

#### 2.法令遵守

みえ県民交流センター条例、三重県多文化共生社会づくり指針、みえ県民カビジョンなど、関係する法令等を遵守するとともに、すべての法規・基準を遵守します。

### **3.環境管理**

物品等の使用量の節減、有効利用につとめることを第一に、購入に当たっては環境への負荷の少ない製品やサービスを優先的に購入し、みえ・グリーン購入基本方針を尊重します。また、節電や節水など事業活動のあらゆる場面で環境に配慮した取り組みを行います。

#### **■センターの管理業務**

##### **(1) 施設、機器、備品等管理業務全般の基本的な考え方及び管理の方法について**

センターの施設、機器、備品については、常に点検整備を行い、利用者の皆様に良好な状態で利用していただけるように努めます。

- 1 閉館日は12月29日から1月3日までとします。
- 2 利用時間は午前9時から午後10時までとします。
- 3 センター条例第15条第2項、第3項、第17条及び第18条に該当すると判断したときは、施設の利用制限、利用者に対する指示、利用許可の取り消しまたは利用を中止させます。
- 4 その他、県有施設の有効活用に関する県の取組に協力します。
- 5 センターの利用等の手続きについては、三重県行政手続条例（平成8年三重県条例第1号）の規定に基づき実施します。
- 6 管理を通じて取得した個人情報、三重県個人情報保護条例（平成14年三重県条例第1号）第13条第4項で準用する同条第1項から第3項までの規定を遵守し、個人情報が保護されるよう配慮し、適正に取り扱います。
- 7 管理に関する情報の公開は、三重県情報公開条例に基づき、公開に関する規定を整備して情報公開します。
- 8 センター利用に関しては、利用団体を営利と非営利の2種類に区分し、それぞれ利用料金を設定します。
- 9 センターの管理運営に当たっては、人権尊重社会の実現、ダイバーシティみえ推進方針、男女共同参画社会の実現、持続可能な循環型社会の創造に向けた環境保護活動、ユニバーサルデザインのまちづくり、障がい者を理由とする差別の解消、障がい者就労支援施設等からの優先的な調達、次世代育成支援、地震防災対策等の県が推進する施策を十分理解し、協力して施策実現のために寄与します。
- 10 センターの管理業務を行うにあたり、次の法令を遵守します。
  - (ア) 地方自治法（昭和22年法律第67号）
  - (イ) みえ県民交流センター条例（平成13年三重県条例第4号）
  - (ウ) みえパートナーシップ宣言（宣言日平成10年11月24日）
  - (エ) 三重県多文化共生社会づくり指針（平成28年3月）
  - (オ) みえ県民力ビジョン・同行動計画
  - (カ) その他センターを管理するための業務に関連するすべての法令等
- 11 管理業務を実施するに当たり暴力団、暴力団関係者または暴力団関係法人等による不当介入を受けたときは、断固として拒否し、警察に通報すると共に捜査上必要なことに協力し、県に報告します。また、暴力団、暴力団関係者または暴力団法人等により不当介入を受けたことにより管理業務に支障が生じるなどの被害が生じる恐れがある場合には県と協議します。

##### **(2) 災害及び事故等の不測の事態の場合を想定した体制等の整備及びその対応策について**

###### **① 緊急事態等を想定した危機管理体制の整備**

- (ア) 危機管理マニュアルを作成し、県、消防署等関係機関に提出する。
- (イ) 緊急連絡網を作成する
- (ウ) アスト防災センター、駅前交番、消防署への連絡方法の確立

- (エ) 県への報告手順を作成する
- (オ) 研修や訓練の実施
  - ① 救命救急研修の実施（年1回）
  - ② 訓練の実施
    - ・ アスト津消防計画に沿った消防訓練
    - ・ 避難誘導訓練

## ② みえ災害ボランティア支援センター

大規模災害発生時にはみえ災害ボランティア支援センターに携わります。

## ③ 利用者の安全確保、事故防止策、危険箇所等の発見やその対応について

- (ア) 利用者の安全確保
  - ・ 常に利用者の安全の確保に配慮し、目配りします。
- (イ) 事故防止策と対応策
  - ・ 施設、機器、備品等の点検を行い、利用者の安全確保に努めます。
- (ウ) 危険箇所の早期発見
  - ・ 施設内を定期的に巡回し、危険箇所の早期発見に努めます。
- (エ) 利用者への広報
  - ・ みんなが気持ちよく利用できるように他の利用者に対する配慮を促す広報を行います。
- (オ) 保険への加入
  - ・ 傷害保険、損害保険等に加入して、万が一に備えます。

## (3) 個人情報保護対策について

- ① 個人情報保護方針を策定し、方針、利用目的、苦情窓口等をホームページ上で公表します。
- ② 組織内に情報管理責任者を設置。さらにスタッフに対し個人情報保護の重要性を徹底させます。
- ③ 内・外部と接続するネットワークシステムは、最新のセキュリティシステムを導入します。
- ④ 講座等の参加者名簿については、講座目的以外に使用しないよう十分に配慮した運用を徹底します。

## ■センターの運營業務

### (1) 施設の利用に関する業務について

#### ① センターの総合案内

センターの総合案内として、パンフレットを作成すると共に、施設内のみえ市民活動ボランティアセンター、三重県旅券センター、おしごと広場みえ、若者就業サポートステーション・みえ等の案内を正確に行います。スタッフが利用者を常に温かく迎え、市民目線の親切な対応を行います。

#### ② 市民活動に関する相談、センター視察・見学、出前講座への対応

来館や電話等による市民活動に関する一般相談については随時受け付け、スタッフ全員が共有できるようにデータ化し管理します。専門的な相談については、必要に応じて専門家や当団体のネットワークを利用して支援組織へ紹介します。センターへの視察や見学、出前講座等の依頼についても、依頼者側のニーズを把握し、先方に確認しながら対応します。

#### ③ 日常の管理業務

利用者が気持ちよく利用できるよう、施設内の整理整頓、定期刊行物の入れ替え、館内の温度管理、開館・閉館時のセキュリティ管理等、公設のセンターとして、適正な管理に努めます。特に、化粧室や給湯室等の人に見えにくい区域については、定期的な見回り等により安全確認に注

意します。また、利用者から苦情があった際には、相手の意見を十分に聞いた上で適切に対応し、その内容は、日常業務の引き継ぎを含め、スタッフ全員が共有できるようパソコン上で管理すると同時に安全確認チェック表を作成し日常的に点検を行います。

- \* 日常業務の確認 1日1回以上
- \* 利用者使用後の設備・備品の点検
- \* センター内の掲示物の期限切れのチェックと取り外し 1日1回以上
- \* トイレ等の安全確認 随時、閉館時

#### ④ センター施設等の利用許可

施設等の利用許可については、利用者の利便性を考慮し、センター条例第15条にのっとり規定を定めて実施します。センター利用に関しては、事前の団体登録を基本とし、利用団体によりそれぞれ2種類に区分し、利用料金を設定します。ただし、個々の交流スペース小テーブルについては口頭での使用も可能とします。

#### ⑤ センター機器・備品等の貸し出しに関する業務

利用者の利便性を考慮し、センターが有する機器・備品等の貸し出しについては、利用料金を設定し、施設の予約と同時に申し込みを受け付け、適正に管理・貸し出しを行います。

#### ⑥ 図書資料及びの管理、閲覧・貸出業務

図書資料については、内容の充実に努めると共に、閲覧・貸出業務についても利用者の利便性を図り適正に行います。

#### ⑦ センター内の掲示物等の管理

県内外から寄せられるイベント情報や助成金情報等のチラシやポスター等の掲示物の管理については、期限切れとなった掲示物がないよう日常的に目配りを怠らず、適正な管理に努めます。また、必要な情報を積極的に入手し適切で効果的な情報の提供に努めます。

#### ⑧ イベント情報コーナーの有効活用に関する業務

利用者へのサービス水準の維持とセンター全体の有効活用のため、おしごと広場みえの利用部分を除いたイベント情報コーナーを利用者に貸し出します。利用案内、整理整頓、温度管理、セキュリティ管理等の業務を行います。

#### ⑨ 利用料金の収受に関する業務について

(利用料金の設定や料金の収受方法、減免等について提案してください。)

センター条例第19条に基づき利用料の収受を行います。利用料金については当日現金かあるいは事前に指定の口座に納入(ただし行政等請求書の発行後、後払いの必要な団体は除きます)のことで、以下の通り料金設定を行います。特別な減免措置については県行政と相談の上、決定します。付属設備については団体の区別なく料金設定します。

#### ○ 営利団体

〈利用日の6ヶ月前から予約可能〉 \*ただし、利用の基本は会議や研修とします。

	料金(1時間あたり)
交流スペースA	2,080円
ミーティングルームA	1,040円
ミーティングルームB	1,040円

- ① 当日キャンセルの場合は利用料金の100%を申し受けます。
- ② 交流スペースAとは、交流スペース6~8を全部利用する場合。

③ 利用時間が1時間に満たない場合は1時間とします。

○非営利団体（行政、NPO法人、ボランティア団体、市民活動団体、その他営利団体を除く非営利法人）  
 〈利用日の6ヶ月前から予約可能〉

	料金（1時間あたり）
交流スペースA	310円
ミーティングルームA	310円
ミーティングルームB	310円

- ① 当日キャンセルの場合は利用料金の100%を申し受けます。
- ② 交流スペースAとは、交流スペース6～8を全部利用する場合。
- ③ 利用時間が1時間に満たない場合は1時間とします。

〈付属設備〉別途定める料金表の通りとする。

## (2) 市民活動促進及び国際化の推進のための業務について

### ① 市民活動促進のための業務

事業名	目的	内容	回数
A.NPOグレードアップセミナー	力強い市民セクターの形成	NPOや県内各地の中間支援組織が、地域のNPOを支援するために必要な知識や技術を学ぶ講座を開催する。	年2回
B.NPO相談	行動する県民の増加	ボランティア紹介やNPOの運営等の相談に応じる。また法人設立等の講座や会計や労務等の相談会の開催、相談プログラムの作成などを行う。	相談は通年 講座や相談会は年2回程度
C.「市民活動・NPO月間」の実施	行動する県民の増加	12月を「市民活動・NPO月間」と設定し、昨年度に引き続き、「三重NPOグランプリ」の第4回を、市民活動センター等と連携して県内で取り組む。	12月
D.「協創」シンポジウム	「協創」の三重づくり	行政、企業、大学、NPO等の協働に関するシンポジウムを行う。	年1回
E.三重ユース事業	行動する県民の増加	18歳～39歳の三重在住、在勤、在学の若者がNPOや市民活動に興味を持ってもらう講座や集まりなどを開催する。	年4回

### ② 国際化推進のための業務

事業名	目的	内容	回数
A.多文化共生・理解イベント	国際理解と国際貢献活動の促進	多文化共生社会の実現に向けて、文化や習慣の違いを知る機会となるイベントや講座等を他団体との連携・協力により開催する。	年1回
B.NGOから学ぶ世界情勢	国際理解と国際貢献活動の促進	県内外のNGOから、いま世界で何が起こっているのかを学ぶ講座を開催する。	年1回
C.国際関係書籍の紹介	国際理解と国際貢献活動の促進	図書・資料コーナーにて、国際関係の書籍を紹介していく。	通年
D.国内外の課題に対する情報収集	国際理解と国際貢献活動の促進	国内外の大規模災害が起こった際に支援先の情報収集を行う。	通年

### (3) 市民活動に関する情報の受発信に関する業務について

#### ① ホームページの設置及び管理運営

県民の誰もが親しみやすい内容の「みえ市民活動ボランティアセンター」のホームページを設置し、常に、新しい情報を掲載できるよう、頻繁な更新を行うとともにセンターのホームページの周知を図るよう努めます。施設や事業に関する内容だけでなく、ボランティア情報、助成金情報、NPOの運営に関する情報、CSR情報、市民活動データベース等も掲載します。管理運営に当たっては、個人情報の適正な管理と知的所有権、肖像権等に抵触していないか、公序良俗に反する情報のチェックも併せて行います。

事業名	目的	内容	回数
ホームページの更新	行動する県民の増加	ホームページにてみえ市民活動ボランティアセンターの利用案内や事業紹介などを行う。	通年

#### ② 情報誌の発行及びツールの作成

発行部数は、1万部の発行を基本とします。

県、各市町、各市民活動センター、各市町社会福祉協議会等に配布します。

3カ月に1回の発行とします。

発行、配布に当たってはユニバーサルデザインに配慮します。

鮮度が重要な助成金情報等はホームページに掲載するとともに、別紙でセンター内に掲示します。また、県内の市民活動センターにも同様の情報を送ります。

できる限りで、市民活動・NPOに興味を持ってもらえるようなツールを作成します。

事業名	目的	内容	回数
市民活動ボランティアニュースの発行・配布	行動する県民の増加	ニュースを読んだ方がNPOに関心を持ち参画することで地域社会の発展に寄与する。	年4回発行

#### ③ 団体情報データ調査及び活用

「みえ市民活動ボランティアセンター」に登録されているボランティア・市民活動団体等との連携を一層深めるとともに、県内の市町、社会福祉協議会や中間支援組織とのネットワーク・情報共有を進めるよう取り組んでいきます。また、行政、企業、NPO等からの照会に応えられるように、多様な団体情報との柔軟なリンクも模索します。

事業名	目的	内容	回数
各市町中間支援団体等との連携による情報収集と調査・分析	力強いNPOセクターの形成	市町の市民活動センターや行政機関等と連携をとることで、県内の市民活動団体の情報を共有し、活動の実態を把握する。昨年度同様、新システムの試用を行いながら、地域の中間支援組織と新たな連携体制を構築していく。	通年
データの更新	行動する県民の増加	最新の市民活動団体の情報を県民に提供する。昨年度同様新システムを試用しながら、地域の中間支援組織と新たな連携体制を構築していく	通年



#### (4) 中間支援団体等の機能向上・連携交流に関する業務について

##### ① 県内の中間支援団体等の機能向上・連携交流

事業名	目的	内容	回数
A. 県内中間支援団体の基盤強化	力強いNPOセクター形成	「市民活動・NPO月間」と連携することで県内中間支援組織の人材育成や資金調達等、活動基盤に関する支援を行う。	年2回 または2カ所程度
B. 県内中間支援団体の情報交換・連携交流	力強いNPOセクター形成	相談業務などの事例紹介を中心に、県内中間支援団体同士の情報交換会、交流会を行う。	年2回程度

##### ② 県外の中間支援団体等とのネットワーク構築

事業名	目的	内容	回数
A. 全国の先進事例の調査・研究	力強いNPOセクター形成	国の動きや高い専門性を持つ全国レベルの中間支援団体や県内の支援団体と連携し、最新情報の収集や、調査研究を行う。	通年
B. 県外中間支援団体との連携事業	力強いNPOセクター形成	地方レベルの中間支援団体が抱える課題の共有と解決を図り、全国的な恒常的ネットワーク組織を構築するため、近隣の地方レベルの中間支援団体有志との意見交換会や全国への情報発信を行う。	年1回以上

#### (5) 「みえ災害ボランティア支援センター」の運営に関する業務について

##### ① みえ災害ボランティア支援センターが設置された場合の対応について

###### 1. みえ災害ボランティア支援センター幹事会等への出席

みえ災害ボランティア支援センター幹事会、臨時会に出席し、災害時におけるみえ災害ボランティア支援センターの設置及び運営に携わります。

###### 2. 情報の受発信

県内の中間支援組織等とのネットワークを生かした対応をしていきます。地域の中間支援組織等と連携して、災害ボランティア支援センターで検討されたことなどの情報発信をしていきます。

###### 3. つなげる

災害時県内各地域の中間支援組織等と連携します。

###### 4. 支える

災害の状況に応じた県内各地域の中間支援組織及びボランティア団体・NPOの災害支援への取り組みに対しての協力、情報共有等を適宜、適切に行います。

##### ② 平時からの市民活動センターなどを通じた支援のネットワーク化と職員の研修を実施

###### 1. 災害時に支援活動が行えるNPO・ボランティア団体等のネットワーク化

県内（各市町）のNPO（任意団体）に、災害時協力内容等を聞き取るアンケートを実施します。集計したアンケート結果を地域別、全県でまとめ・分析します。

上記でまとめたものを県内2ヶ所の市民活動センター等で情報共有と勉強会を実施し、県内各地域の中間支援組織等を全県としてどのようにしてコーディネートしていく必要があるかを検討します。

###### 2. 職員研修

- 災害ボランティア支援センターの運営、避難所運営、災害全般に関わる研修への参加

#### (6) 利用者サービス向上につながる独自の提案について

- 市民活動促進、国際化という本来目的を実現していくため、一定の制限を設けた上で学習目的の利用を許可していきます。
- コーヒーサービスコーナーを設置します。(有料)
- 寄付つき商品の販売、フェアトレード製品や授産施設の製品の販売等を支援します。
- コーヒーサービス及びお菓子等の販売による収益金については、「コーヒーファンド」として活用し、市民活動団体に寄付を行います。

#### (7) 施設の稼働率を高める方策について

- 指定管理者が県内の中間支援団体のネットワーク組織である強みを生かし、県内各地でみえ県民交流センターの周知を図ります。
- 市民活動・NPO月間など、NPO、県民等にとって魅力ある事業の実施と利用しやすい環境作りにより、来館者を増やします。
- 企業、行政、地縁団体等との連携を強化し、会議等を行うことで、新しい来館者を増やします。
- 図書コーナーの充実を図ります。

#### (8) 利用者の声の把握と管理運営への反映方策について

- 利用者団体等による外部委員会を設置します。(年2回程度開催)
- 年に1回、利用者アンケートを実施し、その結果を管理運営に反映します。
- 利用者からの意見箱を設置し、管理運営に反映します。
- 利用者より寄せられた各種意見をデータベース化し、スタッフで共有し日常業務に反映します。
- 寄せられた意見をスタッフ研修に生かします。

#### (9) 成果目標の達成方策について

【成果目標：センター来館者数 63,000人/年】

- 指定管理者が県内の中間支援団体のネットワーク組織である強みを生かし、県内各地でみえ県民交流センターの周知を図ります。
- NPO、県民等にとって魅力ある事業を行い、来館者を増加させます。
- 企業、行政、地縁団体、県内大学等との連携を強化した会議等を行うことで、新しい来館者を増加させます。
- 三重の若者が集まる交流拠点とすることで来館者を増加させます。
- 自動販売機を設置して、センターの利便性の向上を図ります。
- 図書コーナーの充実を図ります。

【成果目標：事業参加者の満足度 85%以上/年】

- 講座終了後にアンケートをとり、参加者満足度を図るとともに、アンケート結果を次の講座へと生かします。
- 講座等の参加費を有料にすることにより、講師、運営、参加者の本気度を高めます。
- 事前のニーズ調査や、丁寧な講師との打ち合わせを行います。
- スタッフがファシリテーションスキルを学び、円滑で満足度の高い場づくりを心がけます。

#### (10) 提案者が提案する成果目標について

【成果目標1：図書コーナーの利用の増加。NPO/NGO、国際関連の図書の貸し出し数120冊/年】

三重県内で最もNPO関連の書籍等が集まる場所を目指し、図書コーナーの充実を図るとともに、本という切り口から、NPO活動、地域活動へ興味を持ってもらう取り組みを行います。

また、本の貸出が増えることで、同数が返却に訪れることが想定され、施設利用のリピーターへとつなげることができます。

そのために、既存の図書の整理を行い、新たに100冊程度の書籍を追加します。

また、県民が参加・参画してつくる図書コーナーを目指し、本を題材にしたワークショップの開催なども行います。

#### 【成果目標2：市民活動・NPO月間に関わる連携協力団体の数 15団体/年】

市民活動・NPO月間を三重県各地で開催するにあたり、15以上の団体と連携・協力イベント等を実行します。

#### (11) 自動販売機の設定について

- センター利用者の利便性の向上を図るために、みえ県民交流センター内に飲料水自動販売機を1台設置します。
- 自動販売機の設置は、一般入札により決定し、契約期間及び設置業者からの設置料や手数料等の収受の内容等は、契約書等で定めます。
- 自動販売機の設置に要する工事費等の費用、電気代は設置業者の負担とし、毎年5月20日までに自動販売機設置に伴う収入の2分の1を県に納付します。
- 自動販売機は寄付つきとし、売り上げの一部を県内のNPO等に寄付できる仕組みを取り入れます。

#### (12) その他

8ページ「利用者サービスにつながる独自の提案について」の(6)で一例を掲載したように、県内で取り組まれている各種社会的企業を支援するための活動を行います。

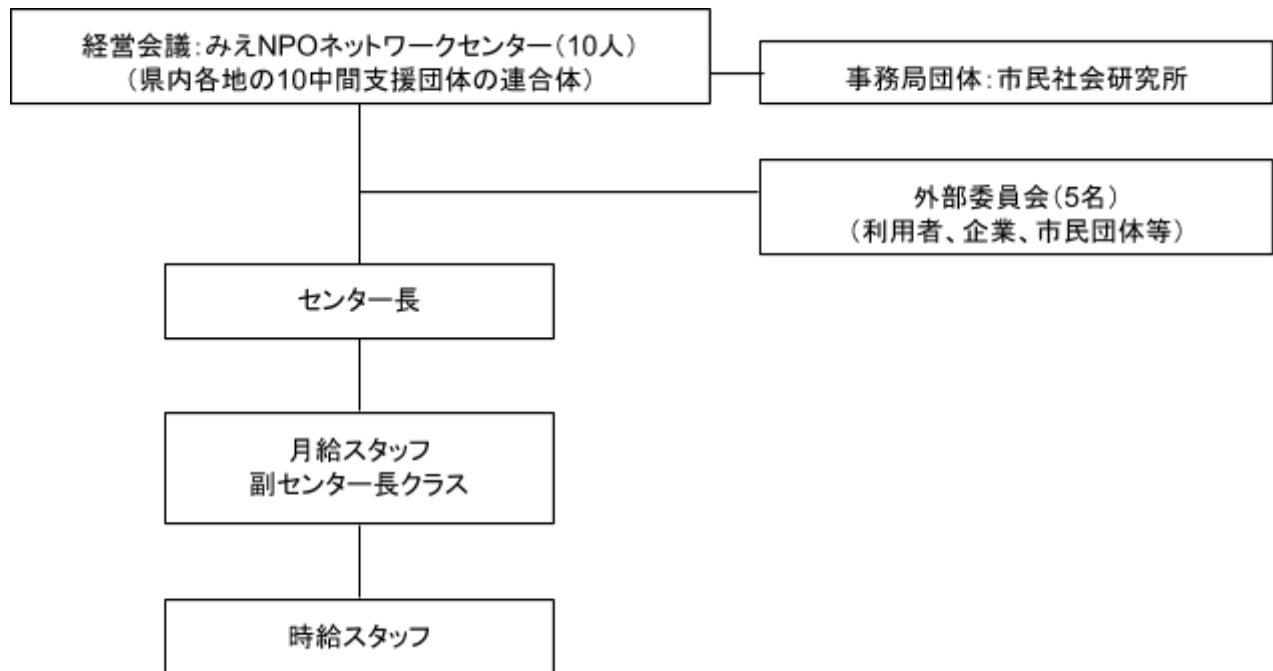
例) 物品販売の協力、広報協力 など

## ■組織及び人員に関する事項について

### (1) 人員の確保及び採用に関する基本方針について

- ①令和2年度は、既存スタッフを面接し、必要に応じて継続雇用することで安定的な運営を図るとともに、新規スタッフを雇用することで事業・事務の円滑化を図ります。
- ②センター長、副センター長は、職員、みえNPOネットワークセンター理事、または外部の有識者から人員を選定し就任します。

### (2) 職員の雇用形態、勤務形態、業務内容について



### (3) 職員の配置、勤務ローテーションについて

- A 8:45~13:45
- B 8:45~17:30
- C 13:30~22:15
- D 17:00~22:15
- E 9:00~15:00

※A~Eの組み合わせを基本にして、8:45~17:30間2名、17:00~22:15間2名の体制を維持します。

### (4) 人材育成方針及び具体的な方法について

#### ①人材育成方針

利用者に対して平等かつ温かい対応ができるとともに、市民活動、国際交流のセンターを担うにふさわしい人材の育成を行います。

#### ②職員の研修計画

- ・ NPO等市民活動に関する研修
- ・ 国際交流に関する研修
- ・ 救急救命研修
- ・ 防災、防犯に関する研修
- ・ 人権研修
- ・ 個人情報保護に関する研修
- ・ 不審者、強盗等に関する危機管理研修
- その他必要に応じた研修を行います。

みえ県民交流センター来館者実績

(単位:人)

利用団体数	交流 スペース	ミーティング ルーム	イベント情 報 コーナー	機材	勉強	カウン ター※	計
4月	123	346	158	22	21	689	1,256
5月	81	256	28	0	14	0	474
6月	249	938	361	139	35	119	1,075
7月	250	1,041	393	50	17	72	1,188
8月	188	605	337	35	11	129	1,032
9月	194	778	307	49	10	98	1,010
10月	227	876	321	116	12	123	1,186
11月	240	914	357	399	18	166	1,123
12月	181	710	249	57	20	152	1,153
1月	182	713	231	109	14	141	1,209
2月	198	713	402	56	15	108	1,434
3月	242	844	346	347	18	90	1,460
計	2,355	8,734	3,490	1,379	204	1,219	13,033

(単位:人)

利用内容	旅券 センター		おしごと 広場みえ		若者就業サポ ート ステーション・みえ		合計
	申請	交付	相談	その他	相談	その他	
4月	95	177	404	100	28	6	2,066
5月	93	149	229	54	17	7	1,321
6月	95	152	386	130	90	39	3,559
7月	76	139	586	132	109	58	3,861
8月	91	119	454	116	94	40	3,063
9月	71	87	507	104	110	63	3,194
10月	69	81	644	117	126	75	3,746
11月	73	96	477	102	97	88	3,910
12月	92	102	466	88	89	79	3,257
1月	72	94	428	80	105	53	3,249
2月	80	74	532	70	89	50	3,623
3月	125	114	717	103	110	72	4,346
計	1,032	1,384	5,830	1,196	1,064	630	39,195

※カウンターとは、チラシ類の閲覧、図書利用、相談など(スペース利用以外の利用)

## 2020年度 みえ市民活動ボランティアセンター利用料収入(年間)

単位: 円

種別	施設・機材・備品名	月												合計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
施設	交流スペースA	0	0	2,480	2,170	0	3,100	7,750	930	5,890	3,410	6,510	0	32,240
	ミーティングルーム	20,880	7,130	52,520	66,650	49,290	45,880	49,600	58,900	72,960	49,480	66,820	63,190	603,300
機材・備品	プロジェクター	0	0	0	1,350	900	1,350	2,700	1,350	1,350	450	0	1,800	11,250
	スクリーン	0	0	1,350	900	900	1,350	1,350	450	3,600	900	2,250	450	13,500
	ワイヤレスマイクセット	450	0	1,350	450	450	450	900	450	450	0	1,350	1,350	7,650
	有孔パネル・布ボード	0	0	900	0	0	0	1,350	3,600	0	0	2,700	450	9,000
	テレビ・VHS/DVDデッキ	0	0	1,350	2,250	450	0	450	450	450	0	450	450	6,300
	紙折機	450	0	450	900	0	450	0	450	0	450	450	0	3,600
	製本機(使用料)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	大型プリンター(使用料)	0	0	0	0	0	0	0	0	450	0	450	0	900
	鍵付きロッカー	63,750	2,250	2,250	1,000	200	200	0	400	200	200	200	200	70,850
	メールボックス	10,200	0	4,080	0	0	0	0	0	100	100	100	100	14,680
合計	95,730	9,380	66,730	75,670	52,190	52,780	64,100	67,430	85,000	55,440	80,830	67,990	773,270	

## 別表

種別	施設・機材・備品名	月												合計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
機材・備品	印刷機	7,590	10,440	10,050	11,920	8,480	8,140	6,210	9,490	15,450	5,680	5,450	7,570	106,470
	コピー用紙	410	0	0	410	2,050	0	0	410	0	0	410	1,180	4,870
	コピー機	0	210	8,900	4,140	3,730	6,800	8,170	6,770	5,320	4,610	6,990	6,920	62,560
	製本機(消耗品)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	大型プリンター(消耗品)	0	0	0	0	0	0	0	590	0	1,770	0	0	2,360
その他	チラシ折込料	0	68,000	24,000	0	26,000	50,000	7,000	0	62,000	50,000	0	0	287,000
	視察・見学受入れ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	コーヒーサービス	2,380	63,397	4,120	7,800	5,400	6,540	8,340	8,280	8,380	6,920	8,443	14,571	144,571
	横断幕作成サービス	0	0	0	0	0	3,990	0	0	0	0	0	0	3,990
	イベント収入(参加費など)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16,284	13,814	30,098
講師料等収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	10,380	142,047	47,070	24,270	45,660	75,470	29,720	25,540	91,150	68,980	37,577	44,055	641,919	

計 106,110 151,427 113,800 99,940 97,850 128,250 93,820 92,970 176,150 124,420 118,407 112,045 1,415,189

## NPOグレードアップセミナー

2020年10月20日(火)

「今の時に中間支援組織は、社会をどう変えるのか。」

グレードアップセミナー2020

**「中間支援組織って何をするの?」**  
そう、聞かれたら、どう答えますか。

**「NPOの支援をしています。」**  
**「えっ!どんな支援?」**

- ・NPOの人たもりの周りの相談にのっています。
- ・助成金情報など資金調達先をお知らせしています。
- ・NPO組織構築のための講座をしています。

確かに、すべて大切なこと。  
でも、私たち中間支援組織・センターには、  
担うべき役割やNPOに求められることが、  
もっとあるのではないのでしょうか。  
2020年度グレードアップセミナーは、  
コロナ禍において気づかされたことも含めて、  
中間支援組織・センターの役割、  
今後の事業展開について意見を交わします。

今この時に  
中間支援組織は、  
社会をどう変えるのか。

**第1回 中間支援組織の役割の再確認**

日 時: 2020年10月20日(火) 14:00~16:00  
場 所: みえ市民交流センター (オンラインでの参加可能)  
参加者: 市内中間支援組織の理事や職員の方  
中間支援センター職員の方  
主 催: みえ市民活動ボランティアセンター  
<プログラム>  
セッション1 中間支援組織のお仕事確認  
セッション2 今後の中間支援組織の役割について

申込締切: 2020年10月16日(金)  
申込方法: 下記URLよりお申込ください。  
[https://www.kokuchipro.com/event/GU2020\\_10](https://www.kokuchipro.com/event/GU2020_10)  
<お問い合わせ> みえ市民活動ボランティアセンター  
Tel 059-222-5995  
Email center@miespo.net

## NPO相談

第1回

2021年1月26日(火)

「はじめてみようNPO」

主催: みえ市民活動ボランティアセンター

# はじめてみよう NPO

市民活動やNPOに関わりたい、地域を良くするために向かいたい、NPOについての基礎知識を学びたいと考えられている方。

日 時: 2021年1月26日(火) 13:15~14:45  
場 所: オンライン (Zoomを予定)

NPOやボランティアに参加するにはどうしたらいいだろうか?  
NPOってそもそもなんだろうか?  
非営利でどうやって活動していくんだらう?  
思いをかたちにするにほんどんな方法があるのだろうか?  
そんな疑問や思いにお応えする『NPOの基礎』を学ぶ講座です。  
※法人設立の講座ではありません。



参加費: 500円  
定 員: 30名 (要予約) 1月20日(水)申込締切  
講 師: 四日市大学教授 松井真理子

<申込方法>  
申込URL: (<https://mierponyuumon2020.peatix.com>) またはQRコードからアクセスし、「チケットを申し込む」からお申し込みください。決済手続きの完了後、セミナーを視聴いただくためのURLをお知らせいたします。ご不明な点は下記お問い合わせ先までお願いします。

【お問合せ】  
みえ市民活動ボランティアセンター  
〒514-0009 三重県津市御幸町700 アスト33階  
TEL: 059-222-5995 FAX: 059-222-5971 Email: center@miespo.net

※申し込みに関して、お支払いの手続きや予約についてはPeatixの規約が準じます。Peatixのサイトもご確認ください。

第2回

2021年1月26日(火)

「1から学ぶNPO法人の設立方法」

主催: みえ市民活動ボランティアセンター

# 1から学ぶ NPO法人の設立方法

NPO法人の設立を検討している方、法人化するメリットとデメリット、法人設立に必要な書類や手続きについて学びたいと考えている方に。

日 時: 2021年1月26日(火) 15:00~16:30  
場 所: オンライン (Zoomを予定)

団体を法人化するメリット・デメリットや、NPO法人を設立するために必要な書類作成、手続きについて学びます。  
NPO法人の設立を検討している方、ぜひご参加ください。  
※任意団体併立の講座ではありません。



参加費: 500円  
定 員: 30名 (要予約) 1月20日(水)申込締切  
講 師: 三重県環境生活部ダイバーシティ社会推進課 NPO班 職員

<申込方法>  
申込URL: (<https://mierposetsuritsu2020.peatix.com>) またはQRコードからアクセスし、「チケットを申し込む」からお申し込みください。決済手続きの完了後、セミナーを視聴いただくためのURLをお知らせいたします。ご不明な点は下記お問い合わせ先までお願いします。

【お問合せ】  
みえ市民活動ボランティアセンター  
〒514-0009 三重県津市御幸町700 アスト33階  
TEL: 059-222-5995 FAX: 059-222-5971 Email: center@miespo.net

※申し込みに関して、お支払いの手続きや予約についてはPeatixの規約が準じます。Peatixのサイトもご確認ください。

## 2020年度 実施した主な事業のチラシ

### 「市民活動・NPO月間」の実施

第4回三重NPOグランプリ  
2020年12月5日(土)

**第4回 三重NPO MIE NPO GRAND PRIX グランプリ**

新型コロナウイルス感染拡大渦中だからこそ  
「NPOができること」提案プレゼンテーション

日時: 12月5日(土) 13:30~16:00  
場所: オンライン 対象: どなたでも  
定員: 70名

参加費 無料

タイムスケジュール  
13:30~13:40 開会・趣意説明  
13:40~14:55 各地域からのプレゼンテーション  
14:55~15:15 昼食・休憩  
15:15~15:35 東海ろうきん子どもの未来応援寄付金 寄贈式  
15:35~16:00 結業発表・講話

【主催】みえ市民活動ボランティアセンター・三重県

### 「協創」シンポジウム

協創シンポジウム  
2021年2月11日(木)  
「コロナ禍におけるNPO  
～新しい生活様式を協創する～」

協創シンポジウム 2020 2021年  
2月11日(木) 14:00~16:00 参加費 500円

コロナ禍  
における  
NPO

～新しい生活様式を協創する～

新型コロナウイルス感染症の影響により、より先が不安な日々が続く中、活動、生活... そのような中でも、自衛と活動を続けよう、続けたいと頑張っているNPOに出会いました。今年度の協創シンポジウムは、コロナ禍によって新たな活動をし始めているNPOの取組を披露、「先だからこそ活動、協働の場」を見つかりたいです。ゲストは、三重県が創設した「NPO 活動内務支援事業推進室」の岡野啓祐です。

協創シンポジウム 2020 2021年 2月11日(木) 14:00~16:00 参加費 500円

【ゲスト】  
特定非営利活動法人あおぞらとつなぎプロジェクト  
父子(ちちこ)の会  
動物福祉ムック王国

【当日プログラム(予定)】  
14:00~14:05 開場  
14:05~14:35 団体の活動発表  
14:35~14:55 協働者ディスカッション  
14:55~15:15 質疑応答  
15:15~15:20 休憩  
15:20~15:50 協創シンポジウム(ゲスト) 17:00まで  
15:50~16:00 交流会

【主催】みえ市民活動ボランティアセンター・三重県

### 三重ユース事業

2020年9月12日(土)  
「SNSの落とし穴に注意！」

三重ユース2020

鳥太郎 @toritaro 8月吉日  
SNSを安全に使うための  
～今さら聞けないSNS基本の④～  
を紹介するよ!

SNSの  
落とし穴  
に注意!

ステイホームで更に増えたSNS利用者数と利用時間。それと同時に見えない落とし穴が増え続けています。どうすればその穴を回避できるかシェアし合いたしましょう!

話すこと  
#過去のツイートを組み合わせると個人情報に大変身!?  
#見る専門の人にもトラブルに巻き込まれる!? (他多数)

こんな人におすすめ  
SNSを  
#これから始めたい人  
#何となく怖いものと思っている人

【日時】 2020年9月12日 13:00~16:00  
【場所】 アスト津3階 イベント情報コーナー  
※状況次第でオンライン開催に変更する場合がございます。  
【対象】 県内在住・在勤・在学の18歳~39歳  
【人数】 10人(先着順)  
【参加費】 無料  
【締切】 2020年9月9日 15:00まで

【主催・協賛先・お申込み先】  
みえ市民活動ボランティアセンター (協賛管理: みえNPOネットワークセンター)  
TEL: 059-222-5995 FAX: 059-222-5971 E-mail: center@mienpo.net  
HP: <https://www.mienpo.net/news/sns2020/>  
※ホームページのQRコードからお申し込みいただけます。

### 多文化共生・理解イベント

2020年11月21日(土)  
「妄想世界旅行～島しょ国編～」

多文化共生理解イベント Hand in Hand 2020  
あなたの豊かな想像力で「妄想世界旅行」へ行ってみませんか。

妄想世界旅行 島しょ国編

外国の文化を知り、理解する！まがまがとした想像力で「島しょ国編」！  
世界の地図のことを知ると、新たな発見があり、自分の世界が広がるかも...?  
外国に行きたくらいの好奇心をもっと知りたくて！でも英語が話せない...? そんなあなた！  
このイベントで、はじめて外国に行かないで楽しめる島しょ国編を1日中、一緒に「妄想世界旅行」へ行ってみましょう。  
(パオオからは事前に現地語の練習をしましょう！)  
外国は日本と同じ島しょ国(韓国)のフィリピン、ハワイに訪ね、フィリピンの生活、文化や日本での暮らし、ハワイの生活や日本の文化・習慣、韓国への関心などを学びます。2021年に活動予定の「島しょ国編」についてご紹介いたします!

11月21日(土) 13:30~16:30

場所: オンライン (ZOOMを利用予定) 定員: 50名  
対象: 外国の文化や習慣、SDGsに興味のある方 参加費: 無料  
申込締切: 2020年11月16日(月) ※申込については裏面をご覧ください。

主催: みえ市民活動ボランティアセンター  
多文化共生理解イベント実行委員会 主催費: (2800) 三重県国際交流財団 (MEFL) JICA 三重県庁

【問合せ先】  
みえ市民活動ボランティアセンター (協賛管理: 特定非営利活動法人みえNPOネットワークセンター)  
TEL: 059-222-5995 FAX: 059-222-5971 E-mail: center@mienpo.net  
URL: <http://www.mienpo.net/>





# 令和2年度 みえ県民交流センター

## 施設利用に関する利用者アンケート 結果報告書

本報告書は、みえ県民交流センター指定管理者みえNPOネットワークセンターが、みえ県民交流センターの利用者を対象に行ったアンケート結果に基づき構成されています。

実施目的：利用者の率直な意見・提言・要望等をセンター運営の改善・向上の参考にする。

実施期間：2020年10月1日(木)～10月31日(土)

実施場所：みえ県民交流センター

対象者：交流スペース及びミーティングルーム、イベント情報コーナー等施設団体利用者

回答内容については、以下の処理を行っています。

1. 一部、個人、団体が特定されない形で編集しています。
2. 文章のポイントを絞るため、編集しています。
  - (1)できるだけ原文そのままの形にしています。
  - (2)「ご意見等」について、お一人の書いたもの、または、一つの文章中であっても、文節で要点の異なるものは分けています。

## 2020年12月

みえ県民交流センター指定管理者

# はじめに

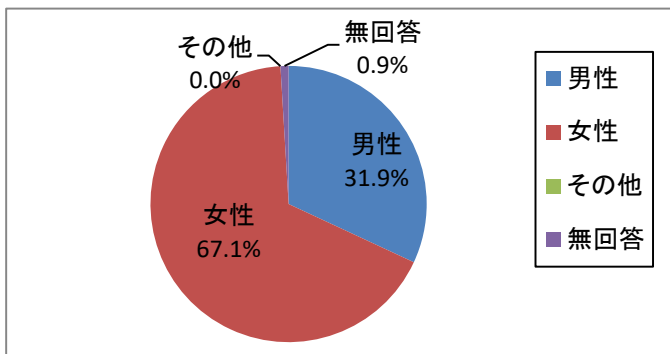
本アンケートは、令和2年10月1日から10月31日のアンケート実施期間中に、みえ県民交流センターを利用された団体の中から、任意に選んだ39団体に利用者アンケートへの協力をお願いし、213通の回答をいただきました。

## アンケート調査結果（団体利用者）

### 1. あなたのことについてお教え下さい。

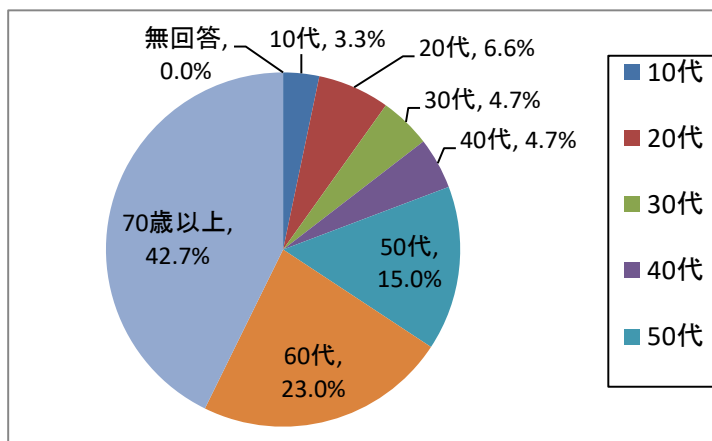
#### (1) 性別

男性	68	31.9%
女性	143	67.1%
その他	0	0.0%
無回答	2	0.9%
<b>合計</b>	<b>213</b>	<b>100%</b>



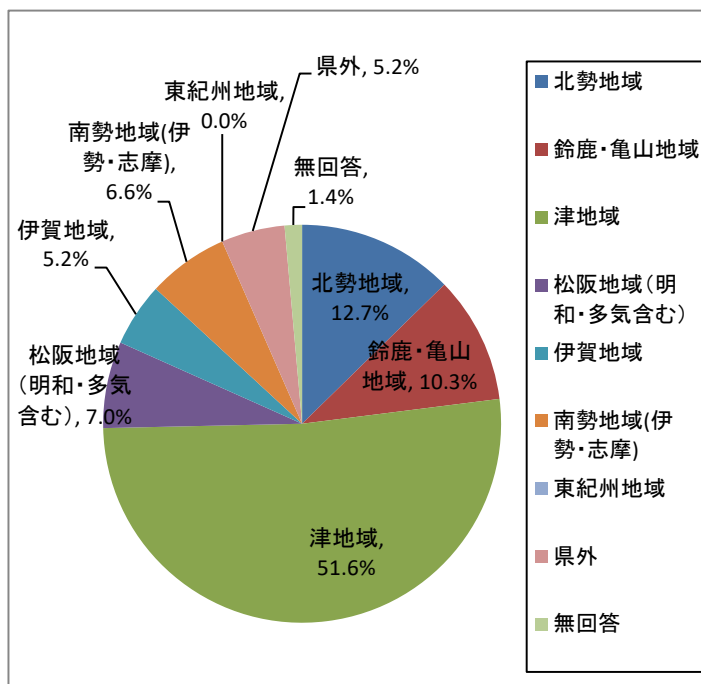
#### (2) 年齢

年齢	回答数	割合
10代	7	3.3%
20代	14	6.6%
30代	10	4.7%
40代	10	4.7%
50代	32	15.0%
60代	49	23.0%
70歳以上	91	42.7%
無回答	0	0.0%
<b>合計</b>	<b>213</b>	<b>100%</b>



#### (3) 居住地

居住地	回答数	割合
北勢地域	27	12.7%
鈴鹿・亀山地域	22	10.3%
津地域	110	51.6%
松阪地域(明和・多気含む)	15	7.0%
伊賀地域	11	5.2%
南勢地域(伊勢・志摩)	14	6.6%
東紀州地域	0	0.0%
県外	11	5.2%
無回答	3	1.4%
<b>合計</b>	<b>213</b>	<b>100%</b>

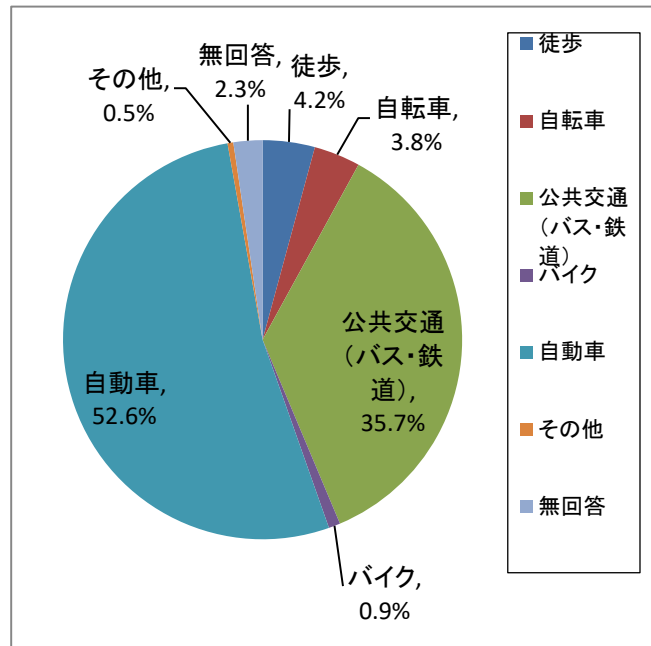


※「県外」の内訳

地域	回答数
愛知県	9
滋賀県	1
東京都	1

(4)交通手段

利用頻度	回答数	割合
徒歩	9	4.2%
自転車	8	3.8%
公共交通(バス・鉄道)	76	35.7%
バイク	2	0.9%
自動車	112	52.6%
その他	1	0.5%
無回答	5	2.3%
合計	213	100%

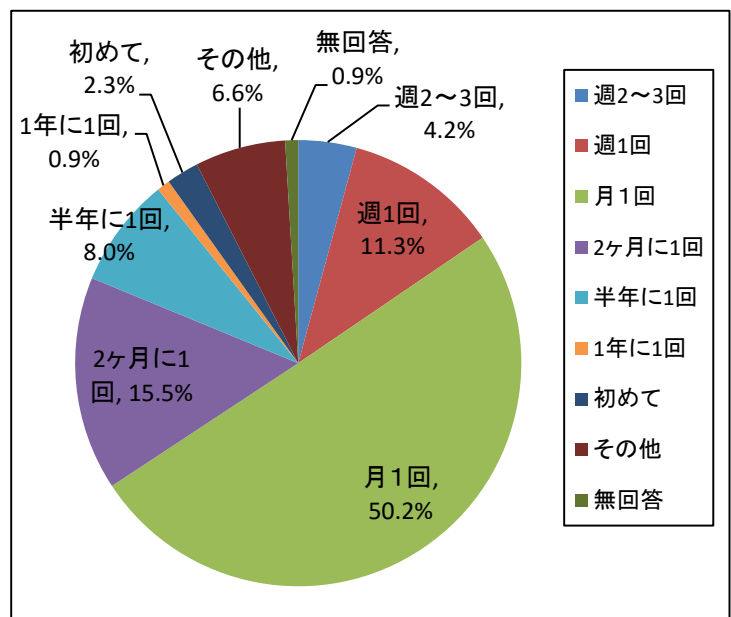


※「その他」内訳

交通手段	回答数
びん乗	1

(5)このセンターをどの程度ご利用になりますか?

利用頻度	回答数	割合
週2~3回	9	4.2%
週1回	24	11.3%
月1回	107	50.2%
2ヶ月に1回	33	15.5%
半年に1回	17	8.0%
1年に1回	2	0.9%
初めて	5	2.3%
その他	14	6.6%
無回答	2	0.9%
合計	213	100%



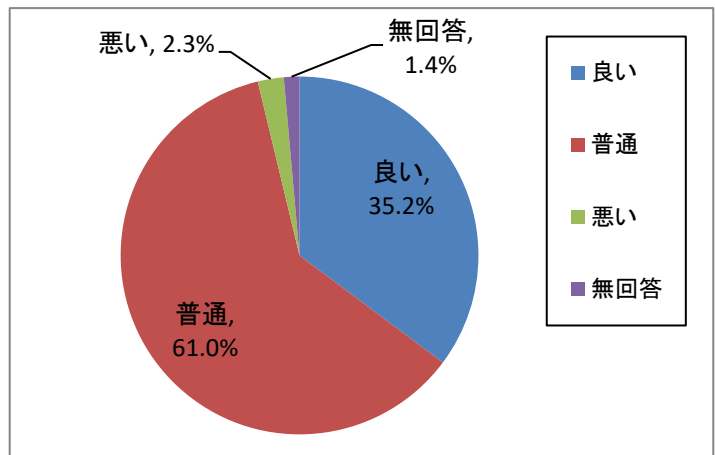
※「その他」内訳

利用頻度	回答数
2回目	1
月2回	6
月3回	1
年に2回	1
年に3回	2
年に4回	3
計	14

## 2. 施設についてお伺いします。

### (1)案内表示等はわかりやすいですか？

回答	回答数	割合
良い	75	35.2%
普通	130	61.0%
悪い	5	2.3%
無回答	3	1.4%
合計	213	100%



#### 「良い」と回答された理由

10代	きれいに整頓されており、見やすい
50代	何年も利用させて頂いているので

#### 「普通」と回答された理由

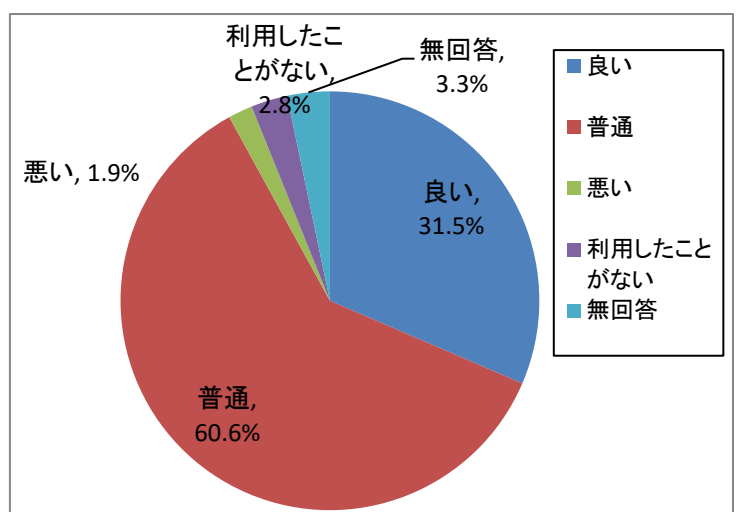
10代	トイレにまよっていたときに利用して分かった。
20代	案内表示がどこにあるかが分かりにくい。 利用していくと覚える。最初はよくわからなかった
70代	正面の予定表がみにくい

#### 「悪い」と回答された理由

50代	エレベーターホールからが難しい
60代	文字が小さい

### (2)施設の設備や備品は充実していますか？

回答	回答数	割合
良い	67	31.5%
普通	129	60.6%
悪い	4	1.9%
利用したことがない	6	2.8%
無回答	7	3.3%
合計	213	100%



「良い」と回答された理由

20代	延長コードやホワイトボードに助かっています
	多目的トイレがあるから
50代	駐車場が広くて良い

「普通」と回答された理由

20代	ほどよい、汚かったりはしない
40代	空調⇒暑い
60代	Wifiの強化とLANケーブル使用をお願いしたい

「悪い」と回答された理由

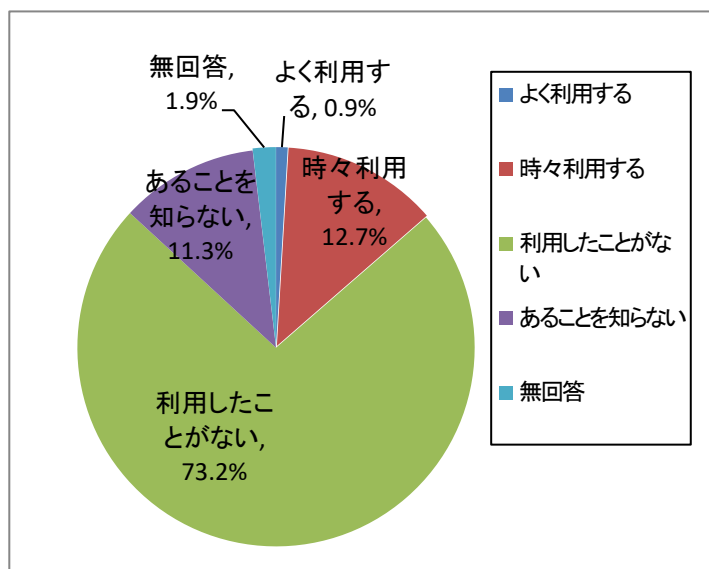
50代	他の団体の声で会場の内容が聞き取れない。夏暑い
	テレビをなおしてもらおうといいですね。
	空気の通りが今一つ、はめ殺し窓？、カバンを収納するかがない。
60代	はさみ、セロハンテープを一時も貸してもらえなかった(目の前でも使用不可)

「利用したことがない」と回答された理由

なし

(3)「図書コーナー」についてお伺いします。

回答	回答数	割合
よく利用する	2	0.9%
時々利用する	27	12.7%
利用したことがない	156	73.2%
あることを知らない	24	11.3%
無回答	4	1.9%
合計	213	100%



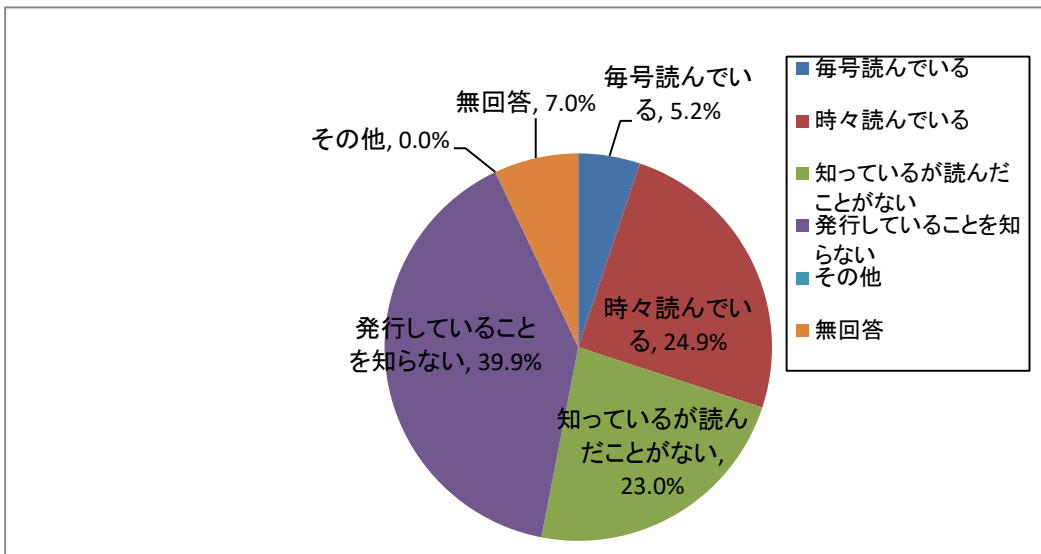
※今後、団体活動の参考にどのような書籍を望みますか？(具体的に)

50代	SDGs. 防災.
	海外図書.新しいもの.ex「地球の歩き方」
70代	折り紙の本
	「原発のことわりかた」
	外国人向の日本語教材

3. 当センターが提供しているサービスについてお聞かせください。

(1) みえ市民活動・ボランティアニュース【READER】についてお伺いします。

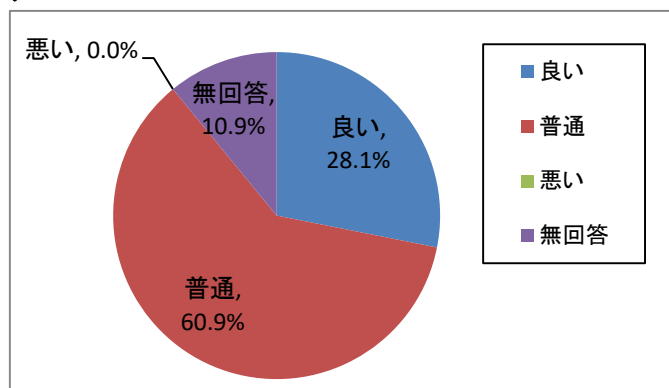
回答	回答数	割合
毎号読んでいる	11	5.2%
時々読んでいる	53	24.9%
知っているが読んだことがない	49	23.0%
発行していることを知らない	85	39.9%
その他	0	0.0%
無回答	15	7.0%
<b>合計</b>	<b>213</b>	<b>100.0%</b>



※「毎月読んでいる」「時々読んでいる」と答えられた方にお伺いします。

①紙面の見やすさ・内容・情報量はいかがですか？

回答	回答数	割合
良い	18	28.1%
普通	39	60.9%
悪い	0	0.0%
無回答	7	10.9%
<b>合計</b>	<b>64</b>	<b>100%</b>



「良い」と回答された理由

20代	デザインがきれい、特集が面白い
50代	情報がつまっている。
70代	カラーがきれいです

「普通」と回答された理由

なし

「悪い」と回答された理由

なし



②紙面の中で興味のあるコーナーは何ですか？

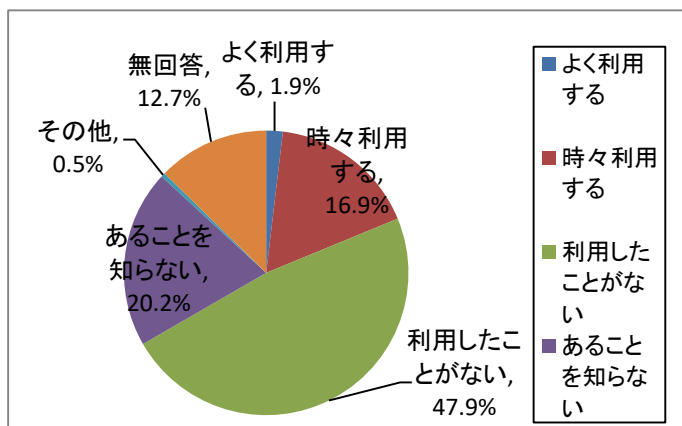
20代	特集コーナー
30代	特集
	新着図書、特集、SDGs
50代	特集
	助成金の情報など
60代	特集
	個人紹介コーナー
	地域の活動などの紹介.
70代	助成金
	特になし
	ボランティア団体の活動内容
	県内各地域の取り組み紹介.

③今後どのような記事や内容を望みますか？

20代	LGBTに関して
30代	SDGs続けてほしい
50代	市民社会のつくりかた. 多文化共生社会の現状
70代	特になし

(2) みえ市民活動ボランティアセンター『ホームページ』についてお伺いします。

回答	回答数	割合
よく利用する	4	1.9%
時々利用する	36	16.9%
利用したことがない	102	47.9%
あることを知らない	43	20.2%
その他	1	0.5%
無回答	27	12.7%
合計	213	100%



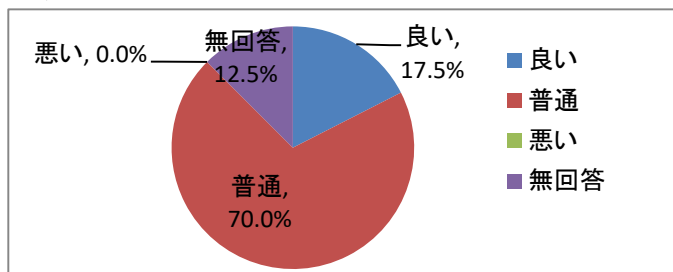
「その他」

50代	20、10、台風の時、HPに告示される旨でしるところとなった。
-----	---------------------------------

※「よく利用する」「時々利用する」と答えられた方にお伺いします。

ホームページの使いやすさ・情報量はいかがですか？

回答	回答数	割合
良い	7	17.5%
普通	28	70.0%
悪い	0	0.0%
無回答	5	12.5%
合計	40	100%



「良い」と回答された理由

50代	助成金情報 スタッフブログ
60代	みやすい.

「普通」と回答された理由

20代	スマホで見るとたまに画面が切れる
-----	------------------

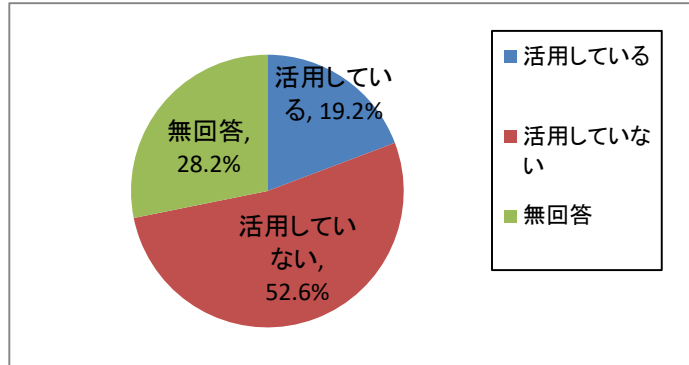
「悪い」と回答された理由 なし



(3)このセンターの情報についてお伺いします。

①設置している情報(チラシ・パンフレット・図書コーナー)を活用されていますか?

回答	回答数	割合
活用している	41	19.2%
活用していない	112	52.6%
無回答	60	28.2%
合計	213	100%



「活用している」と回答された理由

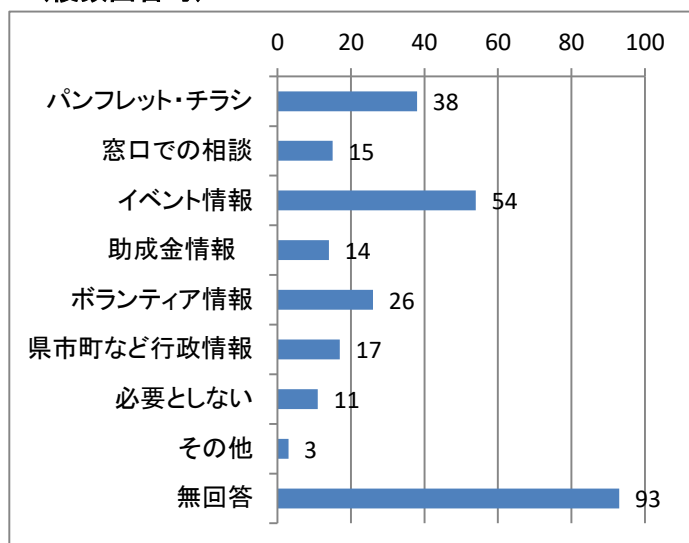
20代	デザインの参考
50代	興味ある物を家で読む
70代	団体の現在の活動内容 情報収集

「活用していない」と回答された理由

10代	あまりじっくり見たことがないから 知らないから。
20代	すどおりしてしまう
50代	興味がない
60代	あまり知らなかった
70代	時間がない 特に必要を感じない 高齢だから 遠方ゆえ

②今後どのような情報の充実を望まれますか？(複数回答可)

回答	回答数	割合
パンフレット・チラシ	38	14.0%
窓口での相談	15	5.5%
イベント情報	54	19.9%
助成金情報	14	5.2%
ボランティア情報	26	9.6%
縣市町など行政情報	17	6.3%
必要としない	11	4.1%
その他	3	1.1%
無回答	93	34.3%
合計	271	100%



※「その他」の内訳

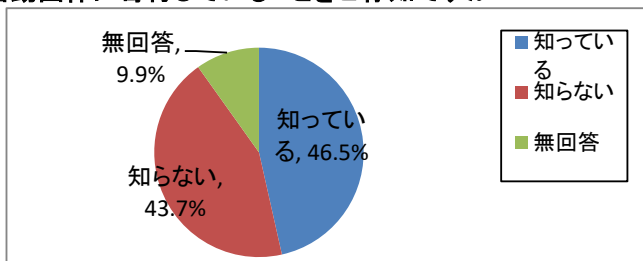
10代	一部のイベントでしか来ないのでわからない
30代	良く解らない
70代	必要な方には大切でつづけて下さい

4. コーヒー寄付金についてお伺いします。

カフェコーナーではコーヒー等を提供することにより、100円を寄付いただいております。

その寄付金総額(必要経費を除く)を、市民活動団体に寄付していることをご存知ですか？

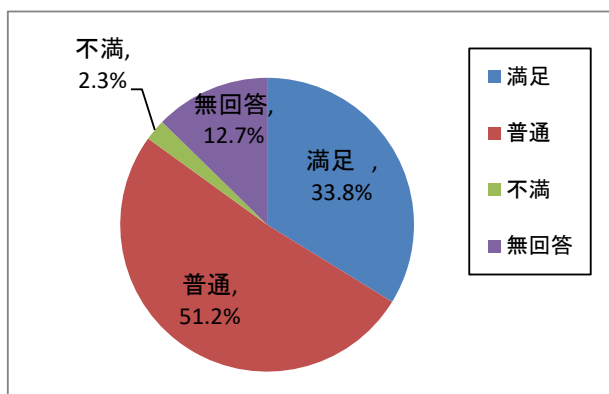
回答	回答数	割合
知っている	99	46.5%
知らない	93	43.7%
無回答	21	9.9%
合計	213	100%



5. 満足度についてお伺いします。

みえ県民交流センターについて総合的にどのくらい満足されていますか？

回答	回答数	割合
満足	72	33.8%
普通	109	51.2%
不満	5	2.3%
無回答	27	12.7%
合計	213	100%



「満足」と回答された理由           なし

「普通」と回答された理由

10代	アンケートに性別の欄があるから。
20代	ほどよい距離感
70代	両替をしたいとき人がいなかった
	電話予約を可能にしてほしい

「不満」と回答された理由

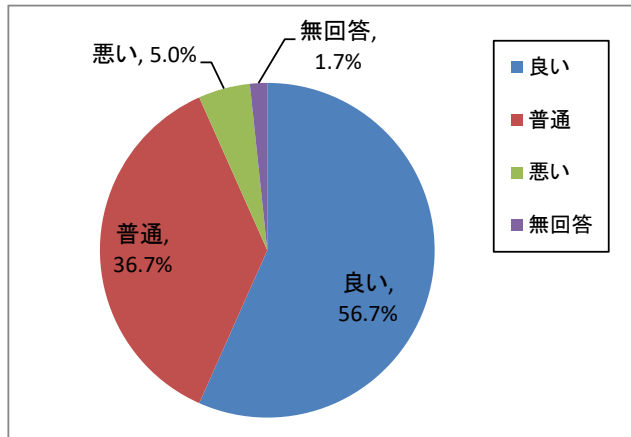
50代	人々が気易く集まれる場所、スペースに至っていない
60代	駐車料金が低い
	G(他の)の声で聞きとりにくい

「本日窓口で利用手続きをされた方」にお伺いいたします。

(窓口に来られなかった代表以外の方からも一部回答を得ました。)

(1) 利用する際の手続きや申請の方法はいかがですか？

回答	回答数	割合
良い	34	56.7%
普通	22	36.7%
悪い	3	5.0%
無回答	1	1.7%
合計	60	100%



「良い」と回答した理由

50代	少し手間がかかる。
-----	-----------

「普通」と回答した理由

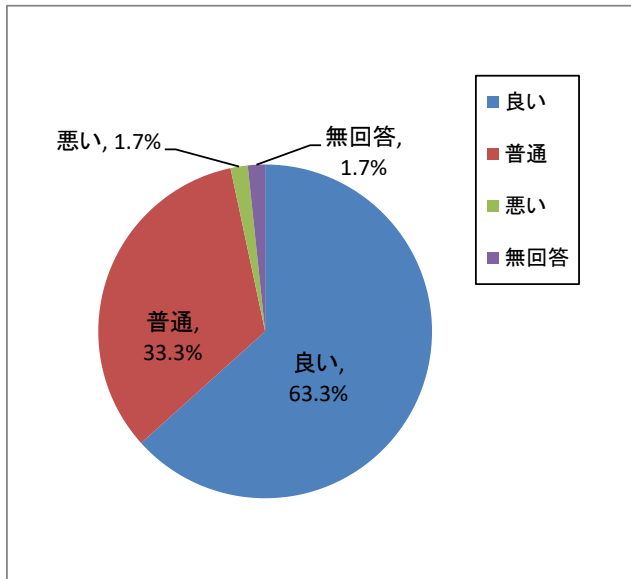
50代	HPから、せめて団体代表は、ID、パスなどを使って、利用の予約ができるようにしてほしい。
-----	--

「悪い」と回答した理由

70代	電話予約ができれば良い、予約の為に電車で1時間以上かかって予約している
	電話申込みが出来ない
	鳥羽在住のため電話予約可能にしてほしい

(2) 職員の対応はいかがですか？

回答	回答数	割合
良い	38	63.3%
普通	20	33.3%
悪い	1	1.7%
無回答	1	1.7%
合計	60	100%



「良い」と回答した理由

40代	親切な厳しい方(おじさん)がみえます。
50代	きちんと聞いてくださる。 ただし、ひとによる。

「普通」と回答した理由

50代	もっと、民間のサービス関係で従事された方も働いて欲しい。頑張っていると思うが、サービスの体験を仕事でできているとアイデアや発想はでてこないです。
60代	ときどき悪い

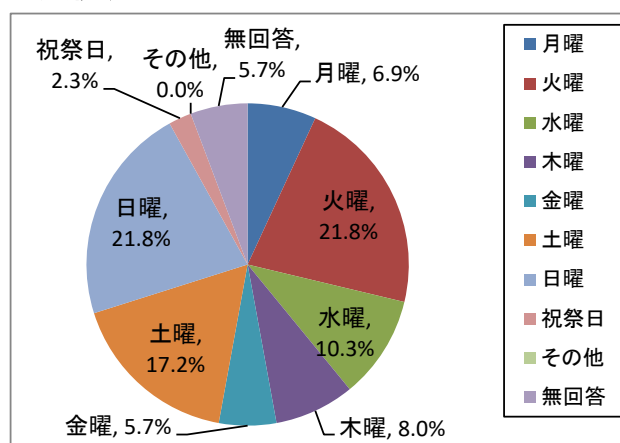
「悪い」と回答した理由

60代	悪いときがある
-----	---------

(3) 施設の利用日や利用時間についてお伺いします(複数回答可)

①よく利用される曜日にチェックして下さい。

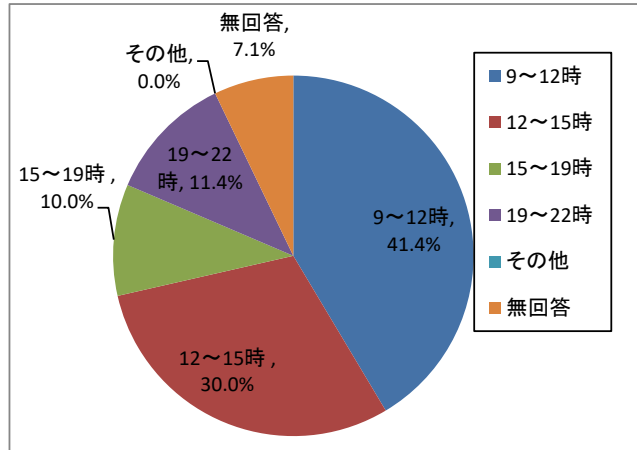
回答	回答数	割合
月曜	6	6.9%
火曜	19	21.8%
水曜	9	10.3%
木曜	7	8.0%
金曜	5	5.7%
土曜	15	17.2%
日曜	19	21.8%
祝祭日	2	2.3%
その他	0	0.0%
無回答	5	5.7%
合計	87	100%



※「その他」 なし

②よく利用される時間帯にチェックして下さい。

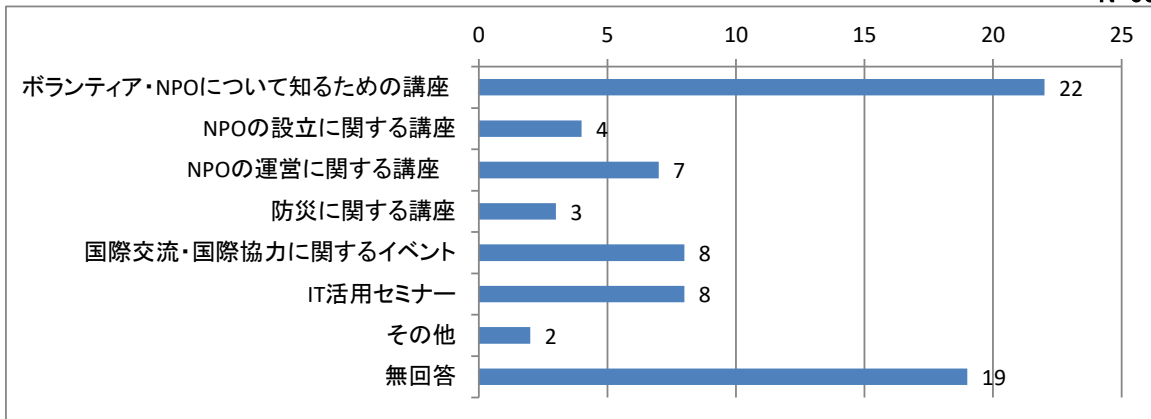
回答	回答数	割合
9～12時	29	41.4%
12～15時	21	30.0%
15～19時	7	10.0%
19～22時	8	11.4%
その他	0	0.0%
無回答	5	7.1%
合計	70	100%



(4)みえ県民交流センターでは、県民のボランティア参加のきっかけづくりや社会貢献意識の啓発・アピールを目的に、事業を実施していますが、今後、どのような事業であれば参加したいと思いますか？  
(複数回答可)

回答	回答数	割合
ボランティア・NPOについて知るための講座	22	30.1%
NPOの設立に関する講座	4	5.5%
NPOの運営に関する講座	7	9.6%
防災に関する講座	3	4.1%
国際交流・国際協力に関するイベント	8	11.0%
IT活用セミナー	8	11.0%
その他	2	2.7%
無回答	19	26.0%
合計	73	100%

N=66



※「その他」の回答意見

50代	難しいことだけでなく、もっと市民同志が横につながれるように補助して頂ければよいと思います。 ex.仲間募集の掲示板を設置して下さい。
70代	年齢が上になり なかなか思うような活動に参加出来なくなりつつ 望みがなくなったわけでもなく、、、、駐車が安くなるように願います。

## 2020年度 第1回外部委員会 議事録

日時：2020年9月25日（金） 18:00~19:30

場所：津市羽所町700番地 アスト津3階 みえ県民交流センターミーティングルームA・ZOOM

### 【出席者】

外部委員（敬称略）

	名前	所属	オンライン
1	青木 研輔	東大手の会 代表世話人	○
2	岩脇 圭一	津市議会議員	
3	世古口 文子	NPO法人めいわ市民活動サポートセンター 代表理事	
4	松岡 俊秀	三重森林インストラクター会	○

三重県・指定管理者

	名前	所属	
1	小川知佐子	三重県ダイバーシティ社会推進課 多文化共生班 副課長	
2	牧田 拓巳	三重県生活環境部ダイバーシティ社会推進課NPO班 班長	
3	松井真理子	特定非営利活動法人みえNPOネットワークセンター 代表理事	
4	新海 洋子	みえ市民活動ボランティアセンター センター長 特定非営利活動法人みえNPOネットワークセンター	
5	佐藤 玲子	みえ市民活動ボランティアセンター 副センター長 特定非営利活動法人みえNPOネットワークセンター	

### 0. 挨拶

松井：本日もいろいろご意見をいただきたい。

小川：ダイバーシティ推進課の小川です。

新海：今年からお世話になっております。今年度事業について、次年度の事業や今後のセンターの機能についてご意見をいただきたい。

### 1. 議事

#### (1) 報告事項 ※別紙資料参照

- ①2020年度みえ市民活動ボランティアセンター業務内容等について
- ②現時点における実施状況と成果と課題について
- ③今後の事業の実施について
- ④意見交換

◆PP資料を使用して、2020年度事業について説明。

松井：説明に関して質問などがあればお願いしたい。

<新型コロナウイルス感染症拡大対策に関する事業について>

岩脇：三重県では文化、演劇関係の団体もアンケートをとって県議会にあげた。県も文化団体の支援に取り組みだした。みえ市民活動ボランティアセンターのコロナ調査のアンケートには、今後必要なサポートも書いていただいているので来年度に役立ててほしい。

松井：今回とったアンケートについて、かなりメディアに取り上げられた。10月に日本NPOセンターで開催するセミナーに登壇して行政とNPOの協働の事例紹介する予定である。

岩脇：昨年度事業と変えたところはあるか。

松井：アンケート結果を踏まえ、コロナの影響を受けているNPOを対象に、相談事業とオンライン事業を5地域の間接支援団と連携して実施した。

新海：5地域以外にも、伊賀市がオンライン講座に興味をもち、地域の団体向けにZOOM講座をしたり、鈴鹿市から中間支援の運営について相談を受けている。その流れから中間支援の仕事の棚卸をして地域での役割を明らかにするためにグレードアップセミナーを行う。

岩脇：コロナの時代の変化で中間支援がやるべきことが浮かび上がってきた。

### <NPOグランプリについて>

松井：今年度はNPOグランプリのやり方を変えた。過去順位を付けることで軋轢が生まれていた。各地域で一丸となってコロナの時代にどんなことができるかの提案合戦をする。

### <HPのリニューアルについて>

松岡：ホームページのリニューアルは終わったか。

佐藤：85%くらい終了した。

松岡：現在紙ベースでミーティングルームの申請をしている。オンラインで申込ができるとうい。

佐藤：検討はしてきたが、予算の関係で導入は難しい。

松岡：利用者側の立場だとオンラインでお願いしたい。私の所属している環境保護系のNPO団体などは高齢化が進んでいるが、今後の世代交代などを考えるとオンライン化が必要ではないか。

青木：予約のオンライン化は単独の施設での導入はコスト面から難しいのではないかと。三重県では公共施設の予約を集中的に管理するシステムはないか。

牧田：オンライン予約ができる施設はないと思う。愛知県はあるのか。

青木：出先の公共施設を含めたシステムがあるのかはわからない。

### <災害に関するNPOネットワークについて>

青木：自分は中間支援畑の人間なので、災害時の役割や平時からのネットワーク作りは大切だと思っている。三重県の中で中間支援の役割の議論を教えてほしい。

松井：現在調査をして各地域のNPO法人と任意団体とを調査しており、NPOのネットワークを作る構想はある。プラットフォームは必要だと思う。アンケートをどう生かすかがこれからのテーマである。

### <中間支援センターについて>

新海：中間支援センターの役割と市町の行政のNPO施策がどう変わったか、また中間支援組織のビジョンについて考え始めている。コロナがなければ、地域を回ってヒアリングをする予定だった。コロナの中でどういうことができるのか、少し見え始めてきた。三重県民が中間支援の必要性を感じてもらえるような事業を実施しないといけない。

青木：最近の三重県でのコロナ対策関連のNPO支援の動きを参考にして、愛知でも何かできないか検討したがなかなか実現できていない。日本NPOセンターのセミナーには参加する予定である。

世古口：これまで体験していないような時代になった。毎年8月に登録団体の発表会をしていたが、11月に2週間展示会（写真やDVD）をすることにした。

明和市民活動センターは2か月くらい、閉館していた。その間にお手紙などで登録団体に連絡をしていた。講座の問い合わせがあり、その人たちから「人と会いたいという気持ち」が伝わってきた。形を変えながら交流ができるようにしないといけない。高齢者の方にもスマートフォンなどで繋がれる方法を考えないといけない。グレードアップセミナーは話し合う機会になるといい。

新海：最初、NPOのZOOMの講座のニーズがないのではないかと指摘され、実施を悩んだが、高齢者の方も積極的にスキルを取得し、ZOOMを使うことができるようになった。とはいえ、まったくオンラインを使いたくない、使わない人もいる。日本で暮らす外国の方のコミュニティに情報を届けるにはどうしたらいいか、も考えている。

### <妄想世界旅行について>※PP・チラシ参照

松井：妄想世界旅行にパラオ高校が登壇してくれるそうだが、は通訳の手配はできているのか。

新海：JICA三重デスクのスタッフが担当する。三重県の高校生、若者が参加できると良いので、鈴鹿高校や三重大学に声をかける予定である。松井先生に四日市大学の学生のPRをお願いしたい。

小川：パラオは三重県の友好国である。毎年水産高校の生徒がパラオを訪れていた。

岩脇：自分の地元の中学はフィリピン系の子どもが多いのでつながると良い。

## (2) 協議事項

### ①三重の市民セクターのためのセンターのありかた・機能について

- ・できていること（強み・資源）
- ・できていないこと（弱み）
- ・今後取り組むべきこと
- ・今後必要な機能について

## ②みえ市民活動ボランティアセンターの業務改善について

### <中間支援組織（センター）との連携>

松井：津や松阪、四日市などはつながっているが、中間支援組織がない地域、行政が公設公営でセンターを運営している地域のサポートができていない。明和町はが世古口さんがいらっしゃるからつながれる。特に南部の団体とつながりたい。

世古口：社協の広報誌に高齢者向けのカフェなど集まる場の紹介があるが基本的に福祉に特化している。社協のボランティアセンターが中間支援団体の代わりに担っているところもある。明和町の社協もそうだが、高齢者や障害者の活動が中心である。環境や子どもなどの分野に取り組む団体が活動・交流できる場所があるといい。

### <行政との協働について>

新海：三重県の市町、自治体の市民活動やNPO、協働部局の担当者が集まる機会はあるのか。

牧田：持っていない。

岩脇：県が協働ということをだんだん言わなくなっている。今の知事は「アクティブシチズン」という言葉を使っているが、NPOへの施策は減っている。NPO側も自治体と協働するためのアジェンダを示せない。コロナのことを考えると行政だけでやりきるのは不可能なことが分かってきた。行政とNPOがどんな課題を協働で解決・改善していくのが良いのか。課題の洗い出しが必要である。

松井：昔は、県と市町村に上下関係があったが、最近是对等になってきて、県が呼びつけることがなくなった。対等になったが、県としては市町と連携した事業が作りにくい。

新海：災害のプラットフォームがきっかけになるのではないかと考えている。1年半かけて、地域のNPOと地域の中間支援組織（センター）、そして広域を担うみえ市民活動ボランティアセンターネットワークで、災害のNPOのプラットフォームをつくることとしている。そのプロセスに、行政参画、NPO参画、協働をいれていかないといけない。特に、南部が課題である。

松井：明和町は自治会がどう動くのか、という発想が強いような気がする。思いだけにとどまっているのではないか。地域単位では盛り上がるが、そこで止まっているのではないか。

岩脇：災害ボラセンについて、運営経費の問題があると聞いている。みえ市民活動ボランティアセンターで人をどう工面するのか、予算をどう工面するのか、といった懸念事項がある。しかし、広域災害になると県域の調整機能が大切になるのでテーマに置いて欲しい。

世古口：三重県は防災について力を入れていると思う。社協は弱者の方を中心に動く。連携は大切になる。

新海：国は県の邪魔しない、県も市町の邪魔しないという鉄則があると思う。市町を県が補完し、市町と県の保管を国がするという発想である。まだ、三重県のNPOおよびNPOを取り巻く企業や行政、大学のポテンシャルを把握しきれていない。

岩脇：三重大の防災と地域の防災の繋がりは薄いと感じている。災害コーディネーターは自治会の会長が多い。市民団体の縦割りができているのではないか？

世古口：災害コーディネーターのコミュニティができると良いと思う。発揮できる場がないのではないか。

### <みえ市民活動ボランティアセンターの認知度アップ>

松岡：前段でみえ市民活動ボランティアセンターの取り組みの報告をいただいたが、どれくらいの方がこのセンターや利用方法を知っているのか。自分も紹介をされるまでみえ市民活動ボランティアセンターを知らなかった。周知活動がもっと必要になる。

松井：津市に住んでいたら津市のセンターをイメージしますか。

松岡：行政が真っ先に思い浮かぶ。

松井：どちらかという、真っ先に地域の市民活動センターが思い浮かぶようになってもらいたいと思っている。県のセンターを誰に知ってもらうのか、を同時に考えねばならない。

青木：私も松岡さんのご指摘の点は気になっていた。中間支援の活動への認知をどこまで広げることができているのか、自分ごとの課題として捉えている。的外れかもしれないが、例えば災害コーディネーター養成講座を受けた人たちとつながって彼らが持つ関係性を掘り起こせると、どのネットワークに情報が届いているのか、いないのか、などがわかるのではないか。

愛知の「おたがいさま会議」はさまざまな人が参加している。JCや行政職員なども参加している。情報を広げる力をもっている人とつながる必要がある。ふじのくに財団が、オンライン配信の機材と人を派遣する事業をしている。センター側からNPOへアウトリーチすることも必要だと考えている。

### <当センターの機能>

新海：当センターは講座やセミナーが多い。講座やセミナーをしたあとの参加者へのフォロー・継続性がない。積み重ねが見えない。どんな成果と変化があるのかわからない。

牧田：センターは必要であり、有効活用してもらうために、利用者数を数値目標に置いてある。

新海：センターに人を集めるアプローチと、事業で変化を促すアプローチは、手法もプロセスデザインも違う。

牧田：指定管理者公募時に県で目的（※県民の自発的な社会貢献活動と国際化の促進）、数値目標、事業の大枠を設定し、NPOネットワークセンターさんからそれを満たす事業が提案され、実施いただいている。現在は数値目標の達成が目的化しているのかもしれない。

前回議論されたように、オンラインが進めばセミナーにも参加しやすくなるので、その参加者も利用者に入れるなど捉え方を変えることも必要。また、以前は広いスペースが必要だったが、20年が経ち、今後もそれが必要なのか、指標とともに考えないといけない。難しい課題だが、グレードアップセミナーで中間支援のあり方等が検討されると聞いているので、参考にしたい。

岩脇：利用者数で指標を取るの難しい時代になってきている。行政も市民活動支援センターもアウトカムを示すことができていない。

松井：5年間の指定管理だったが、それが明確になっておらず事業計画のみにとどまっている。市民活動がどう発展するか、ではなく、課題にどうコミットしているか、という発想が弱い。社会にどうコミットしているのか、を見せていかないといけない。

松岡：共感した。環境保全の団体のブームのような活動は、流行りから時間がたって高齢化している。これからどんな風にコミットしていくのか、が大切。

### <今日の会議から一言>

青木：呼んでいただいて貴重な話がきけた

岩脇：NPOに関わって、頭で考えていたことと現実のギャップを感じた。理論をどう実践するか、もう一度考える時期になってきた。

世古口：原点に戻って考える機会になった。

牧田：ご意見ありがとうございました。悩みが深い、知恵を絞っていききたい。

小川：話が難しい部分もあった、勉強していきたい。

新海：ありがとうございました。いただいた意見を踏まえて、次年度、次の5年の事業等を考えたい。テーマとしては、多文化共生、災害は重要だと思っている。いかにつなぐか、が試されている。次回の会議は2月だが、次の会議ではもう少し具体的な案件についての意見交換をして、2021年に生かすことができるように会議設計をする。

10月20日のグレードアップセミナー、11月21日（土）妄想世界旅行、など行事を立て続けに行いますが、ぜひ実に来て下さると嬉しいです。

## 2. 他

(1) 第2回外部委員会の日程等について

日 時：2021年2月19日（金）18:00 ～ :

場 所：みえ市民活動ボランティアセンター



## 2020年度 第2回外部委員会 議事録

日時：2021年2月19日（金） 18:00~19:30

場所：津市羽所町700番地 アスト津3階 みえ県民交流センター（ミーティングルームB）

出席者8名（外部委員4名 三重県1名 指定管理者3名） 別表参照

### 1. 議事

#### (1) 報告事項

##### ①委員の近況報告

青木：体調を崩し2週間くらい仕事ができなかった。最近は健康に気をつけて暮らしている。今は回復している。

世古口：予算の時期に入り町の担当課と話をしている。施設利用料が高くなる。契約を見ると変更がある場合は協議をすることになっているが、事前に協議がなかった。現在厳しい状況にある。中間支援が稼ぐということに対して知恵を出さないといけない。使用料という名目ではお金を得ることが出来ないの、協力金をいただくのはどうか、といった提案もあるが、小さな団体から協力金をいただくのはどうなのか、と悩んでいる。

松岡：10月に転職し、愛知県春日井市に単身赴任をしている。転職先はアウトドアのイベント開催を業務としている企業だが、コロナの影響で、現在は事務仕事が多い。森林インストラクター会もイベントを自粛している。

##### ②2020年度のふりかえり（成果と課題）について（資料1）（資料2）

【説明】「令和2年度みえ県民交流センター事業振り返り・改善ポイント」参照。

みえNPOネットワークセンターの理事が2020年度の事業の振り返りをし、意見・提案の抜粋が記載されている。その中でも特に「今後どのような機能や事業が必要か」（P5）を確認していただきたい。また、パワーポイントの資料で具体的な事業の報告と利用者アンケートがあるので併せてみていただきたい。事前に見ていただいていると思うので、ご意見等いただきたい。

また、みえ市民活動ボランティアセンターは、「行動する県民の増加・力強い市民セクターの形成・多様な主体の協創・多文化共生社会の形成」の4つの方針のもとに、これまで4年間事業を実施している。2021年度が指定管理5年目となり、この方針に基づいた事業を展開し、どこまでどのように何を達成できたか、の評価をすることとなる。

今日皆さんにお聞きしたいのは、4つの方針のうち「力強い市民セクターの形成」についてである。皆さんのご経験や知見から具体的にどのような状態になったら「力強い市民セクターの形成」ができたことになるのか、についてのイメージ、お考えをお聞きしたい。

#### (2) 協議事項

##### ①2020年度事業の成果と課題について（資料1）（資料2）

##### ②みえ市民活動ボランティアセンターの機能・役割について（資料1）（資料3）

#### <力強い市民セクターの形成とは>

松井：「力強い市民セクターの形成」とはどういう状態なのか。意外と曖昧ではないか。議論を深めるためにご意見をいただきたい。普段の活動の中でつかんでいることをお聞かせいただけないか。

青木：この4つの方針に紐づいたアウトプット・アウトカムは指標はあるのか。

松井：ない。

青木：役員の議論からスタートしているのか。

松井：次期5年の指定管理の申請を行うことになるが、その際にこのテーマを振り返る必要がある。今までアウトカムなどの指標を持たずに進んできている。少なくとも「力強い市民セクター」どういう状態で、どのように向かっていくのかという到達点が共有できていないとアウトカムが考えられない。改めて考えていかなければならない時期であると痛感している。

新海：走りながら見出ししていくプロセスを重視するという点で、事業をしながら「力強い市民セクター」を積み重ねてきたのではないかと。しかし、現段階では、ゴールに向かって仮説を立ててバックキャストिंगをして今もしくは今後すべきことを実施しなければいけない。みなさんの団体がどのような目標設定で、どのように指標を作って事業を展開しているのかについてもお聞きしたい。

松岡：この4つの項目をあげた背景はあるのか。何か課題があったのか。

松井：県の応募要項には、市民活動に関する仕事と多文化共生に関する仕事などの枠組みが最初から提示されている。三重県がアクティブシチズンや協創を掲げていることもあり、県の目指している方向が書かれている。

松岡：課題があってその改善・解決に向けて、スローガンができたのではないかと。三重県が目指しているものを明らかにしないとけない。評価がぶれてしまうのではないかと。

新海：県は県、NPOはNPOと考えている。みえ県民力ビジョンには、その必要性について県の考えが書いてある。それはそれとして、NPOが「なぜ力強い市民セクターが必要だと考えているか、力強い市民セクターとはこういう状況である」といったことを伝えることが、NPOが指定管理者になる価値である。

松岡：どう評価しているかわからない、というところが齟齬していないか。

松井：そもそも三重県は、明確に具体的に目指しているものがないのでは、と思っている。市民活動や中間支援組織の役割についてのイメージはあると思うが、具体的な事業やどこを目指していくのかは書かれていない。

新海：力強い市民セクターはそれぞれにイメージがあると思うが、SDGs でいうならば、「誰一人取り残さない社会」だと考えている。市民セクターが、市民すべてを思いやって、社会の中でとり残されないように、行政や企業ができないことをきちんと行い、人権を守り環境を守り支えあうという力強さではないかと。市民が主権と当事者意識をもって、支えあう社会をつくる。みなさんが、どう説明するのかお聞きしたい。

松井：個人個人が自分の頭で考える。つながる力を持つ。思ったことを形にするためにNPOがある。どういう状態になると良いのかを言葉にする必要がある。

岩脇：三重県には明確なイメージができていないのか。アクティブシチズンとは「例えば・・・」が言えない。2021年度の災害防災事業の場面では市民セクターが明確に感じることができると思う。しかしコロナ禍では集まることができず、市民セクターの力を示しにくい状況が継続している。災害は今年も大雨など起こる可能性がある。コロナ禍かつ災害防災事業となった時にどう力強い市民セクターを形成・演出するのにどうすることができるか。難しいと感じている。

松井：災害防災の事業の説明はこの後するが、そもそも力強い市民セクターとは？どういう状態を目指せばいいのか？どう思うかをお聞かせください。

松岡：「力強い市民セクター」という言葉が抽象的でイメージができなかった。市民セクターとは、なにか。

松井：いろいろな考え方があると思うが、構成要素で例えば国・自治体、政府という固まり、経済を回していく企業・営利というセクター。もうひとつが、それ以外の政府でも企業でもない第3番目の公益的な活動をしている非営利セクターを市民に向けて市民セクターと呼んでいる。自治会や協同組合や社会福祉協議会なども入る。全部を対象にはできないのでNPOを中心としている。

松岡：例えば、私が所属している森林インストラクター会が力強く活動していけるように、みえ市民活動ボランティアセンターが形成していくことでしょうか。

新海：個別組織の「力強さ」は育むためのサポートという面もあるが、もう少し広く、市民セクターが政策プロセスに参加する、行政や企業と対等に社会参画する市民セクターの形成、といった面での力強さを育むことではないかと理解している。欧米に比べ、政策プロセスや企業の商品開発への参加が日本ではまだまだ十分にされていない。

松岡：政策などに参画するNPOがどれくらいあったのかを指標としてはどうか。



新海：来年度は災害・防災をキーワードに地域と連携して考えたい。

### ③次年度事業について（資料1・資料3）

【説明】資料3のPPの図にあるように、2021年度も4つの方針に基づき事業を展開するが、「防災・災害」をすべての事業の軸におくこととした。「防災・災害」は、すべての人の命にかかわり、NPO、市民活動団体が地域内で、県域で「誰一人とり残さない」状態をどうつくるか、つながりや関係性をどう育むことができるか、という領域での共通の課題をもっている。2021年度の事業、みえ市民活動ボランティアセンターの機能についてお聞きしたい。

#### <防災・災害を共通課題にした事業展開について>

松井：来年度は一つ筋を通したい、これまであれもこれもやってきて成果が見えづらかった。

新海：一つのテーマに絞ってつながりをつくっていく手法に対してのご意見をお聞きしたい。どういつなぎかたや絞り込みかたができるのかアドバイスいただきたい。・絞り込み方ができるのかアドバイスをいただければ。

松井：なぜ防災か、を補足すると、理由はこの課題に対して関心が高い。多様な主体との協創（行政・地域コミュニティなど）を考えた時に繋がりやすい切り口である。

岩脇：みえ市民活動ボランティアセンターは中間支援組織であり、防災・災害NPOが行う事業をする必要はない。中間支援組織が行う特性や意味合いはなにか。

新海：2018年にNPO法人、2020年度は任意団体に、災害時に何ができるか、自団体が災害にあったとき何が困るか、といった項目のアンケートを実施した。防災・災害のNPOだからできること、防災・災害NPOではないからできることがある。団体の中には、自分たちの強みが活かされるかもしれない、といった内容もあった。災害NPOは現場で働く、災害後の暮らしの課題は災害NPO以外が対応する、例えば被災した外国人の方の支援などはその分野のNPOが対応できる。災害・防災は、人の健康と暮らしの課題であり、さまざまな分野、主体がつながりあうことで人びとを守ることができる。

岩脇：災害は誰もが対象になる。いつ起こるか分からない災害においてNPOはスピード感を持って行動できる。通常からの関係性が大切である。

世古口：災害の時にNPOが、どれだけ地域のリソースを把握してコーディネートできる力をつけているかが、重要となる。そういった力をつける必要がある。企業は社会貢献をしたいと思っている。災害時にこういう支援ができるという一覧があると良い。

新海：そういうつながりが日常的にあることで力強い市民セクターにつながっていくと考えている。

青木：災害防災にコロナも含まれるのか。

新海：人の命が危ぶまれる状況において、という点では含まれる。

青木：事業体系図の中で「NPO・ボランティア団体のネットワーク化」がある。災害・防災を軸に横に広げられるのではないかと考えた。名古屋のNPO法人レスキューストックヤードは、NPOが平時からネットワークをもっていると、発災時に連携して活動がしやすくなるということで「おたがいさま会議」という取り組みを毎週、火曜日の16時から行っている。コロナで困っている団体や行政の担当者や企業の人などがゲストになって話題提供をしている。行政や企業の人も参加していて、現場のNPOのことを知る機会になっている。参考になるのではないかと。

松岡：森林インストラクターとして、森に携わっているものとして防災という観点で気になっていることがある。千葉県で倒木が原因で大きな停電があった。三重県でも倒木で電線が切れることは起こりうると思う。森林保護、環境保全の団体は個々だと力が弱いので連携することでできることもある。倒木になると、所有者・行政主導の業務になることもあるがNPOが協力してできるようになると良い。

## 2. 他

### ①委員のコメント

岩脇：久しぶりにこういう議論をした。DXという話も出てきている。単なるIT・ICTの話ではなく、大きく社会全体がデジタル化で変わっていく。NPOの活動も変わっていく可能性もある。そこを意識しながら活動していった方がいい。

牧田：オブザーバーという立場で申し上げると、根本の思想的な部分について、多様なバックグラウンドを持つ方々が深い議論をしていただけることは非常に大切だと思う。今後、結実されていくことを願っている。

世古口：原点に戻って、私たちは何を目指しているのか、目指していくのかを確認していきたい。

松岡：「力強い市民セクターの形成」について、最初さっぱり分からなかったが、イメージができるようになった。全てが繋がっている、グループをネットワーク化して強くしていくことが大切だとわかった。横串をさしてネットワークを強化していくことで地域に貢献できる。

青木：冒頭から重たいテーマだった。こういう議論ができる場が良いし大切である。松岡さんに率直に言っていただいていたことが良かった。お互いの意見交換で理解が深まり、気づきができて、まさしく市民セクターだと思った。

## 別表 2020年度第2回外部委員会 出席表

### ■外部委員（敬称略）

	名 前	所 属	出 欠
1	青木 研輔	東大手の会 代表	○
2	岩脇 圭一	津市議会議員	○
3	世古口 文子	NPO法人めいわ市民活動サポートセンター 代表理事	○
4	松岡 俊秀	三重森林インストラクター会	○

### ■三重県・指定管理者

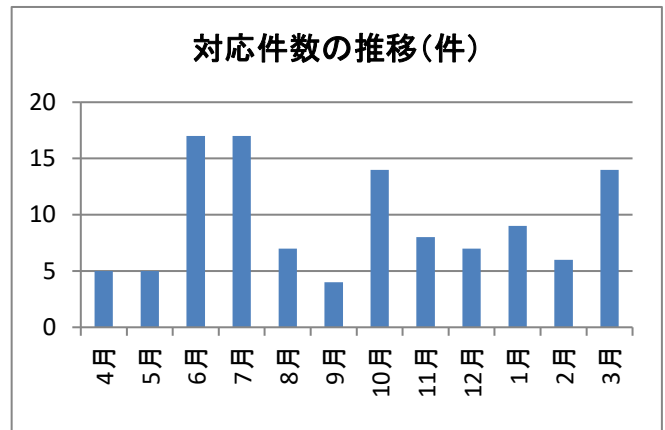
	名 前	所 属	出 欠
1	小川知佐子	三重県生活環境部ダイバーシティ社会推進課多文化共生班 副課長	×
2	牧田 拓巳	三重県生活環境部ダイバーシティ社会推進課NPO班 班長	○
3	松井真理子	特定非営利活動法人みえNPOネットワークセンター 代表理事	○
4	新海 洋子	みえ市民活動ボランティアセンター センター長	○
5	佐藤 玲子	みえ市民活動ボランティアセンター 副センター長	○

## 2020年度 相談記録年間集計(2020年4月1日～2021年3月31日分)

### 相談等の対応件数の推移

	件数
4月	5
5月	5
6月	17
7月	17
8月	7
9月	4
10月	14
11月	8
12月	7
1月	9
2月	6
3月	14
合計	113

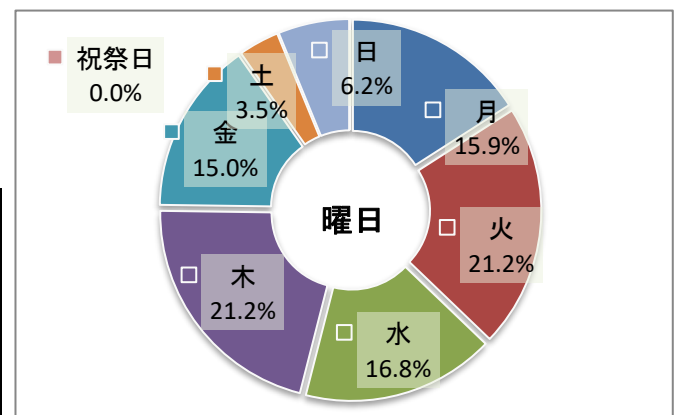
N=113



### 相談対応をした曜日

	件数	%
月	18	15.9
火	24	21.2
水	19	16.8
木	24	21.2
金	17	15.0
土	4	3.5
日	7	6.2
祝祭日	0	0.0
合計	113	100

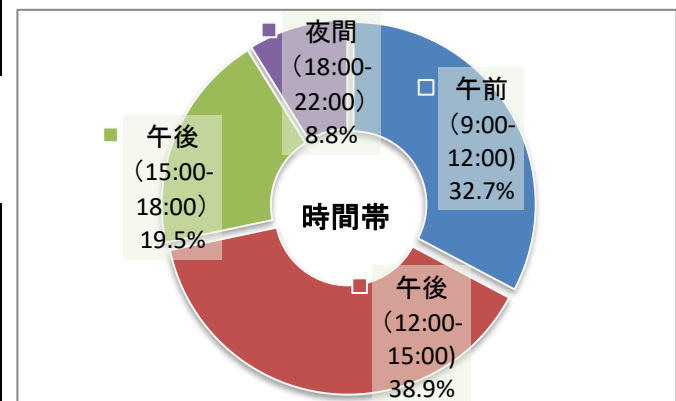
N=113



### 相談対応をした時間帯

	件数	%
午前(9:00-12:00)	37	32.7
午後(12:00-15:00)	44	38.9
午後(15:00-18:00)	22	19.5
夜間(18:00-22:00)	10	8.8
合計	113	100

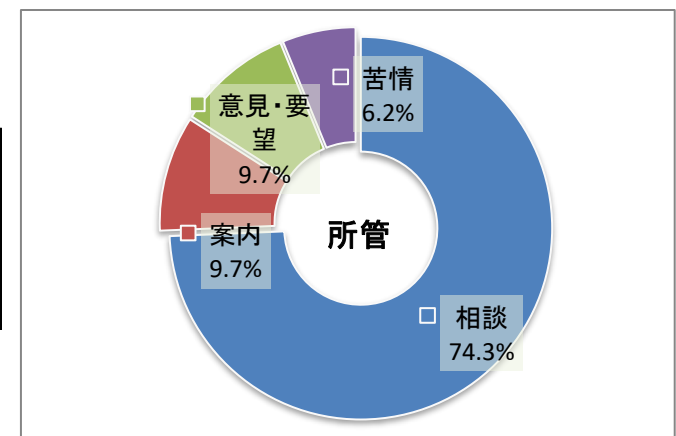
N=113



### みえ県民交流センターでの相談業務(所管)

	件数	%
相談	84	74.3
案内	11	9.7
意見・要望	11	9.7
苦情	7	6.2
合計	113	100

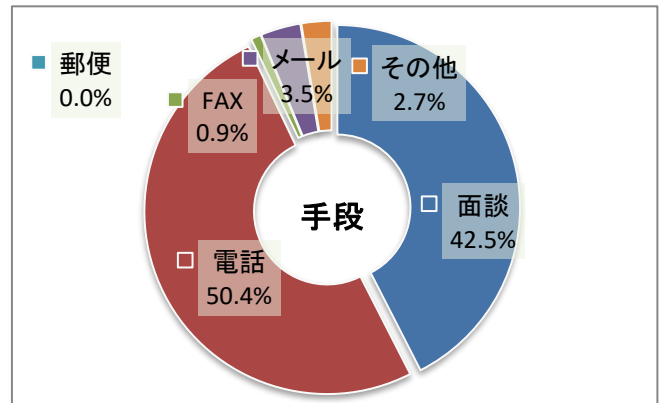
N=113



みえ県民交流センターでの相談業務(手段)

	件数	%
面談	48	42.5
電話	57	50.4
FAX	1	0.9
メール	4	3.5
郵便	0	0.0
その他	3	2.7
合計	113	100

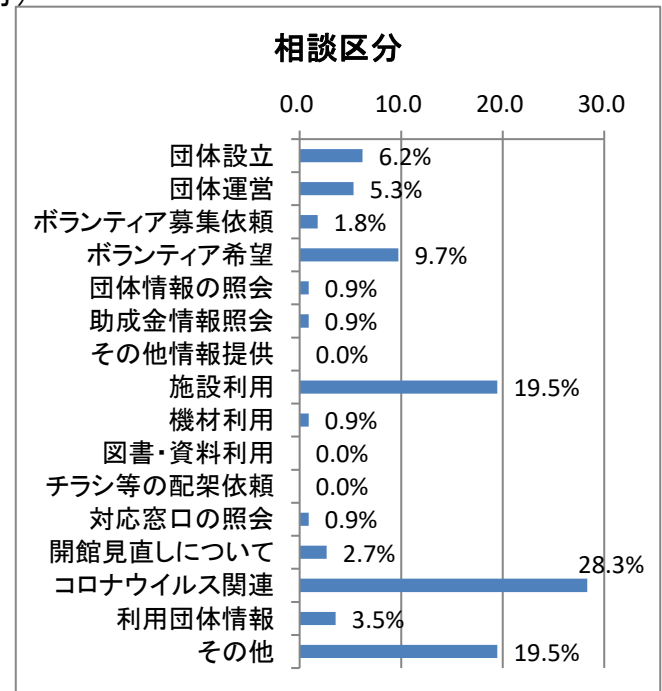
N=113



みえ県民交流センターでの相談業務(相談区分)

	件数	%
団体設立	7	6.2
団体運営	6	5.3
ボランティア募集依頼	2	1.8
ボランティア希望	11	9.7
団体情報の照会	1	0.9
助成金情報照会	1	0.9
その他情報提供	0	0.0
施設利用	22	19.5
機材利用	1	0.9
図書・資料利用	0	0.0
チラシ等の配架依頼	0	0.0
対応窓口の照会	1	0.9
開館見直しについて	3	2.7
コロナウイルス関連	32	28.3
利用団体情報	4	3.5
その他	22	19.5
合計	113	100

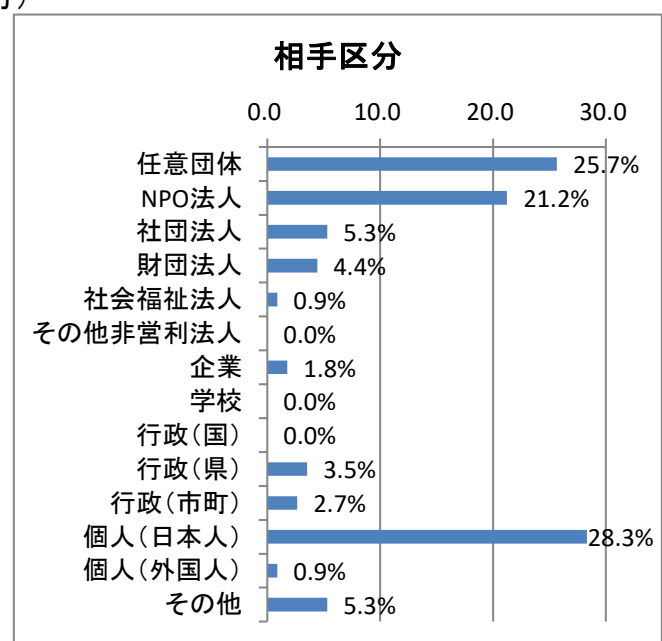
N=113



みえ県民交流センターでの相談業務(相手区分)

	件数	%
任意団体	29	25.7
NPO法人	24	21.2
社団法人	6	5.3
財団法人	5	4.4
社会福祉法人	1	0.9
その他非営利法人	0	0.0
企業	2	1.8
学校	0	0.0
行政(国)	0	0.0
行政(県)	4	3.5
行政(市町)	3	2.7
個人(日本人)	32	28.3
個人(外国人)	1	0.9
その他	6	5.3
合計	113	100

N=113



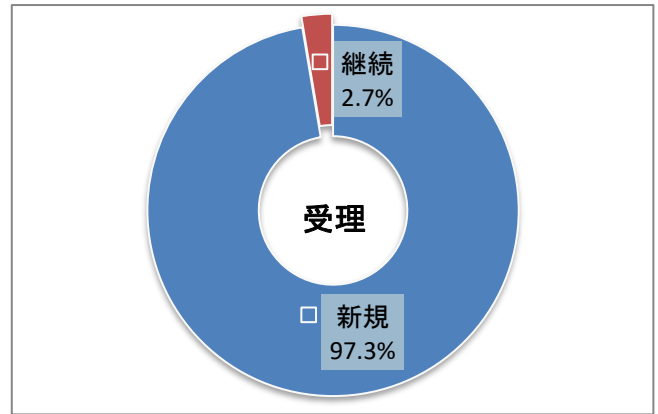
みえ県民交流センターでの相談業務(受理)

	件数	%
新規	110	97.3
継続	3	2.7
合計	113	100

N=113

新規: 該当する相談について、新規の相談であった場合

継続: 該当する相談が、2回目以上の相談であった場合



みえ県民交流センターでの相談業務(結果)

	件数	%
完結	82	72.6
継続	30	26.5
送致	1	0.9
不調	0	0.0
合計	113	100

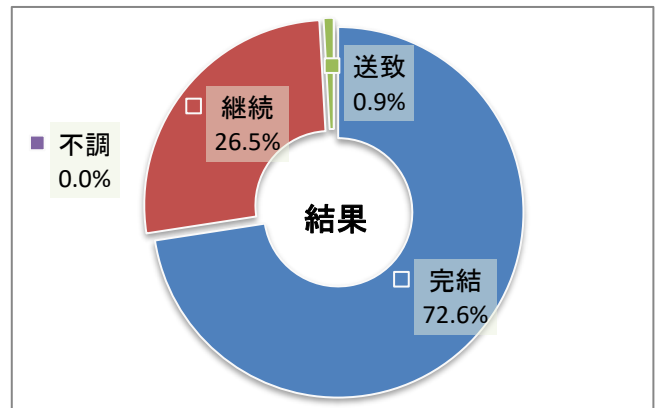
N=113

完結: 相談への回答や案内が完結した状態

継続: 相談への回答や案内を次回へ持ち越した場合

送致: 相談によりふさわしい他機関を案内した場合

不調: 解決に至らない結果となった場合





# 新型コロナウイルス感染症拡大対策 に関する緊急アンケート

## 報告書 (概要版)

令和2年5月19日

みえ市民活動ボランティアセンター

(三重県・特定非営利活動法人みえ NPO ネットワークセンター)

## 【調査概要】

<b>目的</b>	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行うことにより、多くの NPO・市民活動団体が影響を受けている。その影響の実態把握を行い、適切な支援や対応の検討を行うことを目的に、県内中間支援組織と連携して実態調査を行った。
<b>期間</b>	2020年4月16日～4月30日（2週間）
<b>方法</b>	WEBによるアンケート
<b>送付数</b>	691件（三重県内 NPO・市民活動団体 等）
<b>回答数</b>	219件（三重県内 NPO・市民活動団体 等）
<b>回収率</b>	31.7%
<b>実施主体</b>	みえ市民活動ボランティアセンター （三重県・特定非営利活動法人みえ NPO ネットワークセンター）
<b>協力</b>	三重県内中間支援組織・市民活動センター

## <アンケート結果のまとめ>

### 設問 1. 団体への影響

92.2%の団体は影響を受けている（かなり 58.0%、少し 34.2%）

#### （1）影響の内容

- ・活動・イベントの中止・延期、総会・理事会の中止
- ・サービス提供制限（要介護者・高齢者への訪問制限、各種居場所の閉鎖、病院通訳等）
- ・利用者・利用者家族・スタッフの精神的ストレス、スタッフの過重労働
- ・委託事業中止のため収入減、下請け業務の激減、団体の存続及び活動の継続の不安 など

#### （2）それへの対応

- ・事業の日時・会場の変更・延期・内容変更
- ・メール会議や書面総会への切り替え、オンライン活用
- ・スタッフの活動時間の短縮・雇用調整      ・助成金や給付金の利用検討 など

### 設問 2. 団体の利用者への影響

84.0%の団体の利用者が影響を受けている（かなり 46.6%、少し 37.4%）

#### （1）影響の内容

- ・直接、社会サービスを提供している利用者への影響は深刻  
    要介護者とその家族、一人暮らし高齢者、子どもたち、一人親や共働きなどの子育て世帯、  
    障がい者、外国人、生活困窮者などの心身のストレスへのケアやサービスが不十分
- ・作業所や施設等で働いているスタッフの雇用環境の悪化      ・マスクや消毒薬の不足 など

#### （2）それへの対応

- ・精神的ストレスを抱えている方への電話による対応や、不安の解消につながる活動  
    自宅でできる運動や学習の提案、ZOOM やラインなどオンラインによる情報提供、手紙や  
    FAX を利用しての励まし合いやつながりの確認など、団体の専門性やネットワークを活用して  
    実施
- ・マスクや食料の配布 など

### 設問 3. 団体が貢献できること

- ・高齢者の安否確認、子育て情報オンラインの立ち上げ、子どもなどが音楽に親しむ場の提供、  
メンタル面のサポート、外国人のサポート、生活困窮者への支援、ネットで資金を募る、マスクの  
流通 など

### 設問 4. 行政・中間支援組織等に対する要望等

- ・マスクや消毒液など緊急に必要なものの提供
- ・不安を抱えている人へのサービスの再開支援
- ・多様な用途に対応できる助成金の提供、経済支援の迅速化
- ・テレワークシステムやテレビ会議システムの構築にかかる費用の支援
- ・多様な情報をまとめた情報発信と相談窓口の設置、中間支援組織による多様な分野におけるきめ細かな相談 など

## **設問 5. 事業の中止・延期による支払状況（行政等の委託料・助成金・補助金等）**

2019 年度の行政等の委託料・助成金・補助金において、中止・延期による支払状況については、委託者や事業進捗等の条件によって様々であった。

### **<アンケート結果を受けて>**

緊急アンケートであったにもかかわらず、約 1/3 の市民活動団体・NPO から、詳細な記述を含む回答があり、各団体及びその利用者が、切実で深刻な状況にあることが把握できた。

新型コロナウイルスの感染に伴う影響は、スタッフと利用者の安全確保のための活動の中断が、市民活動団体・NPO 特有の、その対象とする「人」、特に、高齢者、子ども、障がい者障害、外国人など、脆弱な環境にある人々とのきめ細かなつながりの分断や孤立をもたらし、これへの対応が急務となっている。また、団体それ自体へも大きな経済的・運営的な影響を及ぼしている。

一方、「人と人との関係性」による活動を展開している市民活動団体・NPO であるからこそ、新型コロナウイルス感染拡大がもたらしているこの現状に、どのように対応することができるのか、何ができるのか、を模索していることも十分に把握され、三重県の市民活動団体・NPO の新しいポテンシャルもうかがえる。

このような結果を受けて、以下のことを検討、実施したい。

各地域の中間支援組織や行政等と連携しながら、早急に取り組むべきことを検討し、推進していきたい。

第 1 に、市民活動団体・NPO が活動の対象としている、脆弱な環境にある利用者等へのサービスの再開と継続に向けた支援である。

物資(マスク、消毒液、食料など)の提供（仲介）のほか、高齢者、子ども、障がい者障害がある人、外国人など、脆弱な環境にある人々に対する活動に必要な資金確保の支援、オンライン会議等のサポート、相談窓口の設置などである。

第 2 に、市民活動団体・NPO 自身の存続に向けた支援である。

上記 1 と同様不可欠な物資、資金確保、オンライン会議等への支援や相談窓口の設置に加えて、政府や自治体による様々な施策について、特に資金面に関する情報を中心に、市民活動団体・NPO にとって関連の深い情報をわかりやすく整理・提供し、申請のサポートも行う。

今回のアンケートをもとに、各地の中間支援組織、市町と相談・検討をし、利用者や団体が抱える課題が少しでも緩和・解消され、市民活動団体・NPO だからこそ提供できるサービスが継続的に実施できるよう役割を果たす所存である。

### **<アンケート結果のまとめ>**

#### **設問 1. 団体への影響**

**92.2%の団体は影響を受けている（かなり 58.0%、少し 34.2%）**

##### **(1) 影響の内容**

・活動・イベントの中止・延期、総会・理事会の中止

- ・サービス提供制限（要介護者・高齢者への訪問制限、各種居場所の閉鎖、病院通訳等）
- ・利用者・利用者家族・スタッフの精神的ストレス、スタッフの過重労働
- ・委託事業中止のため収入減、下請け業務の激減、団体の存続及び活動の継続の不安 など

## （２）それへの対応

- ・事業の日時・会場の変更・延期・内容変更
- ・メール会議や書面総会への切り替え、オンライン活用
- ・スタッフの活動時間の短縮・雇用調整      ・助成金や給付金の利用検討 など

## 設問 2. 団体の利用者への影響

84.0%の団体の利用者が影響を受けている（かなり 46.6%、少し 37.4%）

### （１）影響の内容

- ・直接、社会サービスを提供している利用者への影響は深刻  
     要介護者とその家族、一人暮らし高齢者、子どもたち、一人親や共働きなどの子育て世帯、障がい者、外国人、生活困窮者などの心身のストレスへのケアやサービスが不十分 ※
- ・作業所や施設等で働いているスタッフの雇用環境の悪化      ・マスクや消毒薬の不足 など

### （２）それへの対応

- ・精神的ストレスを抱えている方への電話による対応や、不安の解消につながる活動  
     自宅でできる運動や学習の提案、ZOOM やラインなどオンラインによる情報提供、手紙や FAX を利用しての励まし合いやつながりの確認など、団体の専門性やネットワークを活用して実施
- ・マスクや食料の配布 など

## 設問 3. 団体が貢献できること

- ・高齢者の安否確認、子育て情報オンラインの立ち上げ、子どもなどが音楽に親しむ場の提供、メンタル面のサポート、外国人のサポート、生活困窮者への支援、ネットで資金を募る、マスクの流通 など

## 設問 4. 行政・中間支援組織等に対する要望等

- ・マスクや消毒液など緊急に必要なものの提供
- ・不安を抱えている人へのサービスの再開支援
- ・多様な用途に対応できる助成金の提供、経済支援の迅速化
- ・テレワークシステムやテレビ会議システムの構築にかかる費用の支援
- ・多様な情報をまとめた情報発信と相談窓口の設置、中間支援組織による多様な分野におけるきめ細かな相談 など

## 設問 5. 事業の中止・延期による支払状況（行政等の委託料・助成金・補助金等）

2019 年度の行政等の委託料・助成金・補助金において、中止・延期による支払状況については、委託者や事業進捗等の条件によって様々であった。

## <アンケート結果を受けて>

緊急アンケートであったにもかかわらず、約 1/3 の市民活動団体・NPO から、詳細な記述を含む回答があり、各団体及びその利用者が、切実で深刻な状況にあることが把握できた。

新型コロナウイルスの感染症に伴う影響は、スタッフと利用者の安全確保のための活動の中断が、市民活動団体・NPO 特有の、その対象とする「人」、特に、高齢者、子ども、障がい者、外国人など、脆弱な環境にある人々とのきめ細かなつながりの分断や孤立をもたらし、これへの対応が急務となっている。また、団体それ自体へも大きな経済的・運営的な影響を及ぼしている。

一方、「人と人との関係性」による活動を展開している市民活動団体・NPO であるからこそ、新型コロナウイルス感染拡大がもたらしているこの現状に、どのように対応することができるのか、何ができるのか、を模索していることも十分に把握され、三重県の市民活動団体・NPO の新しいポテンシャルもうかがえる。

このような結果を受けて、以下のことを検討、実施したい。

各地域の中間支援組織や行政等と連携しながら、早急に取り組むべきことを検討し、推進していきたい。

第 1 に、市民活動団体・NPO が活動の対象としている、脆弱な環境にある利用者等へのサービスの再開と継続に向けた支援である。

物資（マスク、消毒液、食料など）の提供（仲介）のほか、高齢者、子ども、障がい者、外国人など、脆弱な環境にある人々に対する活動に必要な資金確保の支援、オンライン会議等のサポート、相談窓口の設置などである。

第 2 に、市民活動団体・NPO 自身の存続に向けた支援である。

上記 1 と同様に不可欠な物資、資金確保、オンライン会議等への支援や相談窓口の設置に加えて、政府や自治体による様々な施策について、特に資金面に関する情報を中心に、市民活動団体・NPO にとって関連の深い情報をわかりやすく整理・提供し、その申請のサポートも行う。

今回のアンケートをもとに、各地の中間支援組織、市町と相談・検討をし、利用者や団体が抱える課題が少しでも緩和・解消され、市民活動団体・NPO だからこそ提供できるサービスが継続的に実施できるよう役割を果たす所存である。

## 災害に関する活動調査結果より（2018年度、2020年度実施/一部抜粋）

### 1. アンケート対象

対 象	三重県内 NPO 法人	254 団体/692 団体（36.7%）	2018 年度実施
	三重県内任意団体（市民活動団体）	106 団件/330 件（32%）	2020 年度実施

### 2. アンケート結果（一部抜粋）

#### （1）災害支援活動（災害救援・復興支援活動）についての考え（自由記述）

##### ① NPO 法人対象

##### ア) 北勢地域

##### （団体の取組）

- ・子ども達に震災への心構えと備えを常に話している。
- ・人のために動ける人になれるよう伝えながら、チャリティーグッズを制作しその売上金を義援金として現地に送る活動
- ・公園管理が主活動なので、その延長線上での支援。
- ・大雨等の災害によって（御在所岳の）登山道が崩壊した場合には復旧活動を行っている。
- ・定款の変更も含めて、事業追加の検討。
- ・防災士の資格者や防災士講習会の講師を務めた会員がいる。
- ・保有している機材を持ち出して支援活動に協力
- ・会の活動に準じた活動で参加したい。ヘルメット、スコップ等は準備できる。
- ・森林の関係者は人的資材などほとんど共通している。
- ・防災と林業は横につながる必要がある。
- ・若いママたち向けの防災教室
- ・日頃からの防災意識を高める。
- ・団体、組織で行いたいし、参加する。
- ・災害時であっても通常の活動が支援活動になる。
- ・ボランティアへの前向きな気持ちは持っている。
- ・支援・協力要請の情報を会員に届けることはできる。
- ・情報提供
- ・IC が専門であるため情報に対して活動ができれば。
- ・基本的に支援者 1 人が被支援者 1 人、または 1 世帯に対応しています。
- ・会員各個人が自分の家族や知人の安否確認や必要な対応を行った後、余裕があれば被支援者・世帯の安否確認や支援を行う。
- ・支援者 1 人の手に負えなければ、他会員や知人にも協力を求めます。
- ・要援護支援制度が確立されており、避難場所における各班の役割分担もされているので、指示に従って行動します。
- ・災害救援活動のノウハウがなく、義援金以外の活動はなかなかできません。
- ・募金のような形でしか参加できない。

- ・障害がある方々への配慮があたりまえに提供される日を目指して各種の活動。
- ・今後組織内で検討しなければならない。
- ・会員は高齢者が多いので、できる範囲での活動となる。
- ・団体での活動の前に個人でできる募金がありますが、その金額の使い途が定かでない場合があります。本当に困っている方々に少しでも多くの金銭的支援ができていますのか疑問です。

### **(支援活動が難しい)**

- ・救援活動に行き、手伝いをする余裕はない。
- ・災害時に自分たちの施設利用者をいかに安全に守れるかを考える事で精一杯。
- ・自身の子どもや会員の子が障害者の為、自分の事で精一杯。
- ・小規模な法人であるため、活動を行うことは不可能。
- ・余力がなく、組織として被災地に行ったり、特別な取組みをするのは無理。
- ・災害支援活動は難しい。
- ・高齢者が多いため、活動は難しい。
- ・このような活動に対しては、予算化していません。
- ・仕事が休めないとか、遠方であったりするため、なかなか決断をしきれないのが現状。
- ・いざといった時、かけつけたくても状況が詳しく分からないといけないし、また交通機関の情報も分からなければ、二次災害にも繋がる。
- ・会員は年金生活者が多く、被災地へ出向いて活動を行うことは考えていません。

### **(提案)**

- ・社会的に弱者になりうる人たちの災害時もその方たちの居場所をどのように提供していくか。
- ・避難所における福祉避難コーナー（福祉避難所ではありません）の必要性。
- ・高齢者世帯の安否確認をまず行いたく、その為のネットワークづくりを作成したい。
- ・地域で日頃から支援体制を整えておく。
- ・地域で活動している各団体のつながりを生かして、体制づくりを進めていただければ。
- ・女性・ママ・子どもに優しいしくみづくり（授乳スペース、子どもの遊び場など）。
- ・情報をより詳しく早く伝わる方法を定める事が大切。
- ・事前の災害地に対する予防意識。ドローンによる行方不明者捜索等の訓練。



## イ) 中勢地域

### (団体の意見)

- ・被災のいのちの電話に対する支援体制の構築を検討。災害がおこった際の迅速な対応（支援）。
- ・成年後見を行っている被後見人さんの支援を行うことが、最優先。
- ・地元で専門性を生かしたこどものケアや・医療ケアなど人手が不足しており、自分たちの生きる場を見つけて活動
- ・チャリティ展での売上を寄付
- ・在宅医療、介護が中心のため、受け持ちの患者、利用者、またスタッフおよび家族の安全確保が優先。余力があるところで支援を実施。
- ・災害時に保育園が地域の方の避難場所として使用することができるので、場所を提供することができる。
- ・日頃から地域の方とコミュニケーションを密にとっておきたい。
- ・災害の起きた場所、内容、規模によってできる活動もある。
- ・心のケアを中心に、できる事をしていきたい。
- ・アーティストの作品にふれていただくことで、「心」に「一瞬のゆとり」を持っていただき、明日への希望を見出していただけのような活動。
- ・災害時に避難が（困難な）障がい者の存在に心を痛めています。避難所生活が難しい方もおられますので、そういった方々やその家族の支援。
- ・地域の自主防災活動を活性化していくようにサポートセンターとして、いろんな情報提供等を行ってきたい。
- ・町と社協との三者協議も昨年からは実施して、それぞれができることなど、また協力し合えることなどを話し合っている。
- ・障がいの方々と何か身近にできる事があれば、できる範囲で取り組んでいきたい。
- ・地域の方々と協力して災難を乗り越えていけるように心の準備、危機管理に取り組んでいきたい。
- ・利用者の安全確保や普段通りに近い生活に戻せた後、我々にお手伝いできる事があれば、手伝いたい。
- ・個人の家族や仕事の調整をし、できるだけの災害支援活動を行っていくことは、当たり前。
- ・希望があれば、いつでも飛んで行きます。
- ・災害を受けるのは、明日は我が身です。
- ・元気なうちは、他人さまの役に立ちたいです。"
- ・他の方の痛みは、自分たちの痛みと受け止め、お互い助け合っていきたい。
- ・災害支援ボランティア活動に興味を持っているメンバーが数多くいるので、日程があえば今後も積極的に活動。
- ・日頃のフットワークをネットワークに生かしたい。
- ・できる活動はしていきたい。
- ・無理のない限り、救援活動（物資やボランティア）をさせていただきたい。
- ・3日間ぐらいは自分たちで頑張れるよう、缶詰や非常食、炊き出し用の釜は準備。近隣で必要な際は、提供したい。
- ・災害登録者を優先的に派遣可能なシステムづくりを構築中です。
- ・日常活動に関する活動でできる範囲の支援。
- ・義援金を送る。
- ・「昔からの方法で生活体験」の活動技術はお役に立てる。

### (支援活動が難しい)

- ・国際交流を中心に活動しており、災害救援活動については話し合い等をしたことがありません。
- ・未然の災害防止準備を万全にするのは難しい（多くが想定外であるため）。
- ・勤務の都合や年齢のことを考えて、行動することをためらう。
- ・日頃から意識していないと、いざという時に活動できない。日々の業務に追われて暇がなく、つい後まわしになっている。
- ・ボランティア活動ができるかどうかは消極的とならざるをえないところがある。
- ・災害支援活動に組織として取り組むことは難しい面が多い。

### (提案)

- ・どういった支援が必要かをわかる様な連絡網があるとよい。
- ・ボランティア等で災害時の様子など高齢者や障がい者施設へまわって頂けるとよい。（例えば非常食の試食、避難の仕方、実際にあった話など）
- ・どのような形でボランティアに協力できるかわからないまま過ぎてしまう人も多いと。
- ・継承の必要性。
- ・「起こった後、どう命をつなぐか」はとても重要であり、「あるものを活用してライフラインを確保するノウハウ」等の蓄積。
- ・日常生活を大切にしたい支援をどこまで提供できるか、地域や社会資源と連携して行う必要がある。
- ・物資の搬入、人のパワー等、地域で考えることも必要。
- ・その後における継続可能な支援が大切である。心のケアという見えない支援を積極的に行い、人々の自立、勇気、元気を確立する事が求められる。
- ・内面の幸福をないがしろにしてはならない。
- ・実際に想定した訓練を未だ行っておらず、今後は県行政、法人団体等と連携を取り、スムーズな活動を行えるようにしていきたい。

## ウ) 伊勢志摩地域

### (団体の取組)

- ・できる事をまたスタッフ間だけでなく、利用者さんも含めて、改めて話をしたい。
- ・募金くらいならできます
- ・各地域における市民同士や団体との連携が乏しい。
- ・文化財の被災や復興に関心がある。
- ・登録文化財など、被災した際に大きな助けのない文化財への支援
- ・支援活動について具体的に考えた事はなく、案件があった場合、有志をつのる事ができる。
- ・小学校の敷地内の施設で活動しているので、指定避難所にはなっていませんが、何かお手伝いできる事がある。

### (支援活動が難しい)

- ・平均年齢 72 歳の高齢会員のため、よそへ出かけての救援活動などはできない。
- ・年配（65 歳以上）と小中学生の会員の割合が多いことにより、いざという時に動けるか不安。
- ・私たちは自分のできることを行うのが精一杯。
- ・活動も何をしてよいのか分からない。

### (提案)

- ・さまざまな分野の方が、自らの課題としてとらえていただければいい。
- ・災害が起きた状況により、救援・復興等、その時の判断が重要。
- ・過去の復興支援活動等で障がい者に対してどのような支援が行われていたのかを改めて知る事により、今後、災害が起こった際に自分たちがすべき事、できる事等を早急に見直さなければならない。
- ・NPO を名乗るからには災害救援活動を義務づける方向でご検討いただくことでどうでしょうか。
- ・共助や自助に何をどこまで求めるのか。共助を強化しようとするなら、仕組みが必要。
- ・意識や主体的に活動する人は共助を強化しようとするなら、仕組みが必要。
- ・意識や主体的に活動する人は増加（傾向）。
- ・家族用のライフジャケットを備える対策が重要。
- ・女性・子ども専用の避難場所が必要。
- ・障がいをもった方のケア、通所における一時的な避難確保等の問題が出てくる。
- ・支援者の人手が必要。
- ・個人の価値をどこまでコントロール（組織的な活動）できるか。
- ・被災した場合、行政のコーディネート力に期待がかかります。
- ・行政が先頭に立ち行うべき。
- ・行政職員の方々には、しっかりと訓練を行っていただきたい。

## 工) 伊賀地域

### (団体の取組)

- ・南三陸町へ行った経験を生かしてイベントや募金活動を継続。
- ・避難所での多文化対応（アドバイス）
- ・外国人住民などからの相談・通訳派遣
- ・多言語センターの運営やそのスタッフの派遣
- ・話し相手となる
- ・井戸が使用できるため（飲料は不可）、トイレ等に使用。
- ・各家庭より食料の備蓄があるため、施設を使用。
- ・宿泊人数も多少は（20～30名）確保。
- ・今、高齢者の介護・支援を主に展開。地域に根づいた活動が大きな課題。災害等小規模ながら地域の1組織としてお役に立ちたい。
- ・障がいのある方をつれて被災地へ行くことはできませんが、募金活動なら現実的に可能。
- ・「できること」を常に考えることを信条としていますので、今後、課題として考えたい。

### (提案)

- ・会員が高齢のため、活動できる事は限られているが、自分たちのできる事があれば活動したい。

## オ) 東紀州地域

### (団体の取組)

- ・県立の施設であるが、正式に県の災害避難所としての指定はないが、大災害が起これば、住民の方が避難してくる事は容易に想像され、その場合は、市や県の指示・応援を受けながら、出来るだけの事はしたい。
- ・災害を受けた場合の対策に力を入れている。
- ・災害地への支援については、過去にも対応（カンパ、物資の送付）している。
- ・障害者施設であるので、避難された人の内、利用者を含め、障害者の方で大勢の中での避難生活が困難な人に（避難）場所の提供等。
- ・休日を使つての災害支援活動
- ・防災意識を高められるよう、避難訓練の実施（月1回）
- ・災害があっても生活できるように「あそび」を通して学んでもらっている。
- ・キャンプ場、宿泊施設という設備とアウトドアのノウハウを活用して、避難場所としての提供
- ・地域的に災害が発生することが確実なため、防災の拠点をかまえている。

### (提案)

- ・自分たちも支援を必要としている地域があれば現地に行き、支援を行いたい。また起こる可能性のある災害に対する備えにもなる。

## カ) 総括

各地域（5 地域）において、団体の専門性や団体の活動をベースにした災害支援の取組が実践されていた。一方で、会員が高齢のため、利用者の安全・安心確保が第一のため、活動が多忙で考え切れてない、といった理由で、取組の必要性感じつつも、実施できていない団体もあった。しかし、「できることはしたい」という意見もあった。

今後はこういった団体といかに連携し、防災及び災害被害を最低限に抑えるための仕組み、団体の負担を軽減し、それぞれの状況にあった参加が可能になる仕組みづくりが求められる。

また、下記のような提案が挙げられた。どれの重要な提案であるため、今後県域、地域で中間支援組織が整理をして、優先順位をつけて、ひとつずつ形にすることで、今の課題の解決・改善につながるだろう。

### （防災・災害時の被害・負担を低減する仕組みづくり）

- ・社会的に弱者になりうる人たちの災害時もその方たちの居場所をどのように提供していくか。
- ・避難所における福祉避難コーナー（福祉避難所ではありません）の必要性。
- ・高齢者世帯の安否確認をまず行うためのネットワークづくり
- ・地域で日頃から支援体制を整えておく。
- ・地域で活動している各団体のつながりを生かして、体制づくりを進める。
- ・女性・ママ・子どもに優しいしくみづくり（授乳スペース、子どもの遊び場など）。
- ・実際に想定した訓練を未だ行っておらず、今後は県行政、法人団体等と連携を取り、スムーズな活動を行えるようにしていきたい。
- ・さまざまな分野の方が、自らの課題としてとらえていただければいい。
- ・NPO を名乗るからには災害救援活動を義務づける方向でご検討いただくことでどうでしょうか。
- ・共助や自助に何をどこまで求めるのか。共助を強化しようとするなら、仕組みが必要。
- ・意識や主体的に活動する人は共助を強化しようとするなら、仕組みが必要。
- ・被災した場合、行政のコーディネート力に期待がかかります。
- ・行政が先頭に立ち行うべき。
- ・行政職員の方々には、しっかりと訓練を行っていただきたい。

### （情報）

- ・情報をより詳しく早く伝わる方法を決める。
- ・事前の災害地に対する予防意識。ドローンによる行方不明者捜索等の訓練。
- ・どういった支援が必要かをわかる様な連絡網。
- ・ボランティア等で災害時の様子を把握するために高齢者や障がい者施設にまわる。  
（例えば非常食の試食、避難の仕方、実際にあった話など）
- ・どのような形でボランティアに協力できるかわからないまま過ぎてしまう人も多い。

### （事前対策）

- ・継承の必要性。
- ・「起こった後、どう命をつなぐか」はとても重要であり、「あるものを活用してライフラインを確保するノウハウ」等の蓄積。
- ・日常生活を大切にしたい支援をどこまで提供できるか、地域や社会資源と連携して行う必要がある。
- ・物資の搬入、人のパワー等、地域で考えることも必要。
- ・過去の復興支援活動等で障がい者に対してどのような支援が行われていたのかを改めて知る事により、今後、災害が起こ

った際に自分たちがすべき事、できる事等を早急に見直さなければならない。

- ・家族用のライフジャケットを備える対策が重要。
- ・女性・子ども専用の避難場所が必要。
- ・障がいをもった方のケア、通所における一時的な避難確保等の問題が出てくる。
- ・支援者の人手が必要。
- ・自分たちも支援を必要としている地域があれば現地に行き、支援を行いたい。また起こる可能性のある災害に対する備えにもなる。

#### **(事後対策)**

- ・その後における継続可能な支援が大切である。心のケアという見えない支援を積極的に行い、人々の自立、勇気、元気を確立する事が求められる。
- ・内面の幸福をないがしろにしてはならない。
- ・災害が起きた状況により、救援・復興等、その時の判断が重要。

②任意団体対象 ※2020 年度アンケート結果より抜粋

ア) 要支援者の災害時の支援活動について（主な意見）>

- ・障がい者がいるので、どういふサポートが必要となるか話し合っておく。
- ・最重度の知的・発達障害を抱える本人と家族が、災害時、どこでどうやって生きてゆくか。地域の方々の障害への理解が必要と思ひ、女性防災団体に参加（代表が）したばかり。救援や支援に出向く前に、同居している障害児を見守らねばならない。何を準備しどう過ごすのが良いか。
- ・子どもならではの力が発揮できるよう災害時に使える被災地でのワークショップを実施している。
- ・災害復旧復興時の医療支援に関する興味が強い。
- ・当地が被災したときに、避難所での認知症課題に絞ってできることを考えている。大規模災害に関わらず、避難所では認知症課題が早期から多発すると報告されており、それらの経験値から有事に活用できる平時の備えで最も大切なことは、多くのセクターを巻き込んでイメージ共有化しながら、オンライン・SNS 上のプラットフォーム作りではないかと考えている。

イ) 団体の支援活動（主な意見）

- ・ボランティアを募る。
- ・3 軒両隣の町内のつながりを活かした支援
- ・身辺の整理が済み、落ち着いてきた時点で心が不安になる。被災者の側に立って、心を寄り添わせて聴かせていただくことができる。被災した者が集まった場でも聴かせていただくと思う人が居れば、和んだ状況を作れる。
- ・援助活動に入っている方への通常の家事支援活動。
- ・（平時からの）多様性、男女共同参画の視点を持った災害支援活動の重要性
- ・募金で協力
- ・被災者の活力を取り戻すための交流機会作りや被災者への寄り添いなど、被災者ニーズへの対応を中心に活動。
- ・毎年チャリティ事業を開催して継続支援先（女性と女兒、女子学生、NPO 団体）をはじめ、災害時の為の寄付金として積立
- ・障がい者施設で利用者の付き添いをしたり、話し相手をしたりするボランティアなので、被災時も当該施設や地域の障がいのある方が困っていればお手伝いする。
- ・余暇活動支援なので、復興支援として同じような活動をする。
- ・災害の際は自力で地上にすみやかに移動は伝えている。
- ・環境整備、美化活動を手伝う。
- ・文化的な面で支援
- ・災害によって被害を受ける自然（天然記念物や希少種）の救援や破壊状況調査の協力
- ・災害活動の中に地表や空間線量の測定
- ・各自の地域の被害状況、話しあい解決等を、自治体への申し入れを行う。

ウ) 行政・企業への要望等（主な意見）

- ・情報が取りにくいので、県などが取りまとめ呼びかけてもらうと参加しやすい。

- ・企業には、ボランティア休暇を設ける様に指導してもらおうと取得しやすい。
- ・三重県等公的機関の後押しがあれば、もっと被災地で活動しやすい。
- ・可能なら多くのセクターとシェアして、三重県内など広域に連携を深めていきたい。
- ・公的責任で活動リードができることを望んでいます。

## エ) 他 (主なご意見)

- ・実際にこの地域に起こったら、何をしたいのかよくわからない。
- ・三重県内で災害が起きた時、会員の安否確認や災害地への支援を、どのように行うか、何が会としてできるか。
- ・ボランティア活動まで支援側に至れるか分からない。
- ・年齢が高いので、肉体労働を継続することは難しい。
- ・会員の年齢が高齢化し 80 歳以上ですので、体力的には無理ができないが、コロナウィルスの時にはマスクを手作りし 200 枚社協を通して出させてもらいました。
- ・高齢者が多いので出来る事が限られていますが、少しでもお手伝いが出来たらと思います。
- ・団体内としては募金活動くらいしかお役に立てることがないので、できる限りのことを支援したい。
- ・出来る時に出来る事を出来るだけして行きたい!
- ・ボランティア活動としてできる活動を考えていきたい。
- ・状況に応じて適時話し合いを行い、可能な支援、協力を行うよう努める。
- ・支援活動内容を決定し実施するが、出来る人が出来る事を無理せず行う。
- ・各団体ができることを進めていくのが無理なく良い。
- ・会員それぞれができることに無理なく取り組めばいい。
- ・お弁当の時間に防災会議を近所となり同志が行っている。
- ・自助できるノウハウを学び、段階を踏みながら共助、公助の手段を学び活かせる力強い団体にしていきたい。
- ・災害支援活動経験を積み重ねている他団体との密に情報共有を行いたい。また経験を生かした訓練等を重ねていきたい。
- ・災害ボランティア団体の活動情報を共有した。
- ・実体験に基づいたお話が聞けたらいい。
- ・災害の教訓を防災へ活かし、災害に強い町づくり、行動様式、インフラを構築する。
- ・ソフト面 (平時の防災会議や避難所運営、災害支援に必要な対応など) は置いてきぼりになっている。
- ・何らかの形で関わって行きたい。
- ・スフィア基準を基本として、その運営などにはあらゆる分野でのジェンダーの視点を含んで頂きたい。
- ・日頃から声をかけあい、仲良くしておく。

## オ) 総括

災害支援活動についての意見について聞き、回答を、団体の支援活動について、行政・企業への要望等について、要支援者の災害時の支援活動について、他、の4つの領域に分類した。

ア) については、「ボランティアを募る」「寄付金の積立」「地域の被害状況や解決策の自治体への申し入れ」の他、各団体の強味を活かした「傾聴」「和む状況をつくる」「家事支援」「多様性・男女共同参画の視点をもった活動」「被災者二



ーズの対応」「交流機会づくりや寄り添い」「自然環境の調査」などの活動支援内容が挙げられた。

イ) については、「県が情報収集をしとりまとめる」「企業にボランティア休暇を設けるように指導」「公的機関の後押し」「多様なセクターと共有した広域連携」「公的責任による活動リード」などがあつた。

ウ) については、障がい者に対してどういったサポートが必要なのか、最重度の知的・発達障がいのある人とその家族がどこでどうやっていきっていくのか、障がいのある人に対する地域の理解をどう得るか、何を準備すればよいのか、災害復旧時の医療支援はどうあつたらよいのか、避難所での認知症課題への対応、等が挙げられた。多様なセクターを巻き込んでイメージを共有し、オンライン（SNS）でのプラットフォームづくりの必要性、があげられた。

エ) については、各団体の実態について把握することができた。何をしたいのかよくわからない、少しでもお手伝いをしたい、できる限りの支援をしたい、無理なく取り組めばよい、自助のノウハウや共助・公助の手段を学び活かす強い団体にしたい、災害支援活動団体と情報・経験の情報共有をしたい、等である。

多くの団体が今日明日に起きてもおかしくない災害に対して、活動地域で起きた場合、活動地域以外の地域で起きた場合、それぞれに何ができるのかについて検討はしている。これまでの経験から、募金や物資の提供といった支援のスキルはもっている。また、団体の強みを活かした支援活動の展開を実施、検討している団体もある。

しかし、被災時に、より支援が必要となる、必要になる人々への具体的サポート、サポートの仕組みができていないように感じた。障がい児、重度の障害を持つ人とその家族、認知症課題への対応である。今回のアンケート対象や回答にはなかったが、外国にルーツを持つ人、そのコミュニティ、困窮者世帯などへの災害時のサポート対応を早急に作り出す必要がある。

多くの団体の意見にあつた、「できることはしたい」「高齢だけれどできることはしたい」「なにをしいのかわからない」に応えられる支援活動やしくみ、「自助のノウハウを学びたい」「共助、公助の手段を学び活かせる団体にしたい」「災害ボランティアの経験を学びたい」「情報を共有したい」など、必要性を感じている団体とのコミュニケーションを図ることも必要である。と同時に、行政や企業、多様なステークホルダーとの明確な役割分担と連携を可能にするプラットフォームの必要性、既にあれば、そのプラットフォームとの連携をはかる中間支援機能の充実・強化も必要である。

アンケート結果から明らかになった、団体及び地域ニーズに応えられる仕組みや支援活動の創出が早急に求められている。

2020年度 みえ県民交流センター指定管理業務  
対象期間:2020年4月1日～2021年3月31日

発行:2021年5月31日

---

みえ県民交流センター指定管理者  
特定非営利活動法人みえNPOネットワークセンター

〒514-0009 三重県津市羽所町700 アスト津3階  
みえ市民活動ボランティアセンター内

TEL:059-222-5995 / FAX:059-222-5971

Mail:center@mienpo.net / HP: <https://www.mienpo.net/>